

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-06

和仏法律学校講義録

矢作，榮藏

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

2-9

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

102

(発行年 / Year)

1902-01-29



0384

明治三十五年一月二十九日發行

(第貳部)

A5e
25
B9

三十四年度乙種講習科用

和佛法律學校講義錄

第九 第

法學士 矢作榮藏

經濟學各論

A5e
25
B9

法學士 矢作榮藏 講述

經濟學各論

和佛法律學校發行

法政大學圖書館

0385

經濟學各論

經濟學各論

新學文庫叢書

經濟學各論 目次

第一編 生產論	一
第一章 生產ノ意義	一
第二章 生產ノ要素	三
第一節 自然然	七
第一項 氣候	七
第二項 地勢	九
第三項 地味及ヒ地質	九
第四項 自然ノ動力及ヒ動力ヲ起ス資科ノ分配	一〇
第二節 勞資力	一一
第一項 勞力ノ意義	一二
第二項 勞力ノ分類	一三
第三項 勞力ノ分量	一四

經濟學各論 目次



174402

經濟學各論目次

三

第一項 勢力ノ生產力 一五

第二項 勢力ヲ爲ス人ノ感スル苦痛ノ分量 二三

第三項 資本本義 二四

第四項 資本ノ意義 二四

第五項 資本ヲ觀念ノ歴史的發達 二五

第六項 資本ノ內容 二九

第七項 資本ノ種類 三三

第八項 資本ノ生産ニ對スル效用 三八

第九項 資本ノ成立 三七

第十項 生產ノ組織 四六

第十一項 貨幣交易論 七一

第十二項 貨幣ノ職分 七一

第十三項 貨幣ノ性質 九三

第十四項 貨幣ノ鑄造法 九六

第十五項 貨幣制度 九八

第十六項 「ブレンチャム」法則 一〇一

第十七項 貨幣本位論 一〇三

第一章 信用	一
第一節 信用ノ定義	一六
第二節 信用ノ種類	一七
第三節 信用ノ成立要件	一八
第四節 信用ノ利害	一九
第一款 信用ノ利益	一九
第二款 信用ノ害	二〇
第二章 貨幣	二
第一節 貨幣ノ起源	八七
第二節 貨幣ノ職分	八九
第三節 貨幣ニ要スル性質	九三
第四節 貨幣ノ鑄造法	九六
第五節 貨幣制度	九八
第六節 「ブレンチャム」法則	一〇一
第七節 貨幣本位論	一〇三
第三章 貿易	三
第一節 貿易論	三
第二節 貿易ノ方法	三
第三節 貿易ノ組織	三
第四節 貿易ノ政策	三
第五節 貿易ノ問題	三
第六節 貿易ノ發展	三
第七節 貿易ノ未來	三
第四章 通貨	四
第一節 通貨論	四
第二節 通貨ノ種類	四
第三節 通貨ノ成り立	四
第四節 通貨ノ利害	四
第一款 通貨ノ利益	四
第二款 通貨ノ害	四
第五章 経済學各論	五
第一項 勢力ノ生產力	一五
第二項 勢力ヲ爲ス人ノ感スル苦痛ノ分量	二三
第三項 資本本義	二四
第四項 資本ノ意義	二四
第五項 資本ヲ觀念ノ歴史的發達	二五
第六項 資本ノ內容	二九
第七項 資本ノ種類	三三
第八項 資本ノ生産ニ對スル效用	三八
第九項 資本ノ成立	三七
第十項 生產ノ組織	四六
第十一項 貨幣交易論	七一
第十二項 貨幣ノ職分	七一
第十三項 貨幣ノ性質	九三
第十四項 貨幣ノ鑄造法	九六
第十五項 貨幣制度	九八
第十六項 「ブレンチャム」法則	一〇一
第十七項 貨幣本位論	一〇三
第十八項 生產論	一〇四
第十九項 分業論	一〇四
第二十項 生產組織論	一〇四
第二十一項 生產政策論	一〇四
第二十二項 生產問題	一〇四
第二十三項 生產未來論	一〇四

第五章 貨幣ノ代用物	一一一
第六章 銀行	一二六
第一節 銀行ノ性質	一二六
第二節 銀行ノ種類	一二八
第一款 農業銀行	一二八
第一項 農業銀行ノ起源及ヒ其沿革	一二八
第二項 農業銀行ノ功績	一五二
第二款 工業銀行	一五三
第三款 商業銀行	一五四
第四款 紙幣發行銀行	一五九
第七章 手形交換所	一六一
第三編 貨財分配論	一六二
第一章 分配ト取得	一六二

第二章 地代	一六五
第三章 貸錢	一七一
第一節 貸錢ノ意義	一七一
第二節 貸錢支拂ノ形式	一七二
第三節 貸錢ノ決定	一七五
第四節 貸錢基金說	一八一
第四章 利子	一八三
第五章 企業利益	一八七

經濟學各論目次 終

經濟學各論

經濟學各論

第一章 生產ノ意義

第一章 生産ノ意義
外物ニ對シテ人ノ身體及ヒ精神ノ力ヲ適用スルコトニ由リテ有形ノ
山スルコトヲ云フ
ノ求ムルモノナリ人ハ種種ノ欲望ヲ有シ其満足ヲ望ムモノナリ不足
ノ満タサント欲スル切望ノ狀態ヨリ其欲スル事情ノ下ニ置カレンコ
スルモノナリ總テ世ハ因果ノ法則ニ依リテ支配セラルモノニシテ

人及ヒ人ノ欲スル境遇モ亦此法則ヨリ除外セラルモノニアラス故ニ吾人ノ切
望スル欲望ノ満足ト稱スル事情ハ原因ナクシテ發生スルモノニアラス切望ノ
狀態ヲ變シテ愉快ナル狀態ト爲スニハ相當ナル原因ナカルヘカラス此人ノ欲
望ヲ満タス手段即チ人人境遇ニ有益ナル變化ヲ惹キ起ス原因ヲ貨財ト云フ
有形ノ貨財又ハ貨物ト稱セラルモノハ自然界ノ一部ニシテ自然ノ法則ニ依
リテ支配セラルモノナリ人生ニ有用ナル形態ヲ具ヘタル物質ハ人力ノ干與
ヲ待タス物質及ヒ自然力ノ天然ノ結合ニ由リテ生シタルモノ少カラス此ノ如
キ物質ヲ名ケテ偶然ノ產物ト稱ス

偶然ノ產物ノ人生ニ對スル效用ハ決シテ少カラスト雖モ人ノ限ナキ欲望ヲ充
タスニ足ラス天然ニ存在スル物質ハ其性質形態千差万別ニシテ其種類枚舉ス
ヘカラス從テ物質ト自然力トヲ結合スル方法モ亦其數ニ際限アルコトナク其
結合ニ由リテ生スル結果モ亦數ヘ盡斯コト能ハサルナリ天然ニ發生スル物質
ト自然力トノ結合ハ其數甚タ多シト雖モ人ノ想像シ得ヘキ物質ト自然力トノ
結合ノ總數ニ比スレハ尙ホ少シト云ハサルヘカラス天然ノ結合中人生ニ有益

第二章 生產ノ要素

ナルモノニ至リテハ更ニ僅少ナリ故二人ハ自然ノ成行ニ放任セス進テ干涉ヲ
試ミ人力ヲ加ヘテ自然力ト物質トノ新ナル結合ヲ作リテ新ナル形態ヲ具フル
物質ヲ生セシム此ノ如ク自然力及ヒ物質ニ人力ヲ加ヘ吾人ノ欲スル有形貨財
ヲ現出セシムルコトヲ生產ト云フ

然ニ加フルニ當リ其結果トシテ直チニ消費貨物ヲ得ルコトヲ目的トスルコトアリ直接生産或ヘ第一ノ盡力ハ消費貨物其物ヲ得ルヲ目的トスルニアラストテ之ヲ得ルノ原因タルヘキモノヲ收ムルヲ目的ト爲ス協同アリ而シテ消費貨物ヲ得ルノ原因タルヘキ生産物ヲ以テ消費貨物ヲ作ルニハ更ニ物質自然力及ヒ人力ヲ要スルモノナリ消費貨物ヲ作ルニ當リテ先ツ之ヲ得ルノ最モ遠キ原因ヲ作り其次ニ之ヲ用ヒテ稍ヤ近キ原因ヲ作り又之ヲ用ヒテ始メテ消費貨物ヲ得ルカ如ク迂回ノ方法ヲ取ルトキハ一回ノ効ニ由リテ直チニ消費貨物ヲ生産スルヨリハ同量ノ盡力ニ由リテ一層大ナル結果ヲ收ムヘク又ハ簡単ナル方法ニ由リテ得ル能ハサル特殊ノ貨物ヲ獲得スルコトヲ得セシムルモノナリ從テ人智ノ進歩スルニ從ヒ簡単ナル直接生産ハ次第ニ廢レテ迂回ニシテ且ツ有利ナル生産法之ニ替リ今日ノ文明國ニ於テハ直接生産ト稱スヘキモノハ殆ト全ク其形ヲ收ムルニ至レリ而シテ此迂回的生産法ニ於テハ第一段ノ手續ヲ爲スニハ唯自然ト人力トヲ要スルニ過キナレトモ第二段ノ手續ヲ爲スニハ自然及ヒ人力ノ外ニ第一段ノ手續ノ結果消費貨物ノ最遠ノ原因ヲ要シ第三段ノ手

續ヲ爲スニハ第二段ノ手續ノ結果消費貨物ノ最近ノ原因ヲ要シ第四段ノ手續ヲ完了シテ生産結局ノ目的タル消費貨物ヲ得ルニハ第三段ノ手續ノ結果消費貨物ノ近キ原因ヲ要スルモノナリ此ノ如ク第二段以後ノ手續ヲ爲スニハ其當時存在スル自然及ヒ人力ノ外ソレヨリ以前ノ生産手續ノ結果ヲ要スルモノナリ而シテ生産手續ノ長短ハ生産ノ目的物タル消費貨物ノ種類ニ因リテ相同シカラスト雖モ人智ノ進歩ニ伴ヒテ益延長スルノ傾向ヲ有スルモノナリ而シテ此生産ノ手續ハ必スシモ一人若クハ一時代ニ完成スルモノニアラス第一段乃至第三段ノ生産手續ノ結果タル中間生産物ハ其儘先代ヨリ其後代ニ譲リ前年ヨリ後年ニ傳ハルモノ甚タ多ク從テ現時ノ世人ハ先年若クハ先代ノ生産ノ結果タル中間ノ生産物ヲ取り其生産手續ヲ完了シテ消費貨物ヲ收メ自己ノ欲望ヲ満足スル場合益多シ而シテ生産ノ第一段ノ結果タル貨物ノ最遠ノ原因タルヘキモノハ人類生活ノ初期ニ於テハ人智ト自然トニ由リテ作出シタリト雖モ現時ニ於テハ之ト同様ナル中間ノ生産物ヲ作ルニ當リテハ必スシモ原始的方法ト同様ノ手續ニ由ラス第二段以下ノ手段ヲ爲スト同様ニ其當時現在セル自然

及ヒ人力ノ外過去ノ勞働ノ結果タル中間ノ生産物ヲ用フル場合極メテ多シ
例ヘハ料理店ニテ朝食ノ用意ヲ爲スニ當リテハ先ツ七輪ニ木炭ヲ入レ其上
ニ薪ヲ置キ之ニ火ヲ點シ稍ヤ暫ク火吹竹ニテ吹キ然ル後團扇ニテ煽キ初メ
テ炭火ヲ得テ煮物ニ取掛ルナリ而シテ一度炭火ヲ得ルトキハ通常火鉢ニ分
チ置クカ故ニ一旦來客絶エテ七輪ノ火ヲ消シタル時ニ當リ再ヒ來客アルモ
初メテ煮物ヲ爲ス時ノ如キ繁雜ナル手數ヲ要セス火鉢ヨリ火種ヲ取り須臾
ニシテ燃焰タル火ヲ得テ速ニ再ヒ煮物ニ取掛ルコトヲ得ルモノナリ
夫故ニ現今文明諸國ニ於テハ啻ニ簡單ナル直接生産ヲ爲スコト極メテ稀ナル
ノミナラス迂回の生産法ノ第一段タル手續ヲ爲ス場合極メテ少ク換言スレバ
現時ノ努力ト現時ノ自然力及ヒ物質ノミニ依リ生産ヲ營ム場合極メテ稀ニシ
テ過去ノ生産手續ノ結果タル中間ノ生産物ヲ用ヒ之ニ現時ノ努力ト自然トヲ
加ヘテ生産スルモノナリ夫故ニ今日ノ生産ノ手續ヨリ觀レハ現時ノ努力、現時
ノ自然ノ外過去ノ生産ノ結果タル中間ノ生産物モ亦生産ノ要素ナリト云フア
妨ケス而シテ此中間ノ生産物ヲ名ケラ資本ト云フ資本ハ初ヨリ獨立シテ存在

シタルモノニアラス人力及ヒ自然ノ結合ノ結果トシテ生シタル產物ニ過キサ
ルカ故ニ之ヲ生産ノ誘導的要素ト稱シ生産ノ第三ノ要素ト爲ス
第一節 自然
自然トハ人間以外ニ存在スル天然ノ有形物及ヒ天然ノ勢力ヲ云フ
自然ハ人カ生産ヲ營ムニ當リテ之ニ供スルニ場所原料動力其他ノ外圓ノ事情
ヲ以テスルモノナリ是等自然ノ状態ノ如何ハ產業ノ成立及ヒ發達ニ至大ナル
關係ヲ有スルモノナリ而シテ自然ノ有様ハ場所ニ因リテ同シカラス今其有様
ヲ詳細ニ説明スヘシ

第一項 氣 候
自然ハ動植物ノ地理上ノ分配ヲ決定シ其發育ニ影響ヲ及ボスモノナリ四十七
寒帶ハ牧草及ヒ僅少ノ穀物ヲ產シ温帶ハ主トシテ穀物ヲ產シ熱帶ハ芭蕉棗橄
欖甘蔗ヲ產スルカ如キハ主トシテ氣候ノ然ラシムル所ナリ

抑モ溫度ハ最モ植物ノ發育ニ關係ヲ有スルモノニシテ溫度高キトキハ收穫ノ期間ヲ短縮シ收穫ノ分量ヲ多クシ兼チテ品質佳良ナラシムルヲ常トス例ヘハ穀物ノ收穫ハ南獨逸ニ於テハ一年二回ニシテ亞刺比亞ニ於テハ一年三回ナリ又獨乙ニ於ケル蜀黍ノ收穫ハ動物ノ百倍ナレトモ熱帶地方ニ於テハ三四百倍ノ收穫アリ又北獨逸ノ小麥ハ百分中六乃至七、Anglo-Nノ小麥ハ二十乃至二十五ノ空素ヲ含有ス

溫氣ノ分配モ亦動植物ノ生育ニ關係アルモノニシテ高地カ樹木ノ培養及ヒ牧畜ノ業ニ適スルカ如キ溫氣ノ分配宜ヲ得ルカ故ナリト云フ
氣候寒冷ニ過キ人ハ生活ニ汲汲トシテ日夜食物ヲ求ムルニ忙ハシキ處ニ於テハ文明ノ進歩ハ到底望ムヘカラス例ヘハ冰州「グリーン蘭ンド」ニ住スル「エスキモー」ノ如シ又天惠物餘リニ潤澤ニシテ人力ヲ要スルコト餘リニ少キトキハ人ハ安逸ニ流レテ遂ニ精神ノ活動力ヲ麻痺セシムルモノナリ例ヘハ「バナナ」圃ハ小麥畑ニ比スレハ二十五倍ノ人口ヲ支持スベヘク又之ヲ栽培スルニ僅ニ嫩芽發生ノ際土地ヲ歎カニスルト已ニ實リタル果實ヲ採取スルトヲ以テ足レリスル

第二項 地勢

カ故ニ「バナナ」常食トスル Mexico 土民ハ懶惰ニ流レテ文明ノ何物タルヲ知ラサルナリ然ルニ天惠物ノ分量其宜シキヲ得タル温帶地方ニ於テハ文明進歩日

日ニ駆駆トシテ其止マル所ヲ知ラサルナリ

第三項 地味及ヒ地質

地味ノ肥瘠及ヒ礦物ノ多少ハ農業、礦業其他ノ産業ニ至大ナル關係ヲ有スルモノナリ「フランクリン」氏ノ英國ノ今日アルハ全ク石炭ト運河トノ賜ナリト言ヘルハ實ニ故アルナリ又支那ノ黃土地方魯ノ黑土地方ノ農業盛ナルハ全ク地味ノ然ラシムル所ナリ

第四項 自然ノ動力及ヒ動力ヲ起ス資料ノ分配

生産ノ方法ハ主トシテ物質ノ場所及ヒ形態ヲ變スルニ由リテ行ハルモノナリ然ルニ

一物ノ性質ハ之ニ抵抗ス

二人ノ筋力ハ極メテ微弱ナリ

故ニ人ハ自然ノ必要ニ迫ラレ道具ヲ使用シテ人力ノ強サヲ増加スルコトヲ發明セリ例へハ挺子、滑車、水壓機ノ使用ノ如シ此方法ニ依ルトキハ極メテ微弱ノ力ヲ以テ重大ナル物質ヲ取扱フコトハ極メテ容易ナリト雖モ多クノ時間ヲ要スルモノナリ然ルニ物ヲ生産スルニ當リテ餘リニ多キ時間ヲ要スルトキハ吾人カ生産ヲ爲ス目的ヲ達スル能ハサル場合モ甚タ多シ故ニ道具ノ使用ニ因リテ益スル所モ亦一定ノ限界アリ是ニ於テ吾人ハ人以外ノ力ヲ捉へ來リテ人ノ筋力ノ微弱ナル缺點ヲ補フコトヲ勉ムモノナリ特ニ奴隸制度ノ廢止以來無償若クハ僅少ノ報酬ヲ以テ他人ノ労力ヲ使用スルコト能ハサルヲ以テ自然力

モノナリトノ說アリ
自然ノ動力ニシテ人ノ利用スルモノハ動力ノ筋力、風力、水力等ナリ
又動力ヲ誘起スル資料タルモノハ石炭、石油、薪等ナリ
力役動物トシテ吾人ノ使役スルモノハ牛、水牛、馬、象、駒鹿「エヌキモー犬」等ナリ就中最モ一般ニ使役スル馬ハ人ノ七倍ノ力ヲ出スモノナレトモ之ヲ養フノ費用ハ力役人夫ノ生活費ニ比スレハ遙ニ廉ナリ然レトモ此動物ノ飼料ヲ得ンカ爲メニハ廣大ナル場所ヲ要スルカ故ニ此畜類ヨリ得ル動力ノ分量ハ甚タ多キ
フ望ムコト能ハス從テ此動力ハ自然ノ效力ニ對スル吾人ノ欲望ヲ充タスニ足ラサルナリ風及ヒ流水ノ力ハ或ハ風車ヲ廻轉シ或ハ帆船ヲ走ラシ或ハ水車ノ作用ヲ助ケル等古代ヨリ利用セラレタリ特ニ水力ガ一タセ之ヲ變シテ電力ト爲シ

容易ク隨意ノ場所ニ誘導シテ使用スルコトヲ得ルニ至リタルヲ以テ從來ニ比スレハ一層好ク利用セラルヘ如ヘ開車ミテ機械ノ運搬、運送、貯藏、保管、又石炭、石油、薪等ノ燃焼ニ因リテ誘起セラルル蒸流ノ膨張力ハ各種ノ機械ヲ運動スル原動力トシテ最モ廣ク利用セラルモノナリ此動力ハ之ヲ誘起スルニ要スル費用多カラサルノミナラス吾人ノ欲スル時ト所トニ於テ隨意ノ分量ヲ起スコトヲ得ヘク又此動力ヲ以テ更ニ電力ヲ誘起スルコトモ為シ得ルカ故ニ各種ノ自然ノ動力中最モ便利ナルモノナリ

第二節 勞 力

第一項 勞力ノ意義

勞力トハ生産ノ目的ヲ達セシカ爲メニスル精神及ヒ身體ノ力ノ活動ヲ云フ例ニハ農夫ノ田ヲ耕シ職工ノ機械ヲアリ工芸品ヲ製造スルカ如キ活動ハ勞力ナリ遊戯、散歩ノ際人ノ爲ス活動ハ其目的トスル所生産ニ在ラナルカ故ニ勞力ニ非ナルナリ

第二項 勞力ノ分類

- (一) 農夫ノ勞力
 - (二) 工業者ノ勞力
 - (三) 動植物ノ生活力
- (一) 精神的勞力
 - (二) 肉體的勞力
 - (三) 修練的勞力
 - (四) 非修練的勞力
 - (五) 發明及ヒ發見ノ勞力
 - (六) 自然ノ產物ノ採收
 - (七) 動植物ノ生活力
- (一) 主トシテ精神ヲ活動セシムルカ又ハ肉體ヲ勞スルカニ基キ勞力ヲ分テ
 - (二) 球メ一定ノ修練ヲ要スルトニ因リ又左ノ如ク區別ス
 - (三) 例ヘハ學者、技師ノ勞力ノ如キモノ
 - (四) 例ヘハ車力、土方ノ勞力ノ如キモノ
 - (五) 例ヘハ荷擔夫、左官ノ手傳ノ勞力ノ如キモノ
 - (六) 例ヘハ狩獵、漁獵、採礦等ノ勞力ノ如キモノ
 - (七) 例ヘハ農夫、牧童ノ勞力
 - (八) 例ヘハ商人、裁縫、鍛冶等ノ勞力
 - (九) 例ヘハ美術品ノ製作、學者ノ勞力ノ如キモノ
 - (十) 例ヘハ荷擔夫、左官ノ手傳ノ勞力ノ如キモノ
 - (十一) 例ヘハ農夫、牧童ノ勞力

- (四) 製造ノ勞力 粗生品ニ加工シテ有用ナル工藝品ヲ作出スル各種ノ工業者ノ勞力ノ如キモノ
 (五) 貨物ノ運搬
 (六) 貨物ノ交換 例へハ各種ノ商人ノ勞力ノ如キモノ
 (七) 貨物消滅ノ防禦 例へハ消防夫燈臺ノ番人ノ勞力ノ如キモノヲ云フ

第三項 勢力ノ分量

人ハ重量長短ヲ計ルニ「グラム」「メートル」アルカ如ク勢力ノ分量ニ關シテモ或ル一定ノ標準ヲ定メテ之ヲ測定セント欲スルノ傾向ヲ有スルモノナリ而シテ勢力ハ生産上ニ效果ヲ顯スト同時ニ之ヲ爲ス人ニ對シテ多少ノ苦痛ヲ感セシムルモノナリ從テ世人カ勢力ノ分量ヲ測定スルノ標準トシテ採用セント欲スルモノニアリ

(一) 勢力ノ生産上ニ及ホス效力即チ勢力ノ生産力
 (二) 勢力ヲ爲ス人ノ感スル苦痛ノ分量

是ナリ然ルニ吾人カ生産ヲ爲スニ當リア爲ス所ノ勢力ハ其種類品等相同意シカラナルモノ甚タ多ク從テ之ニ伴フ苦痛ノ感覺モ亦種種ナルカ故ニ「グラム」「メートル」ノ如キ簡單ナル標準ヲ以テ計算スル能ハナルナリ或學者ハ修練ヲ要セラル勢力ヲ基礎トシ他種ノ勢力ノ生産力ハ其何倍ニ當ルカラ計ラントシ勢力ニ伴フ苦痛ノ感覺ハ勢力者ノ生活力消耗ノ量ニ據リテ算定セント試ミタレトモ何レモ失敗シタリ現近ニ於テモ唯此等分量ノ大小輕重ヲ來ス原因ヲ列舉スルヲ以テ確定セサルヲ得ナルナリ

第一目 勢力ノ生産力

勢力ノ生産力ハ下ノ三ツノ原因ニ由リテ増減スルムベシセシム一ハ勞務第一之勞働能力ノ多少ニ依ルニテ勞務へハ勞務入覺體格ハ體調ハ體質ハ體調第二之勞働心ノ強弱ハ勞務之度數勞度之大弱度之小體調之好惡體質之強弱第三之勞力ノ協同度ニ依ルニテ勞務之度數勞度之大弱度之小體調之好惡體質之強弱

第一之勞働能力ノ多少ニ基ス者其度數勞度之大弱度之小體調之好惡體質之強弱

勞動能力トハ人ノ勞働ニ堪ヘ得ル能カヲ云フ而シテ此能力ハ(1)體力ノ強弱(2)智力ノ多少、道徳ノ高低ニ因リテ定マル而シテ體力ノ強弱ハ遺傳及ヒ發生後ノ衛生ノ如何ニ因リテ定マルモノナリ從テ人種及ヒ日當取ル所ノ食物ノ如何ハ大ニ體力ノ大小ニ關係アルモノナリ例ヘハ英國ノ勞働者ヘ他國ノ勞働者ニ比シテ一般ニ體力ノ强大ナルハ一ハ其遺傳ノ然ラムル所ナリト雖モ一ハ彼等ノ取ル所ノ食物カ概シテ他國ノ勞働者ノモノニ比シテ佳良ナルニ因ルモノナリト云フ證ニ低廉ナル勞力ハ高價ナル勞力ナリ
(cheap labour is dear labour)

ト云フハ薄給ノ勞働者ハ十分ナル食物ヲ取ルコト能ハズ體力微弱ナルカ故ニ勞力ノ效果ト賃銀ノ額トノ割合ヨリ考フルトキハ厚給ニシテ豊カナル生活ヲ營ム強壯ナル勞働者ヨリモ却テ不廉ナルモノナリトノ意ナリ夫故ニ引續キ同二ノ勞働者ヲ雇傭スル場合ニ於テハ單ニ雇主ノ私益ヨリ考フルモ餘リ少キ賃銀ヲ給シ之ヲシテ體力ヲ維持スルニ必要ナル食物ヲモ得ルコト能ハサラシムルヨリハ相當ノ給金ヲ與ヘ十分ニ體力ヲ養ヘ安シシテ勞働ニ就カシムルヲ可トスルハ勿論ナリト雖モ一旦賃銀トシテ勞働者ニ給スルトキハ其使用ノ方法

ハ固ヨリ勞働者ノ自由ナルヲ以テ厚給ヲ與フルコトニ因リテ雇主ノ得ル所ノ利益ハ家畜ノ持主カ家畜ニ佳良ナル食物ヲ十分ニ授與スルコトニ因リテ得ル利益ノ如ク確實ナルモノニアラナルナリ次ニ智力ノ多少ハ天稟及ヒ教育ノ如何ニ因リテ定マルモノナリ高等ナル勞力ノ主要ナル要素カ智力ナルコトハ何人モ許ス所ナレトモ下等勞働者ニ對スル智力ノ必要モ亦機械使用ノ普及スルニ從ヒ益増加スルモノナリ又道徳ノ高低ハ教育及ヒ社會ノ制裁ノ如何ニ因リテ定マルモノナリ而シテ或種ノ勞力ハ道義心高キ者ニアラサレハ爲シ能ハサルモノナリ又普通ノ力役者ト雖モ德義心強キ者ナレハ啻ニ其勞力ノ直接ノ效果大ナルノミナラス之ヲ監督スル勞力ヲ節約スルコトヲ得ルノ利益アリ

第二 勞働心ノ強弱

勞働心トハ吾人ヲ衝動シテ勞力ニ從事セシムル念慮ヲ云フ而シテ此念慮ノ強弱如何ハ勞力ノ生產力ニ大關係アルモノナリ
勞働心ノ盛ナルト否トハ(1)吾人ノ有スル欲望ノ多少ト其強弱(2)勞力ニ依リテ得ル所得ノ多少ト其確否ニ因リテ定マルモノナリ蓋シ吾人ノ有スル欲望イ多

少ト其強弱トハ貨物既得ノ分量及ビ其種類ニ關スルコト大ナリト雖モ文明ノ程度及ヒ人種ノ如何ニ因リテモ亦大差ヲ生スルモノナリ支那人ノ如ク非常ニ富フ欲スル情ノ盛ナル者ハ南洋ノ土人ノ如ク欲望ノ少キ者ニ比スレハ勞働心強盛ナリ又勞力ニ依リテ得ル所得ノ多少ト確否ノ如何トニ因リテ勞働心ノ強弱ヲ來ス實例ハ奴隸カ自由ノ勞働者ニ比シテ勞働心極メテ微弱ナルト自由勞働者ノ中仕事高賃銀又ハ利益ノ分配ヲ受クル勞働者カ時間拂賃銀ヲ受クルモノニ比レテ勞働心概シテ強盛ナルコトニ因リテ之ヲ見ルコトヲ得ヘシ

第三 勞力ノ協同

勞力ノ協同トハ生產上人人カ一部分ニ其勞力ヲ適用シ互ニ相倚リ相助ケテ共同生活ヲ營ム社會上ノ組織ヲ云フ而シテ此組織整備スルトキハ大ニ勞力ノ生產力ヲ大ナラシムルモノハナリ體大、體小、民主主義、君主主義等多種の體勢力ノ協同ハ之ヲ分チテ單純ナルモノト複雜ナルモノトノ二種トス

單純勞力ノ協同トハ一名合業ト稱シ多數ノ人カ聯合シテ同時ニ或一事業ニ從事シ各人ノ分擔スル仕事ノ種類同一ナル場合ヲ云フ此種ノ勞力ノ協同ハ各人孤立ノ列舉スルモノハ左ノ如シ

シテ爲ストキハ豫メ複雜ナル裝置ヲ要シ又ハ多クノ時間ヲ要スル等ノ點ヨリシテ縱令技術上之ヲ實行シ得ヘシトスルモ經濟上殆ト爲シ能ハサルコトニ屬スル仕事ヲ極メテ簡便ニ仕途タルコトヲ得セシムルノ利益アリ而シテ此方法ハ漁業土木建築ノ際重大ナル物品ヲ處置スルカ爲メニ屢々實行セラルモノナリ複雜勞力ノ協同トハ一名分業ト稱シ一群ノ人カ種種ノ貨物ヲ作出スルニ當リテ各人其爲ス所ヲ異ニシテ相倚リ相助ケテ生產ノ目的ヲ達スル場合ヲ云フナリ例へハ農夫ハ穀物ヲ作リ大工ハ家ヲ建テ機屋ハ布ヲ織リ出シテ各人相倚リテ彼等ノ要スル貨物ヲ作出スルカ如キ或ハ卷烟草ヲ製造スルニ當リ或人ハ葉煙草ヲ摘ヘ或者ハ之ヲ剥ミ他ノ者ハ之ヲ巻クカ如ク其爲ス所ノ仕事ヲ異ニシテ一種ノ貨物ヲ作出スルカ如キヲ云フナリ之ヲ勞力ノ協同ト云ヒ又ハ分業ト稱スルハ之ニ從事スル一群ノ人類全體ヨリ觀レハ一層都合ヨク生產ノ目的ヲ達スルカ爲メニスル協力ノ方法ニ外ナラサレトモ各人其爲ス所ヲ異ニスル點ヨリ觀レハ分業ト稱スルモノ亦不可ナケレハナリ分業ノ利益トシテ古來學者ノ列舉スルモノハ左ノ如シ

一 勢力者ノ熟練ヲ増ヌ

分業ノ組織ニ由リ人人或一種ノ仕事ニ從事スルトキハ其事ニ關スル經驗ヲ重子テ益、熟練ヲ増スモノナリ。

二 勢力者ノ修練ノ期間ヲ短縮ス

分業組織行ハルトキハ各勞働者ノ習得ヲ要スル仕事ノ範圍大ニ縮少スルカ故ニ修練ノ期間短クシテ其職業ニ堪能ナル勞働者ト爲ルコトヲ得ヘシ。

三 各人ヲシテ其能ヲ盡サシム

困難ナル仕事ハ強壯熟練ナル勞働者之ニ當リ容易ナル業務ハ婦女老幼ヲシテ擔任セシムルコトヲ得ヘシ今世紀ニ至リテハ紡績絶布等ノ自動機械ヲ使用スル工業ニ從事シタル十八歳以上ノ男工ハ其位置ヲ女工ニ譲リ鑛山鑛造所運搬業ニ轉シタルモノ甚タ多シ。

四 時間ノ空費ヲ免ル

労働者カ屢其從事スル仕事ヲ轉換スルトキハ其度毎ニ使用スル道具器械ヲ換へ他ノ仕事場ニ移リ若クハ新仕事ニ着手スル前ニ當リテ免ルルコト能ハサル

多少ノ躊躇ト新ナル仕事ニ着手シタルトキニ感スル仕事ノ難澁トニ因リテ時

間ヲ空費セシムルモノナリ

五 資本ノ利用ノ増加

一人ニテ數多ノ仕事ヲ實行スルノ必要アルトキハ各種ノ道具ヲ備ヘ置キ或一種ノ仕事ヲ實行スル間ハ多數ノ道具ハ全ク使用セヌシテ放置セラルル場合多カルヘシ然ルニ各人特種ノ仕事ニ從事スル場合ニハ其弊ヲ免ルルコトヲ得ルノミナラス職業習熟ノ期間短キカ故ニ業務ノ不熟練ヨリ生スル原料ノ浪費ヲ少クスルコトヲ得ルカ故ニ大ニ資本ノ利用ヲ増加スルモノナリ

六 發明改良ヲ促ス

分業ハ人ヲシテ一事物ニ専心ナラシムル結果トシテ各種ノ發明改良ヲ催進スルモノナリ

斬新ナル發明顯著ナル改良ハ實務ニ從事セス緻密ナル觀察ヲ爲シ深遠ナル道理ヲ究ムルヲ以テ其務ト爲ス所ノ學者ノ任スル所ナレトモ彼等ノ爲シタル大發明大改良ヲ實地ニ應用スルカ爲メニ要スル小發明小改良ハ之ヲ實際家ノ手

ニ俟ツ場合決シテ少カラス蒸氣機關ノ瓣ヲ開閉スル自動裝置ハ此事ニ使用セラレタル小童ノ創意ニ係ルモノナルカ如キ最モ顯著ナル一例ナリ

第二目 勞力ヲ爲ス人ノ感スル苦痛ノ分量

勞力者ノ感スル苦痛ノ分量ハ主トシテ下ノ三原因ニ由リテ増減ス

第一 勞働時間

第二 勞働ノ強度

第三 周圍ノ事情

勞働ニ伴フ苦痛ノ分量ヲ増減スル最大ナル要素ハ仕事ヲ實行スル時間及ヒ堪能ナル勞働者ト爲ルニ必要ナル習練期間メ長短ナリ例ヘハ一个月ノ勞働ハ一日ノ勞働ノ三十倍一个年ノ勞働ハ一个月ノ勞働ノ十二倍ノ苦痛ヲ與フルモノナリト云フコトヲ得ヘシ然レトモ精細ニ之ヲ吟味スルトキハ苦痛ノ感覺ハ單ニ時間ノ倍數ニ比例セス仕事ノ始メニ當リテハ一定ノ時間經過後ニ比スレ

八苦痛ヲ感スルノ度強ク夫ヨリ後若干ノ時間内ニ於テハ苦痛ノ程度一定不變ナリ然ルニ勞働稍久シキニ涉リ體力精神力ノ一部消盡スルニ至ルトキハ苦痛ノ感覺ハ急劇ニ増進シ遂ニ之ニ堪フル能ハサルニ至ルモノナリ夫故ニ一日十時間ノ勞働ニ從事スル者ノ第十時間目ノ一時間ニ感スル苦痛ノ分量ハ第二時間目ノ一時間ニ感スルモノヨリ大ナリト云フコトヲ得ヘシ又勞力者カ勞働ヲ爲スカ爲メニ感スル苦痛ノ分量ヲ精密ニ計量セント欲セハ實ニ或仕事ヲ實行スル時ニ感スル苦痛ノ分量ノミナラス其仕事ニ堪能ナル人ト爲ルニ必要ナル準備ヲ爲スニ當リテ感シタル苦痛ノ分量ヲモ算入スルヲ至當トス例ヘハ二十年ハ修練ヲ要スル技師ノ一時間ノ勞力ハ殆ト特別ノ習練ヲ要セアル士方人足ノ二時間ノ勞力ヨリモ當事者ノ感シタル苦痛ノ總量ハ大ナリト云フヲ得ヘシ

第二 勞働ノ強度

仕事ノ種類ニ因リ頗ル輕易ナルモノアリ甚タ困難ナルモノアリ精神若クハ身體ノ全力ヲ之ニ集中スルコトヲ要スルモノアリ愚ミ半分ニ之ヲ實行シ得ルモノアリ又同一ノ仕事ニテモ通常二日ヲ要スルコトヲ一日間ニ爲ストキハ苦痛

ヲ感スルノ程度ハ二倍以上ニ増加スルモノナリ「アダム・スミス」ノ一時間ノ強烈ナル勞働ハ二時間ノ輕易ナル仕事ヨリモ勞働ノ量多シト曰ヒタルハ勞働ノ強度カ如何ニ勞力者ノ感スル苦痛ノ分量ヲ増減スルカラ説明シテ餘リアリト云フヘシ

第三 周圍ノ事情

勞力者ノ感スル苦痛ノ分量ハ單ニ勞働其モノノ性質ニ因リテ定マルモノニアラス勞働ニ際シ勞力者ヲ團繞スル周圍ノ事情如何ニ因リテ大ナル差異ヲ生スルモノトス例へハ空氣ノ流通惡シキ場所ニ労キ兎惡卑劣ナル徒ヲ伴シテ勞役ニ就ク場合ニ於テハ然ラナル事情ノ下ニ同一ノ仕事ヲ實行スルニ比スルトハ勞力者ノ感スル苦痛ノ分量ハ一層大ナリト云フコトヲ得ヘシ

第三節 資本

第一項 資本ノ意義

資本トハ生產ノ用ニ供セラル有形ノ生產物ヲ云フ

經濟上資本ナル語ヲ以テ表示セラル觀念ニニアリ
 一、狹義ノ資本 (Capital in the narrower sense) 社會經濟的資本又ハ生產的資本トモ
 云フトハ社會經濟的收得ノ手段タル用ヲ爲ス生產物ヲ云フ而シテ貨物ノ社
 會經濟的收得ノ方法ハ生產ニ限ルヲ以テ資本トハ生產ノ用ニ供セラル生
 產物即チ生產ノ手續中ニ顯出スル中間ノ生產物ヲ云フナリ
 二、廣義ノ資本 (Capital in the wider sense) 私人經濟的資本又ハ收得資本トモ云フ
 モトハ貨物收得ノ手段タル生產物ヲ云フ此觀念中ニ含マルヘキモノハ狹義ノ
 資本ニ屬スル總貨物ノ外所有者自ラ使用セス他人ニ貸出シテ以テ貨物收得
 ノ手段ト爲ス所ノ消費貨物全體例へハ貸家貸本貸金企業者カ前貨シタル勞
 働者ノ生活維持ノ資料ノ如キモノ等ヲ包括ス生產ノ要素トシテ資本ト云フ
 ドトキハ狹義ノ資本ヲ指スナリ

第二項 資本ヲ觀念ノ歴史的發達

資本即チ Capital ヲ語ハ羅馬ノ Caput ナル語ニ起淵ス其當時 Capital ハ貸金ノ

元金即チ利子ヲ生スル貨幣ノ一定量ヲ指示スル語ナリキ中世ノ語 Capitalis Caput ヨリ出テタルモノニシテ其初ハ同一意義ニ用ヒラレタルモノナリシカ偶然ノ出來事ニ由リ其意義ニ變動ヲ來セリ希臘羅馬學者及ヒ中世ノ神學者宗教家ハ貸付セル金員ハ世界ニ子ヲ生マヌトノ格言ニ基キテ利子ヲ徵スルハ不當ノ利得ヲ收ムルモノニシテ決シテ許スヘキモノニアラスト主張セリ然ルニ利子ノ徵收ヲ許ササルトハ資金ヲ貸付スル者ナク其不便少カラサルカ故ニ當時ノ人士ハ百方利子ヲ是認スルニ根据ヲ發見スルニ力ヲ用ヒ其結果トシテ一ノ有力ナル辨駁説ヲ得タリ其説ニ曰ク「借リタル貨幣ハ子ヲ生マサレトモ貨幣ヲ借リタル者ハ之ヲ返還スルマテノ間ニ其貨幣ヲ以テ子ヲ生ムヘキ貨物ヲ收得スルコトヲ得ルカ故ニ利子ヲ收ムルハ正當ナリ貨幣ノ使用ハ交換ノ形式ニ過キス貸主ト借主トノ間ニ實際授受セラルモノハ果實ヲ生スル實物ナリ貨幣ハ單ニ一時其實物ヲ代表スルモノニ過キサルナリ貸借ノ實物カ果實ヲ生スルモノナレハ其代表者タル貨幣ニ利子ヲ生スルハ至當ノコトナリ」ト此ノ如キ學說一般ニ行ハルニ至リタル結果トシテ資本ナル觀念ハ啻ニ代表

者タル貨幣ノミナラス代表セラルル實物ヲモ包括スルコト爲ナリ貯蓄セラレタル貨物全體ヲ資本ナリト云フ第二ノ觀念ヲ生シタリ
 「チヨルゴー氏」ノ説ニ一年間ニ自己ノ使用スルコトヲ要ヘルモノヨリ餘分ノ貨物ヲ收得スル者ハ之ヲ蓄積スルコトヲ得ヘシ此蓄積シタル貨物ハ即チ資本ナリト曰フハ即チ是ナリ然ルニ「アダム、スマス」ハ直接ノ運命ニ因リ觀察シテ蓄積シタル貨物ヲ區別シ
 一ハ直接ノ消費ニ供セラルモノニシテ收入ノ泉源タラサルモノ
 二ハ持主ニ對シテ收入ノ泉源タルモノ
 トノ二ト爲シ後者ノミヲ以テ資本ト名クヘキモノナリト唱ヘタリ是ニ於テ收入ノ泉源タル貨物ヲ資本ト云フ第三ノ觀念ヲ生シタリ其後ニ經濟ニ關スル理論的研究益盛ナルニ從テ「ジャッ、バブチスト、セー」「マツカロック」「ジョン・スチュアード、ミル」等輩出シテ貨財生產ハ自然及ヒ勞力ノ外ニ一種ノ生產ノ方便ヲ要スルコトヲ明カニセリ而シテ其生產ノ第三ノ方便ハ過去ノ勞働ノ結果ノ蓄積セラレタルモノニシテアダムス、ミスノ所謂收入ノ泉源タル貨物即チ資本ト略

本同一ノ範圍ニ屬スル貨物ノ一體ナルコトヲ明カニシ生産ノ第三ノ要素ハ即チ資本ナリト唱道スルニ足レリ是ニ於テカ資本ナル語ハ收得ノ手段タル意義ノ外ニ生産ノ手段タル貨物ヲフ第四ノ觀念ヲ表示スルニ至レリ此生産ノ手段タル貨物ヲ觀念ハ貨物ノ生産ヲ論スルニ當リテ重要ナレトモ收益ノ手段タル貨物ヲフ他ノ觀念ハ貨財ノ分配ヲ論スルニ當リテ缺クヘカラサルモノナル故ニ第三及ヒ第四ノ資本ニ關スルニツノ觀念ハ現今廣ク經濟學者ノ是認スル所タリ而シテ收得ノ手段タル貨物全體ト生産ノ手段タル貨物トハ多少其範圍ヲ異ニス社會全體ヨリ觀レハ貨物收得ハ新貨物ヲ生産スルコトニ因リテノミ為スコトヲ得ルカ故ニ社會ノ目ヨリ觀レハ收得ノ手段ハ生産ノ手段ト一致ス然レトモ一個人ハ消費貨物ヲ他人ニ貸出スコトニ因リ新貨物ヲ取得スルコトヲ得ルカ故ニ社會的の取得手段ハ社會的生産手段ナリト雖モ個人的の取得手段ハ必スシモ個人的生産手段ノミニ限ラレサルナリ夫故ニ現今經濟學ニ所謂資本ナル語ニハ收得手段タル貨物ト生産的手段タル貨物ヲフニノ意義アリテ各個ノ包括スル貨物ノ範圍モ亦同シカラサルナリ

第三項 資本ノ内容

- 資本ヲ觀念中ニ包含セラルヘキ貨物ノ種類左ノ如シ
 - 一、土地改良 堤防排水路等ノ如キモノ
 - 二、各種ノ生産的建築物 仕事場工場鐵道等
 - 三、道具器械其他ノ生産的器具
 - 四、生産ノ用ニ供セラル畜類
 - 五、生産ノ原料及ヒ補助原料
 - 六、生産者及ヒ商人ノ貯藏スル成功品
 - 七、貨幣
- 一號ヨリ五號マテハ何人モ異論ナカルヘシト雖モ六號七號ニ付テハ多少疑ヲ抱ク者アルヘキヲ以テ爰ニ數言ヲ費スノ必要アリ
商人ノ倉庫中ニ藏スル消費貨物ハ最早成功貨物ト稱スヘキモノニシテ中間ノ生産物即チ資本ニ屬セサルモノナルカ如シ又貨幣ハ交換ノ道具ニシテ生産ノ

道具ニアラサルカ如シト雖モ精密ニ考察スルトキハ二者共ニ資本中ニ算入スヘキモノナリ何トナレハ凡テ貨物ハ最後ノ消費者ノ手ニ歸スルニアラサレハ生産手續ヲ完了シタルモノト云フヘカラス然ルニ生産者若クハ商人ノ貯藏スル成功品ハ生産手續ノ半途ニ在ルモノナルカ故ニ中間生産物即チ資本ニ外ナラサルナリ又交換ト稱スル行爲ハ生産ニ著手シタル時ヨリ生産物カ最後ノ消費者ノ手ニ達スルマテノ一ノ段階ニ過キス換言スレハ生産的活動ニ外ナラサルナリ而シテ貨幣ハ此ノ如ク交換ト稱スル生産的活動ヲ爲スノ要具ナルカ故ニ當然資本ヲフ觀念中ニ包含セラルヘキモノナリ

又他ノ方面ヨリ觀レハ貨物ハ必シモ之ヲ消費スル地方ニテ生産セラルルモノニアラス一層都合ヨキ外國事情ヲ利用ゼンカ爲メニ他所ニ於テ生産セラル場合少カラス而シテ此時ニ當リテハ生産カ技術的ニ終了シタル後其生産物ヲ消費スル場所マテ運搬スルコトヲ要スルモノナリ而シテ此運搬終了スルニアラナレハ生産手續ハ完了シタリト云フコトヲ得ナルナリ而シテ此他所ニテ生産スルハ迂回的生産法ノ一種ニ外ナラス此種ノ迂回的生産法ハ孤立經濟ニ於テ

モ狹隘ナル範圍内ニ於テ實行セラルル場合少カラス例ヘハ農夫ハ佳良ナル生產ノ條件ヲ利用センカ爲メニ半里程ノ耕地ニ穀物ヲ栽培シ又數里程ノ距離ニアル山野ニ樹木ヲ植付ケ其收穫物若クハ伐リ倒シタル樹木ヲ遙ニ隔リタル自己ノ住家ニ引キ入ルルコトハ常ニ吾人ノ目撃スル所ナリ之ト同一ノ理由ニヨリ分業組織ノ實行セラルル產業社會ニ於テハ吾人ハ自己ノ欲スル貨物ヲ他人ノ工場他所他國又ハ他ノ大陸ヨリ取得スルハ極メテ普通ノコトナリ而シテ此場合ニ於テモ前ノ孤立經濟ニ於ケル他所生産ノ場合ト同様ニ生産手續ヲ完了スルニハ運搬ノ裝置アルヲ必要トス農夫カ穀物又ハ樹木ヲ運ヒ入ルルニ當リチ之ヲ助タル馬及ヒ車ヲ生產ノ用具即チ資本ノ中ニ算入セハ大規模ノ國民的收得ノ裝置タル道路鐵道船舶及ヒ商業的道具タル貨幣モ亦資本トシテ算入セサルヘカラス生産者ニ與フル分業組織ヨリ起ル商業的迂回法ノ利益ハ決シテ他ノ技術的迂回法ノ與フル所ニ讓ルモノニアラス外國貿易ヨリ生スル利益ハ最モ有名ナル技術的發明例ヘハ蒸氣機械ノ使用ノ如キ資本的生產法ノ與フル利益ニ勝ルコトアルモ決シテ劣ルモノニアラス

資本ノ觀念ニ付テ異ナリタル意見ヲ有スル者ニシテ前ニ舉ケタル七種ノ貨物ノ外ニ土地長期間ノ使用ニ堪フル消費貨物勞働者ノ身體等ヲモ資本中ニ包括セント欲スル者アルハ怪ムニ足ラスト雖モ資本ノ觀念ニ關シテ同一ノ意見ヲ有スル人ニシテ其內容ニ付テ意見ヲ異ニスル者アルハ頗ル怪訝ニ堪ヘサルナリ即チ昔ノ英國ノ經濟學ヨリ降テ Adolf Wagner 氏ニ至ルマテ前ニ舉ケタル七種ノ貨物ノ外勞働者ノ生活維持ノ資料 (The maintenances of productive laborers) ヲ資本中ニ算入スルカ如キ是ナリ

勞働者ニ賃金トシテ支拂ヒタル金銀若クハ勞働者ノ實際ノ賃金、食物、衣服、薪炭、點火ノ資料ハ彼等ニ前渡シタル企業者ヨリ觀レハ其私有資本ニ相違ナシト雖モ資本ヲ生產ノ用ニ供スル生産物換言スレハ生產ノ手段タル貨物ノ總體ナリト定義スルトキハ勞働者ノ生活維持ノ資料ハ資本ノ觀念中ニ算入スヘキモノニアラス生產ノ手段ナル觀念ハ消費ノ手段ナル觀念ト相對立スルモノニシテ混同スベキモノニアラス勞働者ノ生活支持ノ資料ハ彼等ノ欲望ヲ滿足スル直接ノ手段ナリ勞働者ハ人類ニシテ社會ノ一部ヲ爲ス者ナリ隨テ勞働者ノ

生活支持ノ資料ハ社會ノ欲望ヲ直接ニ充タスノ資料即チ消費ノ手段タルモノニシテ生活ノ手段即チ資本ト稱スヘキモノニアラス若シモ勞働者ハ商工業ノ經營ニ因リテ利益ヲ受クヘキ社會ノ一員ニアラスシテ勞働ヲ爲ス物質的器械ナリト看做サルトキハ勞働者ノ生活支持ノ資料ハ役畜ノ食物火爐ノ燃料ト同種類ニ屬スルモノニシテ生產ノ方便即チ資本タルヘキモノナリ論者或ハ曰ク生產的勞働者ハ單ニ消費者ニアラスシテ同時ニ生產的道具ナリ隨テ彼等ノ生活支持ノ資料ハ間接ニ貨物生產ノ用ヲ爲スモノナリト然レトモ生產ノ手段及ヒ消費ノ手段ナル區別ハ唯貨物ノ直接ノ運命ニ付テノミ立ツルコトヲ得ヘキモノナリ間接ノ結果ヨリ云フトキハ生產ノ手段モ亦間接ニ人ノ欲望ヲ充タスモノナルカ故ニ間接ノ結果如何ハ區別ノ標準トシテ取ルヘキモノニアラサルナリ勞働者ノ消費スル食物ハ社會ノ組合員ノ欲望ヲ直接ニ充タスノ用ヲ爲スモノナルカ故ニ消費ノ手段ニシテ生產ノ方便ニアラサルナリ

第四項 資本ノ種類

第一 固定資本及ヒ流動資本

此區別ハ生産ニ使用スルコトヲ得ヘキ度數ヲ基礎トシテ立アタルモノナリ
固定資本トハ一度生産ニ使用スルニ因リテ其性質ヲ變スルコトナク數回同様
ノ生産ニ使用シ得ヘキモノヲ云ヒ
流動資本トハ一度生産ニ使用スルニ因リテ全ク其性質ヲ變シ再ヒ同様ノ生産
ニ使用スルコトヲ得サルモノヲ云フ

例へハ紡績用ノ運河工場用ノ蒸氣機械ノ如キハ固定資本ナリ、播付ケタル種
子耕地ニ施シタル肥料、紡績糸ノ原料タル棉花ノ如キハ流動資本ナリ
固定資本ノ増殖ハ永遠ニ幸福ヲ増進シ生産ヲ增加スルモノナリ之ニ反シテ固
定資本ノ減少ハ永遠ニ生産ヲ減縮スルモノニシテ社會衰微ノ徵候ナリ然レト
モ固定資本ノミ獨リ増加シニ應シテ流動資本ノ增加ナキトキハ固定資本ノ
一部ハ利用セラレサルコト爲ルヘキカ故ニ兩者ノ間ニ權衡ヲ失スルハ不可
ナリ

固定資本ノ増加ハ大ニ望マシキコトナレトモ之カ成立ヲ困難ナラシムル原因

種種アリ今其二三ヲ列舉スレハ左ノ如シ

- (一) 永續スル性質ヲ有スル資本ヲ作ルニハ多量ノ勞力ヲ要ス 而シテ保續期間
延長スルトキハ之ヲ作ルノ勞力モ亦增加スルヲ通常トス
- (二) 人ノ將來ヲ慮リ將來ヲ信スル能力ニ一定ノ限界アリ 固定資本ヲ作ルニハ
現在ニ於テ勞力其他ノ出費ヲ為スコトヲ要ス而シテ其報酬ハ固定資本成立シ
之ヲ使用スルニ因リテ勞力ヲ節減シ又ハ勞力ノ效果ヲ增加スルコトニ因リテ
之ヲ收ムルコトヲ得ヘシ然レトモ勞力其他ノ出費ハ現在ニ要スル犠牲ニシテ
勞力ノ節減、勞力ノ效果ノ增加ニ因リテ生スル利益ハ將來ニ至リテ始メテ收ム
ルコトヲ得ヘキモノナリ而シテ資本ノ保續スル期間長キトキハ報酬ノ全部ヲ
收得スルコトヲ得ル時期モ亦益遠シト云ハサルヲ得ス夫レ故ニ固定資本ノ作
成ニ要スル現在ノ犠牲ト之ヨリ生スル將來ノ利益トヲ比較スルニハ大ニ先見
ノ明ト將來ヲ慮ルノ力アルヲ要スルモノナリ是レ文明進歩ノ程度低キ時代ニ
固定資本ノ増加セサリシ理由ノ一ナリ
- (三) 固定資本ノ保續期間長キニ過クルトキハ無用物ト爲ルノ處アリ 例へハ陰

阻ナル山間ノ道路ハ墜道ノ新設ノ爲メニ無用物ト爲ルカ如キ是ナリ故ニ此ノ如キ保續期間長キ固定資本ヲ作ルコトハ大ニ人ヲシテ躊躇セシムルモノナリ何トナレハ人生ノ幸福ニ何等ノ關係ナキ資本ノ物質的永續ハ之ヲ豫見スルニ難カラスト雖モ效用ノ永續ハ主トシテ將來ノ人智ノ發達、社會ノ變遷ニ因リテ左右セララルモノナルカ故ニ之ヲ洞察スルコト頗ル困難ナレハナリ

第二、自用資本ト他用資本

此區別ハ資本ヲ使用スル人ト其所有主ト同一ナルヤ否ヤニ基キテ立タルモノナリ

自用資本トハ資本ヲ所有スル者カ自ラ生産ニ從事シテ使用スル資本ヲ云ヒ他用資本トハ自ラ使用セシムテ他人ニ貸與シテ使用セシムルモノヲ云フ
資本ヲ有スル者ハ總テ資本家ナレトモ從來經濟學者ハ自ラ勞働セス其所有ノ資本ヲ他人ニ貸與シ之ヨリ生スル一定ノ歲入ヲ收メテ生計ヲ立フル者ニ限り之ヲ資本家ト稱シタリ

第五項 資本ノ生産ニ對スル效用

第一、資本ハ人ノ生産的活動ヲ助ク

資本ハ有利ナル迂回的生産手續中ニ生スル中間ノ生産物ニシテ其迂回的生產方法ヲ完成セント欲スル人ノ活動ヲ補助スルモノナリ例へハ棉花及ヒ紡績機械、石炭等ハ棉糸ヲ作ラント欲スル人ノ活動ヲ補助スルモノナリト謂フヲ得ヘシ

第二、資本ハ新ニ資本ノ發生スルコトヲ助ク

多クノ資本ヲ有スル人ハ其資本ヲ利用シ生産手續ヲ完了シテ容易ニ多量ノ消費貨物ヲ作ルコトヲ得ルノミナラス新ニ資本ヲ作ルコトニ付テ特別ノ便宜ヲ有スルモノナリ何トナレハ彼ハ現在及ヒ近キ將來ニ要スル消費貨物ハ既ニ有スル資本ニ依リテ容易ニ作ルコトヲ得ヘシ換言スレハ現在及ヒ近キ將來ニ要スル消費貨物ヲ得ルカ爲メニ過去ノ生產力ニ依リテ爲サレタル部分資本ノ補助多キカ故ニ現在及ヒ近キ將來ノ爲メニ現在ノ生產力ヲ要スルコト甚タ少シ

夫故ニ現在ノ生產力ノ大部分ハ自由ニ將來ノ爲メニ使用スルコトヲ得ヘシ換言スレハ現在ノ生產力ヲ更ニ資本ノ作成ニ用フルコトヲ得ヘシ故ニ資本ノ存在ハ新ニ資本ノ發生スルコトヲ助タルモノナリト謂フナリ

第六項 資本ノ成立

資本ノ成立ニ關シテ古來三箇ノ異説アリ一ハ資本ハ貯蓄ニ因リテ生スルモイトシ一ハ勞働ニ因リテ生スルモノトシ一二者相待チテ發生スルモノナリト爲ス而シテ此第三ノ學説ハ多數ノ人ノ承認スル所ニシテ且ツ最モ穩當ナルモノナリ

(註)「アダム・スミス」ハ有名ナル富國論第二卷第三章ニ資本ノ成立ヲ説キテ曰ク資本增加ノ直接ノ原因ハ生產ニアラスシテ貯蓄ナリト此説ハ氏ノ學問上ノ信用ニ由リ一世ヲ風靡シ當時之ニ對シテ異説ヲ唱フル者ナカリシカ數十年ノ後ニ至リテ漸々反對説ヲ主張スル者起リ之ニ賛成スル者次第ニ增加シタリト雖モ輓近ニ至ルマテ氏ノ學説ヲ祖述スル有名ナル學者モ亦少カラス例ヘハ

「ミル」ノ資本ハ貯蓄ノ結果ナリ「ロッショル」ノ資本ハ主トシテ貯蓄ノ結果ナリ「フランス、ヴォーカー」ノ資本ハ獨り貯蓄ヨリ生スト云ヘルカ如キ是ナリ第二ノ學説ハ千八百四年「ローデルデール」始メテ之ヲ唱へ後世社會主義ノ理論家タル「ローフド、ベルタス」「カール、マークス」「ラフサル」等ノ異口同音ニ主張スル所ニシテ資本ハ勞働ニ因リテ生スルモノニシテ貯蓄ニ因リテ生スルモノニアラス資本ハ勞働ニ因リテ積極的ニ生產セラレタルモノニシテ貯蓄ト云フカ如キ消極的ノ行爲ニ因リテ發生シタルモノニアラスト云フニ在リ而シテ社會主義者ニアラスシテ現今經濟學者中勞働説ニ左袒スル者少カラス例ヘハ佛國ノ有名ナル經濟學者「ギズ」ノ如キ是ナリ資本ノ成立ヲ勞働ニ歸スルノ學説ハ暫時ノ「ワグナル」「コーン」ノ如キ是ナリ資本ノ形成ニ與リテ力アルモ間ニ大ニ勢力ヲ得タリト雖モ勞働ノ外貯蓄モ亦資本ノ形成ニ與リテ力アルモノナルコトハ今尙ホ多數ノ學者ノ認ムル所ナリ例ヘハ「ラウ」「リツカナレノ」「コナ」等ノ如シ

今第三説ヲ主張スル學者カ其説ヲ確メンカ爲メニ資本ノ發生ノ原始的狀態

ヲ示スカ爲ミニ採用シタル例ヲ左ニ記述スヘシ
 「ロビンソン・クルーソー」ガ一物ヲモ所有セス單身僻輒ノ一孤島ニ漂著シタリト
 假定セんカ彼ハ資本ヲ利用シテ有利ナル生産方法ヲ取ルコト能ヘサルカ故ニ
 例ヘハ野生ノ覆益子ヲ拾集スルカ如キ極メテ原始的ノ方法ニ依リ生活ヲ支ヘ
 サルヲ得ナルナリ此時ニ當リ彼カ第一ノ資本例ヘキ弓矢ノ如キ物ヲ得ント欲
 セハ如何ナルコトヲ爲シヲ要スルカ第一説ニ言フカ如ク貯蓄ハ資本ヲ發生セ
 ミムルコトヲ得ルカ否ヤ決シテ然ラスクルーソー」ハ拾集シタル覆益子ノ消費
 ヲ制限シテ此ヲ蓄積スルコトヲ得ヘシ然レトモ覆益子ハ如何程多量ニ蓄積ス
 ルモ消費貨物ニシテ資本ニアラス第一ノ資本タルヘキ弓矢ハ決シテ自然ニ發生セ
 生セス必ス勞働ニ依リテ新ニ作出セサルヘカラス果シテ然ラハ資本ノ起源ハ
 單ニ勞力ノミナルカ否ヤ決シテ然ラス勿論「クルーソー」ハ資本ヲ作出スル暇ア
 ルトキハ直チニ勞働ヲ爲シテ資本ヲ作出スルナラン然レトモ資本ヲ作ランカ
 為メニ勞働セント欲セハ先ツ資本ノ作出ニ從事スル餘暇ヲ作ラナルヘカラス
 「クルーソー」ハ彼ノ有スル生産力ノ全部ヲ現在ノ生計ノ用ニ供スルコトヲ止メ

其一部ヲ資本ノ作出ニ用ヒンカ爲ミニ留保セサルヘカラス換言スレハ資本ヲ
 作出スルニハ勞働ヲ爲ス前ニ先ツ生産力ノ一部ヲ貯蓄セサルヘカラス例ヘハ
 「クルーソー」ノ有スル一日ノ生産力ノ分量ハ一日ノ労力ト同一ナリ彼ハ一日十
 時間労クモノト假定セハ彼ノ一日ノ生産力八十時間ノ労力ナリ今假ニ孤島
 覆益子ノ賦與少ク彼ハ十時間ヲ勞働スルモ辛ウシテ其生活ヲ支フルニ足ルノ
 食物ヲ得ルニ過キサルトキハ彼ハ資本ヲ作出スルコト能ハサルナリ縱令彼ハ
 弓矢ヲ作リ之ヲ利用スルトキハ如何ニ有益ナルカヲ熟知スルモ之ヲ作ルノ時
 ト力トヲ有セサルナリ若シ彼カ自己ノ境遇ヲ覺ラス弓矢ヲ作ランカ爲ミニ覆
 益子ノ拾集ヲ怠ルトキハ未タ弓矢ヲ作リ之ヲ利用スルコトヲ得サルニ彼ハ既
 ニ餓死セサルヲ得ナルナリ隨テ此ノ如キ場合ニハ資本ハ決シテ發生セサルナ
 リ今若シ假定ノ事實ヲ少シク變更シ此孤島ニ於ケル覆益子ノ供給前ヨリ稍潤
 澤ニシテ「クルーソー」カ健康ヲ進メ益強健ナラント欲セハ全一日十時間拾集シ
 タル覆益子ヲ要ストモ單ニ生活ヲ支フルカ爲ミニハ九時ノ拾集ヲ以テ足ル
 モノトス此ノ如キ場合ニハ「クルーソー」ハ左ニ掲クル二ノ行爲ニ付キ選擇ノ自

由ヲ有スルモノナリ(第一)彼ハ食物ノ準備ヲ豊富ナラシメシカ爲ミニ全一日覆益子ノ捨集ニ從事スルコトヲ得ヘシ斯ク爲ストキハ彼ハ充分ニ現在ノ口腹ノ欲ヲ逞ウスルコトヲ得レトモ弓矢ヲ作ルカ爲ミニ時ト力トヲ殘スコト能ハサルナリ(第二)彼ハ十時間ノ労働力ヲ全然現在ノ慾ヲ充タスカ爲ミニ用フルコトナク覆益子ノ捨集ヲ九時間トシ以テ辛ウシテ生活ヲ支フル才ニ止ムルコトヲ得ヘシ此時ニハ彼ハ十時間内ノ一時間ノ生産力ヲ以テ武器ヲ作ルコトヲ得ヘシ換言スレハ現在ノ快樂ノ一部分ヲ削減シ現在ノ生産力ノ一部分ヲ以テ資本ヲ作出スルコトヲ得ヘシ此ニ所謂現在ノ快樂ノ削減ハ必スシモ前ニ舉タルカ如キ甚シキ苦痛ヲ感セシムルカ如キモノタルヲ要セスクルーンノ労働能力一層強大ナルカ又ハ天惠物一層豊富ナルコトニ因リ彼ノ一日ノ生産力一層大ナルトキハ彼カ弓矢ヲ作ルカ爲ミニ要スル現在ノ快樂ノ削減ハ前例ニ比スレハ稍々輕微ナル苦痛ヲ惹起スルニ過キサルナルヘシ要スルニ資本ノ發生ハ現在ノ生産力ノ全部ヲ現在ノ快樂ノ用ニ供セス其一部ヲ將來ノ快樂ノ用ニ供セんカ爲ミニ留保スルコトヲ要スルモノナリ換言スレハ資本ヲ作出スルニハ生産

力ノ貯蓄ナカルヘカラス茲ニ讀者ノ注意ヲ乞フヘキ所ハ貯蓄ノ目的物ハ生産力ニシテ資本ヲ形成スル貨物ニアラサルコト是ナリ人ハ現在ノ快樂ヲ制限シテ生産力ヲ貯蓄シ之ヲ以テ資本ヲ作ルコトヲ得ルナリ唯極メテ例外ノ場合ニテハ資本ヲ形成スル貨物其物カ貯蓄ノ直接ノ目的ト爲ルコトアリ例へハ穀物ノ如キハ其性質上食物トシテ直接ノ消費ニ充テ又ハ種物トシテ生産ノ用ニ供スルコトヲ得ヘシ今若シ穀物ノ一定量ヲ直接消費ニ供スルコトヲ止メテ種物トシテ生産ニ使用スルトキハ其一定量ノ穀物ハ資本ト爲ルナリ夫故ニ此場合ニテハ資本ヲ形成スル貨物即チ穀物ヲ直接消費ニ供セシテ將來ノ快樂ノ爲メニ留保スルコト即チ穀物ノ貯蓄ハ種子ナル資本ノ發生スル基礎ヲ爲スモノナリ

資本ノ存在額ノ増加モ亦原始的作成ト同一ノ事情ニ因リテ行ハルモノナリ例ヘハ「タルソーカ」一箇月毎日九時間ノ労働ヲ以テ捨集シタル覆益子ヲ消費シテ生活ヲ支ヘ残餘ノ一時間ヲ武器ノ作成ニ用ヒタリト假定セヨ今彼ハ三十日間ノ労働ノ結果トシテ弓矢ヲ得之ヲ以テ禽獸ヲ捕獲シ前月ヨリハ一層容易

ニ且ツ充分ニ生活ヲ營ムコトヲ得ルニ至レリ隨ヲ得テ蜀ヲ望ムハ人情ノ當ナリ彼ハ弓矢ノ外衣服、家屋其他快樂ヲ與フル各種ノ貨物ヲ欲スルノ情切ナリ然ルニ此等ノ貨物ヲ作成スルニハ相當ノ中間ノ生産物斧鎌、鍤釘等ナカルヘカラヌクル一ソーハ如何ニシテ此等ノ新資本ヲ作成スルコトヲ得ルカ彼若シ弓矢ノ作成ニ因リテ改良セラレタル境遇ヲ單ニ直接ノ快樂ヲ増スカ爲メニ利用スルトキ詳ク言へハ彼ノ全體ノ勞働時間ヲ覆益子ノ拾集禽獸ノ狩獵、睡眠等ニ用フルトキハ營ニ新ナル資本ヲ得ル能ハサルノミナラス既得ノ資本ヲモ失フニ至ラン弓矢ハ永遠ニ保續スルモノニアラス矢ハ其數ヲ減スヘタモ亦次第ニ破損スベシ故ニ資本ノ存在額ヲ維持セント欲セハ彼ハ十時間ノ内一時間ハ武器ノ修理ニ用ヒ唯残リ九時間ノミ覆益子ノ拾集狩獵等ニ使用スルコトヲ得ヘシ之ヲ議論體ニ記述スレハ資本ノ現狀ヲ維持セント欲セハ現在ニ消費シタル過去ノ生產力ト同一量ノ現在ノ生產力ヲ將來ノ用ニ供スルカ爲メニ之ヲ將來ニ傳ヘサルヘカラス換言スレハ現在ニ消費スル貨物ハ全ダ現在ノ生產力ノ產物タルト過去ノ生產力ノ結果タルトヲ問ハス其分量ハ現在ノ生

產力ニ依リテ新ニ生產セラレタル產物ノ額ヲ超過スヘカラス再ヒ他ノ語ヲ以テ言ヒハ一箇月ノ支出ハ一箇月ノ收入ヲ超過スヘカラス
 (註)尤モ生產的技術ノ進歩ニ因リ又ハ全ク資本存在セサリシ時ト異ナリ既存ノ資本ヲ利用シテ生產ヲ爲ストキハ益、有益ナル生產方法ヲ採ルコトヲ得ルカ故ニ資本ノ減損ヲ補充シテ資本存在ノ現狀ヲ維持スルコトハ資本ノ皆無又ハ少カリシ時ヨリ新ニ之ヲ作り若クハ增加シテ原狀ニ損スルコトニ比スレハ少キ勞力ヲ以テ足ル場合少カラス例ヘハ「クル一ソーハ弓矢製造ノ熟練ト新智識ヲ得タルカ爲メ營テ三十日ヲ費シタルト同様ノ武器ヲ僅ニ十八日ニテ作ルコトヲ得ルニ至ルコトアルヘク又弓矢ヲ新調スルニハ三十日ヲ要シ毎日少シモ手入ヲ爲ササルトキハ一箇月ノ使用ニ因リテ全ク破損ニ了ルヘキモノヲ毎日十五分間宛手入ヲ爲ストキハ能ク二箇月間保續スルカ如キコト屢見聞スル所ナリ故ニ毎日減損スル丈ノ過去ノ產物一定量ヲ生產スルカ爲メニ費サレタル過去ノ勞力ノ分量ヨリ少量ナル現在ノ勞力ヲ將來ノ爲メニ費スコトニ因リテ尙ホ資本ノ現存額ノ遞減ヲ免ルコトヲ得ル場合

ナキニアラサルナリ而シテ若シ新ニ資本ヲ増加セント欲セバ「クルーソー」ハ十時間ノ労働時間中再ヒ武器ヲ新調シテ始メノ武器ノ破損ニ備フルカ爲メレハ現在ノ生産力ニ依リテ新ニ發生セシムルコトヲ得ヘキ生産物全體ニ比シテ少量ナル生産物ヲ現在ノ享樂ニ供ヘサルヘカラス詳ジク言ヘハ新ニ資本ヲ増加セント欲セハ當ニ舊資本ノ缺損ヲ補填スルニ必要ナルモノノ外尙ホ一層多ク現在ノ生産力ヲ現在ノ享樂ニ用ニ供スルコトヲ節約シテ之ヲ将来ノ用ニ充當セサルヘカラス資本者當ニ更力を盡す事無く資本ヲ貯蓄以上述ヘタル設例ノ如クナルヲ以テ資本ハ貯蓄ト勞働ト二者相俟チテ發生スルモノナリト云フ學說ハ最モ至當ナルモノナリ

第三章 生產ノ組織

生産ノ組織トハ生産要素即チ自然労力、資本ヲ生産ノ目的ニ向テ協同セシムル社會上ノ仕組ヲ謂フナリ。其要領也。百萬民ノ勞働一時トシテ一人ニテ生産ニ必要ナル總ノ要素ヲ有スルコトアリ。此場合ニハ生産ノ要素ヲ結合セシムルニハ技術上ノ組織ヲ要スレントモ社會上ノ組織ヲ要セサルナリ。然レトモ生産ヲ爲スニ必要ナル勞力資本等ノ要素カ一人ノ手ニ備ハサルトキニ當リテ此等ノ生産要素ヲ結合セシメント欲セハ或種類ノ社會上ノ組織若クハ制度ナカルヘカラス。

昔時人文未タ開ケス人身ノ自由十分ニ認識セラレサル時ニ在リテハ社會ノ強者ハ弱者ヲ強制シテ自己ノ配下ニ屬セシメ自己所有ノ資本ト土地ニ勞力ヲ加ヘシメテ生産ヲ爲サシタルコトアリ。此ノ如キ制度ヲ奴隸制度ト謂フ。現今ノ社會ニ於テハ人身ノ自由ヲ認ムルカ故ニ勞働能力ノ外何物ヲモ有セサル多數ノ民衆アレトモ之ヲ强迫シテ生産ニ從事セシムルコト能ハス又私有財產制度一般ニ行ハレ產業ノ規模ハ益膨脹スルカ故ニ生産ヲ爲スニ必要ナル資本、土地、労力ハ全部一人ノ所有ニ屬セサル場合少カラス是ニ於テ貨財ヲ生産セ

ント欲スル者ハ其事業ノ成否如何ニ拘ラズ一定ノ報酬ヲ與フルコトヲ約シテ他人ニ屬スル生産要素ヲ集メ自己ノ有スル生産要素ト結合セシメテ始メテ目的ヲ達スルコトヲ得ルヲ通常トス此ノ如ク自己ノ危険十計算トヲ以テ自己及ヒ他人ニ屬スル生産要素ヲ集メテ生産業務ヲ經營スル者ヲ企業者ト謂ヒ企業者ニ依リテ營業ナル生産業ヲ企業ト謂ヒ以上ノ如キ條件ノ下ニ數人ニ屬スル生産要素ヲ生産ノ目的ニ向テ結合セシムル社會上ノ組織ヲ企業組織ト謂フ

普和人文未開闢 第一節 企業ノ種類

- (一) 規模ノ大小ヲ以テ之ヲ分トキハ大企業小企業ノ二ト爲スニコトヲ得シ
企業ヲ大規模ニ營ムトキ左ノ如キ利益アリ
(1) 資本ヲ節約スルコトヲ得セシム例へハ二萬錠ノ紡績工場一箇ヲ作ルニ
並ベ一萬錠ノ工場二箇ヲ建設スルニ比スレハ其費用少ク百馬力ノ蒸機一臺ヲ
運轉スルニ必要ナル石炭ハ五十馬力ノモノニ臺ニ費スモノニ比スレハ其分

量少カルヘシ此ノ如ク大企業ハ生産高ニ比較シテ一般ニ資本ノ使用ヲ節約スルコトヲ得セシム
(2) 發明改良ヲ利用スル機會多シ文明諸國ニ於テハ精神上ノ所有權ナルモノノヲ認メ新發明ヲ爲シタル者新意匠ヲ出シタル者ニ特權ヲ與ヘテ之ヲ保護大企業者ハ此等ノモノニ相當ノ報酬ヲ與ヘテ其發明新意匠ヲ自己ノ產業ニ應用スルコトヲ得レトモ小企業者ハ其費用ニ堪ヘサルコト多シ其他大企業者ハ多數ノ技術者ヲ雇傭シ置キ其一部ノ者ヲシテ全ク日常ノ業務ニ關與セス當ニ其事業ニ關スル發明改良ノミニ盡力セシメ其成績ノ舉ルニ隨ヒテ事業ニ應用スルカ如キ場合少カラスト云フ現ニ獨逸ノ或アニリン染料製造業ニ於テハ發明改良ノコトノミニ從事セシムルカ爲メニ常ニ高等ノ技術者數十人ヲ雇ヒ置クト云フ

(3) 勞力ノ效驗ヲ大ニス大企業ハ多額ノ報酬ヲ與ヘテ業務ニ適スル有爲人物ヲ雇入ルコトヲ得ヘク多數ノ勞力者ヲ使役スルカ故ニ分業制度ヲ實施シ各労働者ニ其能ニ應シテ適當ナル仕事ヲ與フルコトヲ得ヘシ

(4) 廉物ヲ利用スルコトヲ得セシム。例へハ大規模ノ石油精製所ニ於テハ良油ヲ取リタル殘滓稍多量ナルヲ以テ機械油ヲ製造シテ尙ほ多少ノ利益ヲ收ムルコトヲ得ルモ小精製所ニテハ其量少キ。以テ之ヲ如何トモスル能ハサルカ如キ是ナリ。

(5) 附屬ノ工業ヲ自營スルコトニ由リ經營ヲ節約スルコトヲ得セシム。例へハ大製造所ニハ附屬ノ機械製作所ヲ具ヘテ機械ノ修繕、小道具ノ製作等ヲ營ミテ他ノ工場ニ依頼スル煩勞ヲ避ケ経費ヲ節約スルコトヲ得ルカ如キ是ナリ。

(6) 資本ノ借入レ原料ノ買入製造品ノ販賣ニ付テ小企業ニ比スレハ便益多シ。大企業ハ右ノ如ク諸種ノ便宜アリト雖モ多少ノ缺點ナキニアラ。ス例へハ大企業ニ於テハ事業經營ノ實務ハ雇入若クハ企業ノ成否ニ關シテ唯一部分ノ責任ノミヲ有スル一二ノ組合員ニ委任スルコト多シ此等ノ人人ハ事業ニ對スル利害ノ關係切ナラサル所ヨリシテ企業ノ成否ニ關スル全體ノ責任ヲ有スル者ニ比スレハ注意周到ナラサルノ弊アリ右ノ如キ缺點アルニ拘ラス大企業ハ小企業

- ニ比シテ利益多キカ故ニ苟モ事業ノ性質カ大企業ヲ容ストキハ其規模ハ益彌展シ小企業ハ漸次大企業ノ爲メニ壓倒セラルハ勢ノ免レザル所ナリ。産業ノ集中ハ現今ノ大勢ニシテ之ヲ如何トモスルコト能ハスト。雖モ多少之ヲ制限スルノ原因ナキニアラス例へハ電氣、水力、風力發動機、瓦斯發動機、石油發動機、車、水車等ノ如キ之ヲ設置スルノ費用割合ニ多額ナラス且ツ其構造簡單ニシテ之ヲ使用スルニ特別ノ技術者ヲ要セサルカ如キ小機械ヲ使用シテ自然力ヲ利用スルトキハ人力ノミニ依リテ貨財ノ生産ヲ爲スニ比スレハ大ニ小企業者ノ不利益ヲ減少スルモノナリ。
- (2) 實業雑誌ニ依リテ産業ニ關スル新智識ノ普及スルコト。現今ノ社會ニ於テハ新規ノ發明、改良等ノ新智識ハ實業雑誌ニ依リテ一般ニ普及スルカ故ニ小企業者ト雖モ普ク之ヲ知リ之ヲ利用スルコトヲ得ルカ故ニ此ノ如キ方便ナカリシ時ニ比スレハ此事ニ關スル不利益ヲ減スルコトヲ得ルナリ。
- (3) 同種ノ産業ヲ一地方ニ集中スルコト。例へハ京都市ニ於ケルカ如ク紹興

物ノ小工場ノ多數カ一箇年ニ集中スルトキハ染物ノミヲ專業トスル者アリ
染物ノ中ニ或特種ノ染色ノミヲ専門トスル者アリ又織物ノ仕上ノミヲ専門
トスル者アリ然系ノミヲ専門トスル者アリテ尙ホ大製造場ニ於テ完全ナル
技術上ノ分業アルカ如シ此ノ如ク同種ノ生産ヲ營ム小工場ノ一箇所ニ集中
スルトキハ小企業者ト雖モ尙ホ分業ノ利益ヲ收ムルコトヲ得ルモノナリ
(4) 產業組合ノ組成 小企業者ハ相聯合シテ種種ノ產業組合ヲ組成シテ小企
業ニ伴フ不利益ヲ輕減スルコトヲ得ヘシ產業組合ニハ組合員ニ產業ニ必要
ニナル資金ヲ貸付シ及ヒ貯金ノ便宜ヲ得セシムル者信用組合組合員ノ生産
シタル物ニ加工シ又ハ加工セスシテ之ヲ賣却スル者販賣組合產業又ハ生計
ニ必要ナル物ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却スル者購買組合組合員ノ生產シ
タル物ニ加工シ又ハ組合員ヲシテ產業ニ必要ナル物ヲ使用セシムル者生產
組合等アリ(產業組合法第一條)

(5) 企業者ノ資格ニ依リテ之ヲ分ツトキハ私ノ企業ト公ノ企業ノ二ト爲ス
コトヲ得ヘシ

私ノ企業トハ私人ノ企業者タル場合ヲ謂ヒ公ノ企業トハ公ノ法人(國家府縣郡
市町村其他ノ公共團體)ノ企業者タル場合ヲ謂フ

私ノ企業者ハ更ニ分レテ個人企業ト團體企業ノ二ト爲ル

(イ) 簡人企業トハ企業者カ一箇人タル場合ヲ謂フ

簡人企業ノ利益ハ左ノ如シ

(1) 企業者ヲ勉勵ナラシム 企業ノ損益全ク一身ニ歸シ其事業ノ成功如何ハ
其人ノ社會上ノ地位ニ影響ヲ及ホスコト大ナルカ故ニ企業者ノ自利心ト名
譽心トハ大ニ奮興シ深ク市場ノ狀態ニ注意シ熱心ト忍耐トヲ以テ業ニ當リ
兼テ冗費ノ節約ヲ勉ムルモノナリ

(2) 企業者ヲ獨立不羈ナラシム 企業者ハ自己一人ノ意思ヲ以テ營業上ノ所
置ヲ爲シ得ルカ故ニ臨機ノ決斷ヲ爲シテ利益ヲ收メ損失ヲ免ルルコトヲ得
ヘシ

又簡人的企業者ハ永ク其企業固著シ之ヨリ生スル利潤ノ中自己ノ生活ニ必
要ガルモノヲ除キテ尙ホ殘餘アルトキハ通常再ヒ之ヲ企業資本ニ繰入ル

カ故ニ此種ノ企業ハ安全ナル基礎ノ上ニ漸次擴張セラルモノナリ。現今世ニ存在スル確實ナル企業ハ此ノ如き方法ニ依リテ小ナル簡人の企業ヨリ發達シタルモノ甚多シ又企業者ト労働者トノ關係モ他ノ種ノ企業ニ比スレハ至テ親密ナリ之ヲ要スルニ簡人の企業ハ他種ノ企業ニ比スレハ通常最も利益多く且ツ廣ク一般ニ行ハルモノナリ。七八の意思、或そ營業上入資又簡人の企業ノ不利ハ左ノ如シ。

(1) 大事業及ヒ危險多キ業務ニ適セス。企業者一箇人ナルトキハ其能力及ヒ資產ニ限アルヲ以テ大規模ノ事業ニ適セス又其營業ヨリ生スル損失ハ企業者一人ニテ之ヲ負擔セザルヘカラサルカ故ニ危險多キ事業ニ當ルコトヲ好マサルナリ。

(2) 企業カ企業者ノ一身上ノ有様ニ因リテ甚シキ影響ヲ受ク。企業カ一箇人ニ依リ營マル場合ニ於テ企業者ニ疾病死亡等ノ事故アルトキハ其企業ハ常頗ニ衰退シ若タハ廢滅ニ歸スルコトアリ。

(3) 團體企業トハ二人以上ノ入カ財產勞力等ヲ合セテ企ツル所ノ事業ヲ謂フ。團

體企業ハ組合員ノ出資ノ種類組合員ノ権利義務ノ如何ニ因リ種種ニ分タル今其重ナルモノヲ列舉スレハ左ノ如シ。

- (1) 當座組合トハ二人以上ノ人カ共通ノ計算ヲ以テ一定ノ商取引ヲ行ハシカ爲メ爲シタル時聯合ヲ謂フ而シテ此組合ノ關係ハ其目的トスル商取引終了スルトキハ同時ニ消滅スルモノナリ。
- (2) 匿名組合トハ自己ヲ表示スル名稱ヲ商號ニ表ハサス一定ノ財產ヲ他人ノ營業ニ出資シテ其者ノ所有ニ移シ自己ハ業務ノ施行ニ與ルコトナクシテ唯損益ノ共分ヲ得ルコトヲ約スルニ因リテ成立ツ所ノ組合ヲ謂フ。商法第三編第四章而シテ營業者ハ業務ノ執行ニ就クハ少シモ制限ヲ受クルコトナク匿名組合員ノ出資ノ所有者ト爲リ第三者ニ對シテハ獨リ権利ヲ得義務ヲ負フ而シテ匿名組合員ハ表面上營業者ニ對シテ債權者ノ地位ニ立チ出資ニ對シテハ利潤ノ配當ヲ求メ營業者ノ業務ヲ監視シ組合關係終了シタルトキハ其出資ノ返還ヲ求ムルコトヲ得ヘク組合ノ損失ニ就クハ其責任ハ出資ニ限タルモノトス。

此種ノ組合ハ個人的企業ノ長所タル活潑ナル利己心ノ勢力ト獨立不羈ノ決断トノ利益ヲ失ハシテ企業ノ才幹アリテ資力乏シキ者ニ驕足ヲ延ハスコトヲ得セシムルト同時ニ身分ノ如何ニ因リ公ニ企業者トシテ外面ニ顯ハルルコト能ハサルカ又ハ欲セサル者ニ有限ノ危險ヲ以テ自ラ營業ニ干與スルコトナク而セ利潤ノ分配ニ與ルコトヲ得ルコトヲ得セシム匿名組合員ハ營業者ノ爲メニ欺カルルノ虞アルカ故ニ之ニ對シテ十分ナル信用ヲ置クニアヌレハ此ノ如キ關係ヲ結フコトナシ隨テ此組合ハ通常近親又ハ友人間ニノミ成立ツモノナリ

(3) 合資會社 ハ匿名組合ヨリ發達シタルモノニシテ有限無限二種ノ社員ヨリ成ル會社ナリ而シテ無限責任社員ノミ業務執行ノ責ニ任シ有限責任社員ハ業務ノ執行ニ干與セヌ又其出資ハ財產ニ限り其責任ハ出資ニ限ラルルモノナリ合資會社ノ匿名組合ト異ナル所ハ有限責任社員ノ出資ハ無限責任社員ノ所有ニ移ラスシテ會社財產ノ一部ヲ爲シ其出資額ハ商業登記簿ニ登記セラレ何人ト雖モ其組合ノ關係ヲ知ルコトヲ得ルニ在リ

(4) 株式合資會社 ハ合資會社ニシテ有限責任社員ノ出資カ一定平等ノ株式ニ分タルルモノヲ謂フ株式會社ノ合資會社ト異ナル要點ハ有限責任社員ノ出資カ一定平等ノ株式ニ分タレ且ツ之カ讓渡ニ關シテ合資會社ノ場合ト異ナリテ無限責任社員ノ同意ヲ要セサルニ在リ又株式會社ト異ナル點ハ業務ノ執行者ハ株主中ヨリ選任セラレタル取締役ニアラスシテ無限責任社員ナルコト是ナリ

合資會社及ヒ株式會社ハ匿名組合ト同シク有爲ニシテ資力ニ乏シキ者ニ十分ナル資本ヲ得セシメ資本家ヲシテ業務ニ干與セスシテ利潤ノ分配ニ與ルコトヲ得セシムルカ如キ利益アリト雖モ無限責任社員ノ所置如何ニ因リテ有限責任社員ハ大ナル損益ヲ受クルノ恐アリ例へハ無限責任社員ハ會社ノ資本ノ大部分カ他人ノ出資ナルニ由リ輕輕ニ冒險事業ヲ企テ又自己ノ出資物ヲ過當ニ評價シテ有限責任社員ニ損失ヲ被ラシムル恐アリ

(5) 合名會社 ハ二人以上ノ人カ其財產若クハ業務信用ヲ出資シテ組織セルモノニシテ其社員ノ責任カ出資ニ止マラサルモノヲ謂フ此種ノ會社ハ所ア

異ニシテ各別ニ業務ヲ執行セタルヘカラサル場合又ハ其性質複雜シテ一人ニ兼備シ難キ數種ノ才能技術ヲ要スルカ如キ事業ヲ營ムニ適スルモノナリ然レトモ此社員ノ責任ハ無限ナルヲ以テ互ニ相信任スル者ノ間ニノミ成立シ得ハキモノナルカ故ニ多數ノ人ヲ集メ巨額ノ資本ヲ募ルコト能ハサルカ故ニ其適用ノ範圍モ亦極メテ狹隘ナルモノナリ。運営者、社員、監査員、會計員、株式會社トハ數人共同シテ各其引受タル株數ニ從ヒ財産ヲ醸出シテ組織セルモノニシテ各社員ノ會社ノ義務ニ對スル責任ハ其出資ニ依リテ限ラレ且フ株式ノ讓渡ハ各人ノ隨意ナルモノヲ謂フ。

(甲) 株式會社ノ效益

一旦資本ヲ一定ノ事業ニ放下スルモ其後家計上ノ都合ニ由リ若クハ他事業ニ振向ケンカ爲メニ其資本ヲ回収セント欲スルトキハ何時ニテモ株式ヲ市場ニ賣却シテ其目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ。企業及企業等一様ニ當リテ、三、財產ノ安全ヲ害スルコト少クシテ利益ヲ得ルノ機會ヲ増加スル。會社ニ如何程損失アルモ如何ニ巨額ノ負債ヲ生スルモ各社員ハ其持株ニ對シテ爲スキ拂込金ノ外少シモ資金ヲ支出スルノ義務ナキカ故ニ事業ノ失敗シタル場合ニ被ルヘキ損害少シ又資本家ハ利益多キモ危險ノ大ナル事業ニ對シテハ財產ノ一小部ヲ放下シ利益割合ニ小ナルモ危險ノ小ナル事業ニ大部分ヲ放下スルコトヲ得ヘク又ハ同時ニ多數ノ株式會社ニ加入スルコトニ依リテ利益ノ平均ヲ計ルコトヲ得ヘシ又小額ノ資本ニ依リテ生產力ノ大ナル大企業ニ參與スルコトヲ得ヘシ。又ヘ財友會社へ貢奉シ候。對於財物之公私

(乙) 社會一般ニ對スル效益
一、多額ノ資本ヲ要シ若クハ大危險ノ隨伴スル事業ノ經營ヲ容易ナラシム。株式會社ノ資本ハ小額ノ株式ニ分タビ社員ノ責任ハ有限ニシテ社員ハ自ラ業

務執行ノ責ニ當ルヲ要セス株式ノ讓渡ハ各人ノ隨意ナルカ故ニ多額ノ資本ヲ募集スルニ便ナリ此方法ニ依ルトキハ能ク多數ノ人ニ散在スル小資本ヲ集メテ大資本ニ伴フ大生産力ヲ與ヘ收入ヲ小數ノ人ニ集中スルコトナクシテ大企業ヲ爲スコトヲ得セシム又ハ株式會社ハ増株ヲ爲シ優先株、社債券等ヲ發行シテ資本金ヲ増加スルコト頗ル容易ナリ又株式會社ノ社員ノ責任ハ有限ナルカ會社カ如何ナル大損失ヲ爲スモ株主ハ其出資額ヲ失フニ過キス故ニ經営危險大ナルモ大利益ヲ生スル見込アル事業ヲ營マンカ爲メニ株式ヲ募集スル者アルトキハ已カ財產ノ一小部分ヲ賭シテ之ヲ取得セント欲スル資本家ヲ得ルハ極メテ容易ナリ保險業鐵道業海底電線ノ沈設、運河開鑿鐵山業等ノ巨額ノ資本ヲ要シ又危險ノ大ナル事業ハ株式會社ノ形式ヲ採用スルニアラサレハ到底近日ノ如キ發達ヲ見ルコト能ハナリシナルヘシ二、企業ヲ永續セシム簡人の又ハ他ノ團體的ノ企業ハ企業者一身ニ從屬スルコト甚シキカ故ニ其人ノ病氣死亡又ハ破産等ニ由リ企業モ亦廢滅ニ歸スルコトアリト雖モ株式會社ハ社員ノ一身上ノ狀態ニ由リテ企業ニ影響ヲ及ホ

四、スコトナク且ツ株式ノ讓渡自由ナルカ故ニ解散ヲ催サルルコト少タ企業ヲ永續セシムルノ傾向アルモノナリ
三、無資力ナル秀才ニ手腕ヲ舊フノ機會ヲ得セシム 株式會社ハ事務的才幹ヲ備ヘ又ヘ技術上ノ才能アル者ニシテ自己ノ資本ヲ有セサル者ニ其能力ニ相當ナル職務ヲ供スルモノナリ特ニ株式會社ノ役員ハ簡人的企業又ハ他ノ團體的企業ノ下ニ在ルモノニ比スレハ其地位稍獨立ナルカ故ニ一箇人ニ對シル從屬ノ關係ヲ厭惡スルカ爲ミニ從來專ラ國家ノ役人タランコトヲ希望タル人才モ好ミテ株式會社ノ職務ニ就クニ至レリ此事タル大ニ一國ノ殖產事業ヲ進獎スルト同時ニ間接ニハ需要ノ增加ノ爲ミニ一般ニ此種ノ人才ニ對スル待遇ヲ厚カラシムルモノナリ貴族富翁小企業、商店、廠房及交際連株式會社ノ弊害
一、小企業ノ衰滅ヲ速ナラシム 株式會社ノ形式ニ依ルトキハ巨額ノ資本ヲ集合スルコト極メテ容易ナルカ故ニ大企業ノ經營ヲ獎勵シ其暴威ヲ助長シ益小企業ノ衰滅ヲ速ナラシム而シテ其衰滅ノ際ニ當リテ困難スル者ハ獨リ小

企業者ニ止マレトモ此ノ如クニシテ生シタル幾多ノ大企業又ハ他ノ大企業ヲ買收シ又ハ合併聯合シテ更ニ大ナル企業者ト爲リ獨占的ノ地位ヲ得ルニ至リテハ一般消費者ヲ苦ムルニ至ルモノナリ。是れハ莫大之財産・資本・機器・營業費多々且ツ業務ノ執行敏活ヲ缺ク。株式會社ハ業務ヲ執行スルニハ種類ナル機關ヲ具ヘサルヘカラス。隨テ費用嵩ミ小企業ノ經營ニ適セヌ又業務ノ執行ニ當リテハ法律定款ノ規定ニ依リ複雜ナル手續ヲ履行スルノ必要アリ。隨テ敏活ニ業務ヲ處理スルコト能ハサルノ弊アリ。

(註) 永ク忠實ニ勤懃シタル使用人ヨリ支配人理事等ヲ選任シテ之ニ業務ノ管理ヲ委任スルトキハ大ニ此弊ヲ矯正スルコトヲ得ヘシ。何トナレハ彼等ハ會社事業ノ成功ヲ以テ自己ノ名譽ト爲スヲ以テナリ。

四、授機心ヲ助長ス。株式會社ニ加入スルトキハ業務ヲ管理セスシテ利潤ノ分

配ニ與ルコトヲ得ヘク株式ノ價格カ拂込金額ニ勝貴シタルトキニ當リテ之ヲ賣却スルトキハ其差額ヲ利益スルコトヲ得ヘシ。此ノ如ク勞セスシテ大ナル利益ヲ得ルノ機會ヲ與フルハ人ヲシテ勤勉ナル勞働ニ對スル尊敬心ヲ失ハシメ投機心ヲ增長シ。社會ノ德義心ヲ毀壞スルモノナリ。

五、發起者又ハ管理者ニ不正ノ所行ヲ爲ナスノ機會ヲ與フ。株式會社ノ株主ハ通常其數甚タ多ク其持主モ屢更スルモノナルカ故ニ多數ノ株主ハ其住所ノ遠隔ナル爲メ一株主總會ニ出席シテ自ラ會議ニ與ルコトナク出席シタル株主ト雖モ會社事業ノ狀況ヲ悉知スルコト少シ又株主中ニハ一時ノ配當又ハ株式價格ノ騰貴ニ因リ利益ヲ得シカ爲メニ暫時加入シ居ルモノニシテ會社事業ノ確否ニ關シ殆ト何等ノ考慮ヲモ用ヒサル者少カラサルカ故ニ株主總會ナガモノハ十分ニ管理者ヲ監督スルコト能ハズ監督役ナルモノモ主トシヲ他人ノ資本カ如何様ニ管理セラルカラ監視スルモノナルカ故ニ其監督權モ亦有名無實ニ過キサル場合甚タ多シ之ヲ以テ株式管理者ハ深ク將來ヲ顧慮セスシテ一時ノ配當ヲ多クシテ株式ノ價格ヲ騰貴セシメ其間ニ自己ノ

持株ヲ賣却シテ退社スルカ如キ又會社ノ資金ヲ私用シテ投機業ヲ爲スカ如キコトアリ又管理者ハ大資金ヲ左右スルコトヲ得ルカ故ニ會社ノ配當金ヲ増加シ又ハ自己ノ私利ヲ逞ウセンカ爲ミニ政治社會ニ勢力アル人又ハ新聞記者ニ賄賂ヲ行使シテ非行ヲ遂クルコトアリ又株式會社ノ發起人ハ眞實會社事業ヲ遂行セントスルノ意思ナク單ニ自己ノ收受ケタル株式ヲ賣却シテ利益ヲ得ルコトヲ以テ目的ト爲ス者アリ此等ノ人ハ深ク將來ヲ顧慮セス屢々輕忽ナル企業ヲ計畫スルモノナリ而シテ彼等ハ時シテ創業ノ勞力ニ對シテ不當ノ報酬ヲ貪リ自己ノ所有ノ工場建物、土地、特許權等ヲ不當ノ價格ヲ以テ會社ニ賣却シテ株主ヲ害スルコト少カラス

株式會社ニハ以上陳述シタルカ如キ利害相伴フカ故ニ百般ノ企業中或ハ此形式ヲ以テ經營スルニ適スルモノアリ或ハ然ラナルモノアリ多額ノ資本ヲ要セス急劇ナル景氣ノ變遷ニ應シテ敏活果斷ノ處置ヲ要スルカ如キ企業ハ此形式ヲ營ムニ不適當ナルモノナリ之ニ反シテ大資本ヲ要シ一旦放下シタル資本ハ短期間ニ再ヒ回収シ能ハサルカ如キ若クハ大危險ノ隨伴スル企業ハ

此形式ヲ以テ經營スルニ適スルモノナリ例ヘハ鐵道、運河汽船、海底電線、信用保険ノ事業等ノ如キ是ナリ

產業組合

產業組合トハ共同事業ノ經營ニ由リテ組合員ノ產業又ハ經濟ノ發達ヲ企圖スル自由組合ヲ謂フ

社、自由組合ト云フハ組合ニ加入スルト否トハ全ク各人ノ隨意ニシテ一地域内ニ居住スルコト若クハ一定ノ職業ニ從事スルノ故ヲ以テ其意思ニ反シテ加入ヲ強制セラルルカ如キモノニアラナルヲ謂フナリ之ニ反シテ產業ニ關スル組合ニシテ強制的ノ性質ヲ備フルモノアリ例ヘハ重要物產同業組合、產牛馬組合ノ如キモノ是ナリ共同事業ノ經營ト云フハ各人カ生計ノ爲メ若クハ產業ノ爲ミニ單獨ニ行フヘキ手續ノ一部分若クハ全部ヲ組合ノ方式ニ依リテ共同ニ經營スルコトヲ謂フナリ

產業組合ノ組合員ハ組合ノ資本ヲ形成スルカ爲ミニ若干ノ金額ヲ拂込ムヘキモノナリ而シテ組合員ノ組合ノ義務ニ對スル責任ハ定款ノ定ニ依リテ無限責

任タルコトアリ有限責任タルコトアリ若クハ保證責任タルコトアリ産業組合
カ他ノ企業的團體ト異ナル所ハ組合員ノ社會上ニ於ケル地位及ヒ組合員カ此
種ノ團結ニ依リテ達セント欲スル目的ニ在リ他ノ企業的團體ハ主トシテ中等
以上ノ者ヨリ成リ其組合員カ團體ニ依リテ達セント欲スル目的ハ事業ヨリ生
スル純益ヲ收ムルニ在リ之ニ反シテ産業組合ニ於テハ其組合員ハ主トシテ中
等以下ノ者ヨリ成リ且ツ組合員カ團體ヲ形成スルハ之ヲ以テ各自ノ社會上ノ
地位ヲ保持シ若クハ上進スルノ自助的手段ト爲サンカ爲メナリ
産業組合ハ其爲ス所ノ仕事ノ種類ニ基キテ之ヲ區別スルトキハ左ノ如ク分類
スルコトヲ得ヘシ(産業組合法第一條)

- 一 信用組合
- 二 販賣組合
- 三 購買組合
- 四 生產組合

又一般經濟上ノ性質ニ據リテ區別スルトキハ左ノ如クニ分ツコトヲ得ヘシ

- 一 生計ノ費用ヲ節約センカ爲メニスル組合
- 二 大企業ノ競爭ニ對シテ小企業ノ經濟上ノ獨立ヲ保持センカ爲メノ組合
- 三 勞働者ノ地位ヲ高メテ之ニ獨立ナル經濟上ノ地位ヲ得セシメンカ爲メノ
組合
- 第四種ノ組合ニ屬スルモノハ住家ヲ建築シテ勞働者ニ與ヘ年賦拂込ノ方法ニ
依リテ遂ニ之ヲ彼等ノ所有ニ歸セシメ之ニ依リテ永ク不廉ナル家貸ヲ仕拂フ
ノ負擔ヲ免レシムルモノ又ハ消費組合即チ日用品ヲ一經ニ買入レテ組合員西
分配シ之ニ依リテ各人カ箇箇獨立ニ小賣商人ニ付テ買フヨリハ低廉ニシテ且
フ品質佳良ナルモノヲ得セシムルモノ等はナリ消費組合ノ大ナルモノニ至リ
テハ附屬ノ工場ヲ備ヘ日用品ノ一部ヲ製造スルモノアリ
- 此組合ハ小額ノ資本ノ拂込ノ外組合員ニ對シテ求ムル所ナシ隨テ職業ノ何タ
ルヲ問ヘス何人ト雖モ之カ組合員タルヲ得ヘシ故ニ之ヲ組織スルコトハ最モ
容易ナリ隨テ各種ノ産業組合中其起原最モ早ク最モ廣ク流布シタルモノナリ
- 第二種ノ組合ニ屬スルモノハ信用組合購入組合、販賣組合、精製組合、機械組合等

是ナリ
此組合ハ組合員ニ常ニ低廉ナル信用ヲ供シ組合員ノ要スル生産原料ヲ一經ニシテ廉價ニ購入シ組合員ヨリ集メタル生産品ヲ一括シテ之ヲ販賣分集シ若クハ之ニ加工シテ之ヲ卸賣商ニ賣リテ賣得金ヲ多カラシメ各個人ヘ時々使用スル必要アルモ餘リニ高價ニシテ各自之ヲ備フルコト能ハサルカ如キ機械等ヲ使用セシムルコト等ニ因リ組合員タル小企業者ニ從來大企業ニノミ伴ヒタル經濟上好都合ナル條件ヲ供シ之ニ依リテ大企業者ニ對シテ小企業ノ經濟上ノ獨立ヲ保持セシメントスルモノナリ此種類ノ組合ハ前ニ述ヘタルカ如ク共同ノ經營ニヨリテ一部分ノ生産手續ノ費用ヲ低廉ナラシムルコトニヨリテ組合員ニ大企業ニ伴フ利益ヲ得セシムルコトヲ以テ主タル目的ト爲スモノナルカ故ニ組合員タルモノハ資力ノ餘リ豊ナラナル中產以下ノ者ニシテ信用組合ヲ除ク外ハ同種類ノ營業者ナラサルヘカラス又産業ノ種類カ生產手續ノ一部分ヲ分離シテ經營スルコトヲ許スモノナラサルヘカラス而シテ同種ノ營業者ハ其生産品ヲ販賣スルニ於テ相互ニ競争スルモノナリ而シテ彼等カ組合ヲ

結ハント欲セバ勢一部ノ競争ヲ斷念セナルヘカラス其レ故ニ大企業者ノ壓迫甚タ強ク之ニ對抗スルニハ小企業者ハ相互ニ一部ノ競争ヲ断念シ一致團結シテ大企業ニ伴フ好條件ヲ利用スルノ外他ニ方便ナキコトヲ悟リタルトキニアラサレハ此種類ノ組合ハ發生セナルナリ又愈^シ組合ヲ設立スルニ當リテハ組合員ハ共同ニ得タル利益ヲ分配スル方法ヲ協定セサルヘカラス其レ故ニ此種ノ組合ハ組合員タルヘキ者カ自己ノ生産業ニ付テ十分ナル技術上ノ智識ヲ有スルト同時ニ其產業ノ經濟上ノ事情ヲ判断スル見識ヲ具フルニアラサレハ成立セサルナリ此組合ハ現世紀ニ於ケル大企業ノ小企業ニ對スル壓迫ニ由リテ次第ニ增加シタリト雖モ其數ハ尙ホ遙ニ消費組合ニ及ハサルナリ
第三種ノ組合ハ勞働者ヲ結合シテ之ニ勞働者タルト同時ニ獨立ノ企業者タル地位ヲ得セシムルコトヲ以テ目的トスルモノナリ
此組合ハ一方ニ於テ組合員ニ對スル要求ノ條件甚タ多ク之ト同時ニ他ノ資本的企業ノ競争ニ堪フルコトヲ要スルカ故ニ現近ノ有様ニ於テハ其適用ノ範圍ハ甚タ狹隘ナルモノナラ

此組合ニ加入スル者ハ自己ノ身心及ヒ財産ノ全體ヲ組合ノ事業ニ投入セナル
ヘカラス組合員ニ組合ノ經營スル事業ニ關スル技術上並ニ事務上ノ才能ヲ具
ヘサルヘカラス而シテ此等ノ才能ハ事業ノ擴張ニ伴フテ益々大ナルヲ要ス又此
組合ハ一部ノ組合員ニ管理權ヲ委子他ノ組合員ヲシテ之ニ服從セシメサルヘ
カラス又社會的ノ目的ヲ達センカ爲メニ多少經濟上ノ利益ヲ放擲セサルヘカラ
ス(例へハ從業者ノ保護ヲ厚クシ業務ノ繁榮ニ伴フテ新ナル組合員ノ加入ヲ
許ササルヘカラス)斯クセサルトキハ此組合ハ一種ノ株式會社ノ如キ資本的組
合ト爲ルノ恐アレハナリ又此組合ニ加入スル者ハ勢ヒ薄資者ニ限ラルヘシ有
産者ハ此ノ如キ組合ニ投シテ多數ノ薄資者ノ抑壓ヲ蒙ルノ愚ヲ爲ササル(シ)
此ノ如キ事情ノ下ニ組合ノ發達ヲ望ム能ハサルハ亦已ムヲ得サルナリ多クハ資
本ノ缺乏業務上ノ智識ノ缺乏組合員ノ不規律ノ爲メニ忽チ起リテ忽チ倒レ幸
ニ殘存スルモノハ經濟上ノ利益ヲ主トスルカ爲メニ一種ノ資本的企業ト化シ
去ラサルモノハ甚タ稀ナリ小企業者ハ時々一時、過半も過半、一時間隣
公ノ企業或公ノ法人ハ財政上ノ目的ノ爲メニ例へハ烟草、鹽酒等ノ專賣ノ如キ

或ハ公共ノ利益ノ爲メニ例へハ森林、農、郵便、鐵道、水道等ノ事業ヲ自ラ經營スル
コトアリ此事ニ關スル説明ハ後段社會政策ヲ論スル部分及ヒ財政學ニ譲リテ
茲ニ之ヲ説明セス(一)人間ニ於ける經濟的取扱い、即ち人間の其人としての經濟的
第二編 貨財交易論

(二)人間と社會との關係に於ける經濟的取扱い、即ち社會としての經濟的取扱い

第一章 貨財ノ交換

交換トハ合意ニ基ク行爲ナリ即く兩者間の貨財ヲ交換する事也。其の形態ハ
財ヲ與ヘ相互ニ其經濟上ノ利益ヲ增加スルコトヲ以テ目的トスル行爲ナリ
(一)交換ハ合意ニ基ク行爲ナリ即く兩者間の貨財ヲ交換する事也。其の形態ハ
甲ハ乙ニ或貨財ヲ與ヘ乙ハ又其對價トシテ甲ニ或他ノ貨財ヲ與ヘタルハ雙方
共ニ他ヨリ束縛ヲ受ケス各其自由ナル意思ノ合致ニ基キテ爲シタルモノナラ
サルヘカラス

註某公用徵收ハ交換ニアラス。公用徵收ハ一方ニ於テハ或貨財ノ所有權ヲ
移シ他方ニ於テ之ニ對スル價格ノ賠償トシテ金錢ヲ與フルカ故ニ其形ニ於

ヲハ交換ニ類似スル所アリト雖モ交換ノ如ク合意ニ基クモノニアラス。國家カ其命令權ノ作用ニ由リテ自己ノ意思ノミニ因リテ之ヲ行フモノニシテ所有者ノ同意ヲ要スルモノニアラサルナリ。

- (二)交換ハ他人ヨリ或貨財ヲ取得シ其對價トシテ其者ニ或貨財ヲ與フル行爲ナ
 (三)交換ニ於テハ當事者双方ヨリ貨財ノ移轉ナカルヘカラス而シテ一方カ他方ニ其所有ノ貨財ヲ與フルハ其者ヨリ或他ノ貨財ヲ得ンカ爲メナラサルヘカラス
 (四)交換ハ經濟上ノ利益ヲ增加スルコトヲ以テ目的トスル行爲ナリ
 人カ交換ヲ爲スハ自身ニ取リテ效用少キモノヲ他人ニ與ヘ其人ヨリ更ニ效用多キモノヲ得ンカ爲メナリ例へハ自ラ之ヲ消費スル時ハ一定量ノ快樂ヲ感スヘキ自己ノ所有物ヲ犠牲トシテ更ニ多量ノ快樂ヲ感スヘキ物ヲ得以テ快樂享受ノ分量ヲ増加セントスルニ在リ而シテ此快樂享受ノ增加ハ即チ經濟上ノ利益增加ニ外ナラス。又ハ快乐、營利機會並存、兩者並重、相輔相成、缺一不可也。
- (四)交換ハ當事者相互ニ其經濟上ノ利益ヲ增加スルコトヲ以テ目的トスル行爲

ナリ
 人ハ極メテ多數ノ貨財ヲ得シコトヲ望ムモノナリ然レトモ一定ノ貨財獲得ノ請願ニハ一定ノ限界アリ其限界内ニ於テモ或貨財ノ一定量ノ與フル快樂ノ分量ハ其初ニ於テ最モ多ク次ニ來ル所ノ同一量ノ與フル快樂之ニ次キ第三ニ到ル所ノ同一量ノ與フルモノ又之ニ次ク此ノ如ク貨財ノ分量累加スルニ隨ヒテ人ノ享受スル快樂ノ分量モ亦累加スト雖モ快樂增加ノ割合ハ貨財ノ分量增加スルニ隨ヒテ益減少シ其極其上ニ貨財ノ分量ヲ添加スルモ少シモ快樂ヲ增加セサルノ點ニ達スヘシ換言スハハ或種ノ貨財ヲ得タル分量增加スルニ隨ヒテ之ヲ得シコトヲ欲スル強度ハ益減少スルモノナリ然ルニ人ハ種種ノ欲望ヲ有シ隨ヒテ極メテ多數ノ貨財ヲ得シコトヲ望ムモノナリ故ニ人ハ或貨財ノ既得分量極メテ多ク新ニ同種ノ貨財ヲ取得シ之ヲ消費スルモ少シモ快樂ヲ增加セサルニ至リタルトキハ勿論事茲ニ至ラサルモ其貨財ノ一定量ヲ得タル後ハ更ニ同種ノ貨財ヲ得ルヨリ寧ロ他種ノ貨財ヲ得シコトヲ望ムモノナリ前ニ述ヘタル如ク人ノ或貨財ヲ得シコトヲ欲スルノ程度ハ同種ノ貨財既得ノ分量ニ關係

スルモノナリ故ニ天然又ハ社會上ノ原因ニ由リ或二人ノ所有スル貨財ノ種類及ヒ分量ニ等差アルトキハ雙方共ニ自己ノ所有物全體ヲ消費スルヨリハ兩者ノ間ニ物品ノ授受ヲ爲シ有無相通シテ然ル後新ナル資產全體ヲ消費スル方遙ニ快樂ヲ享タル度增加スルコトアルヘシ是レ即チ交換ノ當事者ハ各自己ノ利益ヲ得ンコトヲ目的トシ而モ利害ノ衝突ナク圓滑ニ取引ノ行ハル所以ナリ（マーシャル民經濟學第三編第三章參照）

〔注意〕人ハ己自ラ交換ニ因リ利益ヲ増加スヘシト信スレハヨソ之ヲ爲スモノニシテ何人ヨリ之ヲ觀ルモ交換カ雙方ニ利益ヲ與フヘシト推測セラルル人場合ニノミ行フモノニアラサルナリ例へハ勞働者カ餘分ノ賃銀ヲ得シカ爲メニ其雇主ニ對シ過度ノ勞働ヲ供スルカ如昔時亞米利加ト亞弗利加トノ間ニ酒精ト奴隸トノ交換アリタルカ如キ局外者ノ眼ヨリ之ヲ觀レハ雙方ニ經濟上ノ損害ヲ與フルモノナリト認メラルル場合ニモ猶ホ交換ハ實行セサルナルモノナリ又各交換者ノ享受スル利益增加ノ程度ハ相均シキヲ要セサルナリ例へハ飢餓ニ頻シタル人カ其餘リアル毛皮一枚ヲ與ハテ綿布ノミニナハ

寒冷ヲ感スル人ヨリ其餘アル米壹斗ヲ得タルカ如キ場合ニ於テハ雙方共ニ交換ニ因リテ利益增加シタリト雖モ前者ノ享受スル快樂增加ノ分量ハ遙ニ後者ノ感スル快樂增加ノ度ニ超過スルモノナリト謂フコトヲ得ヘシ現今ノ經濟界ニ於タル貨財交換ノ位置

昔時人ノ集リテ社會ヲ爲ササル時ニ當リテハ各人其要スル所ノ貨財ヲ生産シテ之ヲ消費シ全然孤立ノ生計ヲ立テタリ此時ニ於テハ貨財ノ生產ト消費トアリテ交換アルコトナシ然ルニ現今ノ產業社會ニ於テハ各人ハ自己ノ要スル諸種ノ貨財ヲ生產セシシテ唯一種ノ貨財ヲ生產スルニ止マルコト多シ而シテ其人ノ生產シタル貨物ハ更ニ第二ノ生產者ノ手ニ渡リ再ヒ之ニ加工シテ第三ノ生產者ノ手ニ歸シ再ヒ之ニ努力ヲ加ヘテ始メテ消費シ丁ルモノモ亦少カラス而シテ各人ハ互ニ其生產物ヲ交換シテ自己百般ノ需要ヲ充タスコトヲ得ルナリ此ノ如ク現今ノ社會ニ於テハ交換ト分業ト並ヒ行ハレテ各人相倚リ相助ケテ始メテ經濟上ノ目的ヲ達スルヲ得ルナリ而シテ交換益盛ナレハ分業次第ニ緻密ト爲リ分業愈密ナレハ交換モ亦之ニ從ヒテ頻繁ヲ加ヘ互ニ相助ケテ

益生産業ノ繁榮ヲ來シ各人ノ享受スル快樂ノ分量ヲ増進スルモノナリ其レ故ニ現今ノ産業社會ニ於テハ貨財交換ノ杜絶若クハ妨礙ハ直チニ經濟上ノ危機ヲ來スモノニシテ交換ノ増進ハ即チ各人經濟上ノ利益ヲ増加スル所以ナリ此交換ハ次ノ如ク區別スルコトヲ得ヘシ

第一當事者雙方カ交換ニ因リ直接ノ需要ノ充足ニ宛フヘキ物貨ヲ得ルト否トヲ基礎トスルトキ

(一)單純交換若クハ物品交換ニ交換ニ因リテ當事者雙方カ直接ニ需要ノ充足ニ宛ツヘキ貨物ヲ得タル場合例へハ北米印度人ト白人トノ間ニ行ハルル毛皮ト彈丸トノ交換ノ如シ

(二)複雜交易若クハ賣買ニ交換ニ因リ一方ノ當事者ノ得タルモノハ直接ニ需要ノ充足ニ充ツヘキモノニアラスシ更ニ他物ヲ得ンカ爲メニ手段トシテ用フヘキ貨物(即チ貨幣ナルトキ例へハ米ト貨幣トノ交換ノ如シ)

第二交換ノ各當事者カ自己ノ貨物ヲ其相手方ニ引渡スヘキ時ヲ基礎トスルトキ

- (一)普通若クハ即時ノ交換ニ交換ノ約束成立ト同時ニ當事者雙方共ニ貨物ヲ相手方ニ引渡スモノヲ謂フ
- (二)信用交換當事者ノ一方カ後日相手方ノ履行ヲ得ンカ爲メニ即時ニ貨物ヲ相手方ニ引渡ス場合ヲ謂フ
- (三)定期取引將來一定ノ時期ニ於テ相互ニ貨物ノ引渡ヲ爲スヘキコトヲ約束スル場合ヲ謂フ

第二章 交換價值

凡ソ人カ交換ヲ爲スニ當リナハ其目的物タル貨財ヲ自ラ消費シテ得ラルヘキ快樂ノ程度ヲ知ルノ外各貨財ノ交換能力ヲ知ルコト必要ナリ或貨財ノ所有者ハ其貨物ヲ他人ニ與ヘ其代價トシテ其人ヨリ他ノ貨財ヲ受取ルコトヲ得ヘシ此所有者ニ他物ヲ得セシムル能力ヲ名ケテ貨財ノ交換能力若クハ交換價值ト稱ス而シテ貨財ノ交換能力ハ貨財ノ分量ニ從ヒテ等差アルハ勿論貨財ノ種類ノ異ナルトキモ亦均シカラサルヲ常トス

現今ノ產業社會ニ於テハ人ハ多種ノ欲望ヲ有スルト同時ニ有無相通スルコト頗ル容易ナルカ故ニ例ヘハ茲ニ人アリ甲種ノ貨財既得分量多キニ過クルヲ以テ其貨財ノ一部ヲ以テ乙ノ貨財ト交換セントスルニ當リテハ唯リ甲ト乙トノ快樂ヲ與フル分量ヲ比較スルニ止マラス甲ヲ以テ乙ト交換セス丙若クハ丁ト交換シテ之ヲ消費セハ乙ヲ得テ之ヲ消費シタルト其快樂ノ度孰レカ強カルベキカラ考量スルニ至ルヘシ相手方モ亦乙ト甲トノ快樂ヲ與フル分量ヲ比較スルニ止マラス乙ヲ以テ丙若クハ戊ト交換シテ得ル所ノ快樂ト甲ノ與フル所ノ快樂トヲ比較シタル後ニアラサレハ決シテ乙ノ貨財ヲ捐テ甲ヲ得ルコトヲ決スル能ハサルナリ加之各當事者ハ或他ノ相手方ニ就キテ交換スルトキハ一層大ナル對價ヲ得ルノ望アルカラ探究スベキナリ若シ之ヲ等閑ニ付スルトキハ當事者カ交換ニ因リテ得ル所ノ利益大ニ減少スヘシ換言スレハ交換者ハ其目的物タル貨財ノ交換能力ヲ知ルノ必要アルナリ而シテ愈々交換實行セラレテ甲ト乙ト交換セラレタルトキハ甲ノ價格ハ之ト交換セラレタル乙ノ分量ナリト云フナリ乙ノ方ヨリ觀レハ乙ノ價格ハ之ト交換セラレタル甲ノ分量ナリ例定シ置クノ必要アリ

(一) 需要ト供給或人財糧ニ市場ニ銀文銀圓ナシ及本鈔ヘ外貨セ開支
價格ハ牛一頭ト馬一頭ト交換シタルトキハ牛一頭ノ價格ハ馬一頭ナリ馬一頭ノ價格ハ牛一頭ナリ而シテ貨幣ヲ以テ示サレタル價格ハ特ニ代價又ハ物價ト稱ス例ヘハ馬一頭ノ價格ハ金百圓ナリト云フヘキ場合ニ馬一頭ノ代價ハ金百圓ト云フナリ

一定ノ時ト所トニ於テ或貨物ノ一定量ハ何故ニ他物特定ノ分量ト交換セラレ基レヨリ多量若クハ少量ノモノト交換セラレナルガノ理由ヲ示スモノヲ價格ニ關スル法則ト謂フ今茲ニ此法則ヲ述フルニ先ナテ豫メニ三ノ語ノ意義ヲ確定シ置クノ必要アリ

(二) 生產ノ實費及ヒ生產費

生產ノ實費トハ生產ノ爲メニ消費セラレタル資本ノ貯蓄ニ必要ナル節欲ト之ニ與リタル勢力ヲ謂フ

生産費トハ生産ノ爲メニ消費シタル貨財ト使用シタル勞力ニ對シテ支拂ハ
レタル貨幣トノ高ヲ謂フ

(三) 市場ト市價

市場トハ賣主ト買主トノ交通自由自在ニシテ同一ノ貨物ノ代價カ容易ニシ
テ且ツ迅速ニ均一ニ歸スヘキ傾向ヲ有スル地方全體ヲ謂フ

(一) 市價トハ一定ノ時期ニ市場ニ於テ取引セラルル物ノ代價ヲ謂フ

價格ニ關スル法則 物價ハ需要ト供給トノ平均ニ依リテ定マルモノナリ
何レノ時何レノ市場ニ於テモ賣主間及ヒ買主間ニ競争アリテ賣主ノ賣ラント
欲スル高ト買ハント欲スル分量トカ相一致スルカ如キ物價ニテ取引セラルル
モノナリ若シ或一部ノ賣主カ賣主ノ賣ラント欲スル高カ遙ニ買手ノ買ハント
欲スル額ヲ超過スルカ如キ價格ヲ要求スルトキハ買主ノ買ハント欲スル分量
大ニ減少スヘシ隨テ賣主ノ中ニハ賣却ノ機會ヲ失ハシコトヲ恐レテ價ヨ低ク
シテ賣却センコトヲ勉ムルモノアルヘキヲ以テ物價ハ速ニ低落スヘシ物價
愈低落スレバ之ニ伴ヒテ買主ノ買ハント欲スル額次第ニ増加シ賣主ノ賣ラント
欲スル分量ハ減少シ遂ニ兩者ノ分量平均スルニ至ルヘシ然ルニ物價一層下
落スルトキハ賣主ノ賣ラント欲スル分量カ買主ノ買ハント欲スル額ヨリ遙ニ
減少スルニ至ルヘシ是ニ於テカ買主中ニハ買入ノ機會ヲ失ハシコトヲ恐レテ
更ニ高價ニ買入レンコトヲ勉ムルコトアルヘク隨テ物價ハ直チニ増進スヘタ
物價次第ニ騰貴スルニ從ヒテ賣主ノ賣ラント欲スル分量ハ逐次遞減シ再ヒ兩
者ノ分量相均シキニ至ルヘシ此ノ如ク賣主相互間ト買主相互間トノ競争ニ因
リテ物價ハ賣主カ賣ラント欲スル分量ト買ハント欲スル分量トカ相一致スル
點ニ於テ定マルモノトス是レ即チ物價ハ需要ト供給トノ平均ニ依リテ定マル
モノナリト謂フ所以ナリ

物價ハ需要供給ノ平均ニ依リテ定マルモノナルカ故ニ供給ニ變化ナクシテ
要增加スルトキハ需要者間ノ競争ヲ惹起シ物價上騰スルニ反シテ需要減少ス
ルトキハ供給者間ノ競争ニ因リ物價下落ス又同様ノ理由ニ因リ需要不變ニ
シテ供給增加スルトキハ物價下落シ供給減少スレハ物價騰貴スルモノナリ此
ノ如ク物價ノ變動ハ需要供給ノ變動ニ基因スルモノナルカ故ニ物價變動ノ理

ヲ知ラント欲セハ勢ヒ需要供給ノ變動原因ヲ究メサルヘカラヌ
需要變動ノ原因ノ主ナルモノハ左ノ如シ斯也スレバ特ニ顯著ナリ略相均
(一)代用品ノ價格ノ變動或貨物ト代用セラルベキ他ノ貨物ノ價格騰貴スルト
キハ其貨物ノ需要ヲ増加ス此事例ハ株式市場ニ於テ特ニ顯著ナリ略相均
シキ危險ト利益トヲ有スルモノハ略相等シキ價格ヲ保フ常トス例へハ如何
ナル理由ニテモ公債ノ價格騰貴スルトキハ市公債ノ需要ヲ增加スルノ傾向
アリ換言スレハ以前ヨリハ高價ニ市公債ヲ購求スルモノアルニ至ラン
(二)收入ノ變化 人カ或貨物ヲ買入レント欲スルハ消費スルコトヲ得ヘキ貨幣
ノ分量ニ關係スルモノナリ國民中ノ一階級又ハ一箇人ニテモ其收入增加ス
ルトキハ以前ヨリ多量ニ或貨物ヲ需要スルモノナリ例へハ日清戰爭後軍人
カ種種ノ貨物ヲ多ク買入レタルカ如シ
(三)貨物ノ效用ノ變動 或貨物ノ新シキ用途ノ發見又ハ流用道徳法律ノ變遷等
ニ由リテ之ヲ買ハント欲スル人ノ認識スル貨物ノ效用ノ分量ニ變動アリタ
ルトキヲ謂フ

供給變動ノ原因ハ需要變動ノ原因ニ同シ例へハ(一)或貨物ニ代用セラルベキ貨
物騰貴スルトキハ以前ヨリ高價ニアラサレハ其貨物ヲ賣却スル者ナカルヘク
(二)賣主ノ收入減少シ貧窮ニ陥ルトキハ其以前ニ比スレハ低價ニテモ其所有物
ヲ賣拂バント欲スルニ至ルヘシ(三)或貨物ノ流行以前ヨリ盛ナルトキハ賣主ハ
曩日ノ指値ニ應セサルニ至ラン之ヲ要スルニ或貨物ヲ供給スルト云フハ之カ
對價ヲ需要スルモノナリト云フニ等シキヲ以テ供給變動ノ原因ハ需要變動ノ
原因ト同様ナリト云フヲ得ルナリ
物價ハ需要供給ノ變動ニ從ヒテ變動シ需要供給モ亦種種ナル事情ニ由リテ變
動スルカ故ニ物價ハ常ニ動搖シテ其歸著スル所ナキガ如クナレトモ仔細ニ之
ヲ觀察スルトキハ其動搖ハ或限界内ニ行ハルノミナラス格外ナル高價若ク
ハ低價ハ通例永續セシムテ常ニ其間ニ存スル或一種ノ價格ニ歸向セントスル
ノ傾向アルモノナリ此或一種人價格ヲ名ズテ正常價格(Normal price)ト謂フ
貨物ノ正常價格ハ自由制度ノ下ニ生產セラルモノト專業ノ下ニ生產セラル
モノトノ間ニ區別アリ

(甲)

自由制度ノ下ニ生産セラルル貨物ノ正常價格
自由制度ノ下ニ引續キ生産セラルル貨物ノ正常價格ハ其生産費
ニ依リ定マルト一概ニ論スルモ大ナル誤リナシト雖モ猶ホ精細ニ之ヲ區別
スルヲ至當トス

(一) 貨物ノ供給ヲ増加スルモ其分量ノ各單位ニ對スル生産費增加セサルモノ
此種類ノ貨物ノ正常價格ハ生産ニ依リテ定マルモノナリ若シ市價カ生產
費以下ニ低落スルトキハ何人モ損失ヲ甘ンシテ生産ヲ爲ス者ナキヲ以テ
生産者ハ其生産ヲ減少シ若クハ生産ヲ廢止スヘシ然ルトキハ供給減少ス
ルカ爲メニ市價ハ再生産費ニ相當スル程度マテ騰貴スヘシ之ニ反シテ市
價カ生產費ヲ超エテ騰貴スルトキハ生産者ハ餘分ノ利益ヲ得シカ爲メニ
生產高ヲ増加スヘシ然バトキハ供給增加スルカ故ニ市價ハ再ヒ生產費ト
等シキ點マテ下落スヘシ故ニ曰ク此種ノ貨物ノ正常價格ハ生産費ニ依リ
テ定マルモノナリト

(二) 貨物ノ供給ヲ増加スルトキハ其分量ノ各單位ニ對スル生産費モ亦增加ス

(乙)

此種ノ貨物ハ引續キ且フ永久ニ等差アル生產費ニ依リ生產セラル此場合
ニ於テハ正常價格ハ需要ヲ充タヌニ必要缺クヘカラサルモノニシテ然モ
最多額ノ費用ヲ要シタル貨物ノ部分ノ生產費ニ依リテ定マルモノナリ此
時ニ當リテハ消費者ハ最高價ニ生產シ而モ損失ヲ受クルコトヲ欲セサル
生産者ニ就テモ其貨物ヲ購求セサルヲ得サルノ境遇ニ在ルヲ以テ廉價ニ
生產シタルモノモ之ニ乘シテ其價格以下ニハ之ヲ賣却セサルヲ常トスレ
ハナリ

(乙) 專業ノ下ニ生產セラルルモノ
此種ノ貨物ノ正常價格ハ生産者ニ最多量ノ利益ヲ與フル點ニ依リ決定セラ
ルモノナリ而シテ其價格ハ生產費以上ニ在ルモノナリ專業者ハ他人ノ利
益ノ爲メニ生產スルニアラサルヲ以テ生產費以下ニ賣却スルヲ好マサルヘシ
唯生產費以下ニ賣却スルヲ欲セサルノミナラス獨占ノ地位ヲ利用シ其以上
ニ賣却スルコトヲ勉ムヘシ然リト雖モ其價格餘リニ高價ニ失スルトキハ大

富豪若クハ奢侈者ニアラナレハ之ヲ需要スル者ナク隨テ其賣上總代價ヨリ生スル利益ハ却テ少カルヘク又生產費ト略同様ノ價格ニテ賣却スルトキニ於テ唯業務ノ繁忙ナルノミニシテ其利益ノ總量甚タ多カラサルヘシ故ニ專業者ハ需要者ノ事情ヲ察シ貨物ノ各單位ニ對スル價格ヲ前者ヨリ低クシ後日ヨリハ高クシテ自己ノ得ル所ノ利益ノ總額最モ多キ點ニテ賣却スルコトヲ勉ムルモノナリ專業者ヲシテ其爲斯所ヲ恣ニセシムルトキハ總テノ消費者ニ對シテ同一ノ市價ニテ賣却スルヨリハ消費者ノ資力若クハ嗜好ノ如何ニ由リテ各別ノ代價ヲ要求スルトキハ益々多量ノ利益ヲ收ムルコトヲ勉フ發見スルニ至ラン例へハ鐵道旅客ノ等級別ノ如キハ幾分カ此性質ヲ加味シタルモノナリト云フヲ得ヘキカ如シ專業者ハ消費者ノ如何ニ由リ平常各別ノ價格ヲ要求スルノミナラス需要者ノ事情ヲ察シ時時其要求スル價格ヲ變更シテ利益ヲ増加ゼンコトヲ勉ムルコトアルヘシ例へハ鐵道會社ノ行所ノ臨時乘車費ノ割引ノ如シ又專業者ハ一人ノ買手ニ對シテ數度ノ取引ヲ爲スニ當リテハ初ハ高ク次ハ稍ヤ廉ニ又其次ニハ尙ホ一層廉價ニ賣却スル

第三章 貨幣

第一節 貨幣ノ起源

大如ク其價ヲ一二ニシテ利益ノ増進ヲ計ルコトヲ得ヘキナリ
第三章 貨幣
第一節 貨幣ノ起源
古代文化未開グナル時代ニ於テハ人人皆自ラ己ノ要スル貨財ヲ生產シテ之ヲ消費シ貨財交換ノ行ハルルコト甚タ少シ偶、或種ノ貨物ヲ過剰ニ所有シタル時ニ當リテ他ニ之ヲ切望スル者アルトキハ其人ニ就キテ他ノ貨物ト交換シテ各自其欲望ヲ充タスコトアリ此ノ如ク直接ニ欲望ノ満足ニ充ツヘキモノノ交換ヲ物品交換ト謂フ而シテ此交換ニハ左ノ不便アリサヘキ無事ノ賣却モ交換ノ適合ヲ缺ク、物品交換カ二人ノ間ニ行ハルルカ爲メニハ各當事者ノ需要相互ニ適合スルコトヲ要ス例へハ甲ノ與ヘント欲スルモノハ乙ノ得シコトヲ欲スルモノタルト同時ニ乙ノ與ヘント欲スルモノハ亦甲ノ得シコトヲ欲スルモノ爲ラサルヘカラス而シテ此ノ如キ場合ハ甚タ稀ナリ偶、此ノ如キコトアリトスルモ人ハ容易ニ之ヲ知ルコト能ハサルナリ此不便ヲ救ハシカ爲メ

ニ文明國ニ於テハ何人モ得ンコトヲ欲スル貨物ヲ以テ交換ヲ媒介セシム從文
二 價格ノ標準ヲ缺ク 交換ニ因リ利益ヲ得損失ヲ免レンカ爲メニ豫メ物ノ
價格ヲ知ルコトヲ要ス即チ各貨物其他ノ貨物ニ對スル交換ノ割合ヲ知ルコト
ヲ要ス然ルニ物品交換ニ於テハ各貨物ヲ基礎トシテ之ト總貨物トノ交換ノ割
合ヲ知ルノ必要アルカ故ニ極メテ複雜ナル相場附ヲ知悉スル必要アリ此事タ
ル貨物ノ數增加スルニ隨ヒ益々複雜ニ爲リ其煩ニ堪ヘサルヘシ然ルニ貨物カ交
換ノ媒介トシテ採用セラルトキハ他ノ總貨物ハ生産者ヨリ消費者ニ達スル
間ニ於テ通常一旦貨幣ト交換セラルルカ故ニ交換ヲ爲サントスル者ハ各貨物
其他ノ總貨物ニ對スル交換比例ヲ知悉スル要ナク單ニ各貨物ノ貨幣ニ對スル
交換比例ヲ知ルヲ以テ十分ナリトス此ノ如ク一ノ貨物ヲ取りテ他ノ總貨物ノ
價格ヲ計量スルトキハ各貨物間ノ價格ノ大小差違等ヲ明カニスルカ爲メニ頗
ル便利ナリ

三 分割ノ手段ヲ缺ク 多數ノ貨物ハ其價格ヲ損スルコトナクシテ之ヲ分割
スル能ハス穀物砂糖肉類水塊ノ如キハ自由ニ之ヲ分割シテ其價ヲ損スルコト

ナシト雖モ衣服若クハ寶石ノ如キハ之ヲ分割スルトキハ大ニ其價格ヲ減ス少
モノナリ故ニ此等ノ物ヲ以テ其價ノ一部分ニ當ル物品ト交換セント欲セハ
甚シキ困難ニ遭遇セサルヲ得ス然ルニ此場合ニ於テ衣服若クハ寶石ヲ以テ貨
幣ニ換ヘ其一部分ヲ以テ他ノ物品ト交換セハ頗ル便利ナリ右ノ如ク物品交換
ニハ之ニ伴フ困難アルヲ以テ少シク交換ノ行ハルニ至ルトキハ一般ニ人ノ
貴重スルモノニシテ保存ニ堪ヘ且フ販路ヲ有スル物ヲ以テ交換ノ媒介ト爲シ
タリ

第二節 貨幣ノ職分

一 貨幣ハ交換ノ媒介タリ又物品交換ノ行ハルルニハ各當事者ノ需要相互ニ
適合スルコトヲ要ス例ヘハ甲ノ與ヘント欲スル物ハ甲ノ得シコトヲ要ス然ル
ニシテ乙ノ與ヘント欲スル物ハ甲ノ得シコトヲ欲スル所ハ乙ノ得シコトヲ要ス然ル
ニ此事ハ甚タ稀ナルノミナラス此等ノ事情ヲ甲乙互ニ探知スルコト甚タ困難
ナリ若シ貨幣ノ發明アルトキハ甲ハ其餘リアル物ヲ賣リテ貨幣ニ換ヘ之ヲ以

テ己ノ欲スル物ヲ求ムヘタ乙モ亦其餘リアル物ヲ賣リテ貨幣ニ換ヘ之ヲ以テ
自己ノ得ント欲スル物ヲ購求スヘシ故ニ交換ハ最モ容易ニ行ハルニ至ル
シ貨幣ノ此働き稱シテ交換ノ媒介ト謂フ
蓋今日經濟社會ニ於テハ各人其業ヲ分テ產業ニ從事シ各人ハ自ラ其需要スル
一物品ヲ全ダ製造セサルカ又ハ僅ニ其一小部ヲ製造シ其製作品ヲ他ノ製作品
ニ換ヘテ生活ヲ維持ス此場合ニ於テ各人カ自己特有ノ品物ニ換ヘテ受取ル
コトヲ欲スル或種類ノ貨物アルニアラサレハ各自ノ需要ヲ適合セシムルコ
ト能ハス隨テ分業制度ナルモノハ到底發達スル能ハサルナリ
二直貨幣ハ價格ノ標準タリ以テ貨幣ハ交換ノ媒介タルト同時ニ價格ノ標準トシ
テ用ヒラル他ノ貨物ハ常に貨幣ノ若干量ト交換セラルカ故ニ此等ノ貨物ノ
價格ハ皆貨幣ニ依リテ計算セラルニ至ル此ノ如ク一人ノ貨物ノ基礎トシテ他
ノ總貨物ヲ計算スルニ至リテ始メテ數多ノ貨物間ニ於ケル價格ノ多少ヲ容易
且ソ明瞭ニ比較スルコトヲ得セシメ又ハ數多ノ貨物ノ集合ヨリ成ル財團ノ價
格等ノ觀念ヲ明ガニスルコトヲ得ヘシ

三 貨幣ハ價格ノ本位タリ 文明ノ進歩ニ伴フテ貨幣ノ第三ノ效用發生ス商
工業ノ發達ニ伴フテ貸借益盛ニ行ハル或場合ニ於テハ貨與物ト同種ノ物品ヲ
以テ返還セラルコトアリ例へハ穀物ヲ借用シタルトキハ其同量ノ穀物ニ加
フルニ穀物ノ利子ヲ附シテ返済スルコトアリ然レトモ貸主ハ穀物ノ價格低廉
ナルトキ又ハ之ヲ要セサル時ニ返済セラルヲ好マス借主モ亦通常一人ヨリ
借受タルコト能ハサルカ如キ多數ノ物品ヲ要スルコトアリ故ニ一般ニ貴重セ
ラル貨物ニシテ價格ノ變動少キモノヲ取りテ貸借ノ目的物ト爲スニ至レリ
是ニ於テカ貨幣ハ價格ノ本位タル職分ヲ得タルナリ

Boeh-Bawerk 氏等ノ說ニ據レハ一國ノ生產力ノ發達スルトキハ之ニ伴フ
テ生產ノ手續キヲ完了スル期間延長スルモノナリ間接ニシテ迂遠ナル資本
制度カ直チニ消費ノ資料ヲ得ル勞力制度ニ代ハルモノナリ現在ノ仕事ハ過
去ノ勞働ノ結果アリテ始メテ之ヲ行フコトヲ得ヘタ現在ノ業務ハ未來ノ事
業ノ豫備ニ過キサルモノ甚タ多シ隨テ時間カルモノカ生產ニ大關係ヲ有ス
ルニ至レリ又分業制度及ヒ資本制度ノ下ニ在リテハ生產ト交換トハ相密著

シテ離ルヘカラス又極端ニ云ハハ交換ハ生産手續ノ一部ナリト謂フコトア
得ヘシ而シテ此交換ハ契約ニ因リテ行ハル而シテ契約ハ結約ノ時ヨリ履行
ノ時ニ至ルマテ一定ノ期間アルコトヲ通例トス是レ貨幣本位必要ノ起ル所
以ナリ

四 貨幣ハ價格ノ藏タリ人ハ時時其資產ヲ形體重量共ニ少キモノニ換ヘ
テ之ヲ保存スルノ必要ヲ感スルモノナリ例ヘハ其資產ノ一部ヲ遠隔ノ地ニ送
リ又ハ之ヲ携帶セントスルキノ如シ而シテ最モ能ク此要求ヲ充タス物ハ流
通貨幣ナリ古來貨幣トシテ用ヒラレタル貨物ハ其種類甚多シ家畜奴隸毛皮、
油、煙草、干魚鹽、茶等ノ如キモ一度ハ貨幣トシテ用ヒラレタルコトアリ其後次第
ニ各種金屬ノ貨幣採用セラレタリ就中金銀ハ最モ能ク此目的ニ適フモノナリ
トテ現今文明國ニ於テハ一般ニ之ヲ使用ス此ノ如ク古來貨幣トシテ使用セラ
レタルモノハ千態萬様ニシテ其爲シタル職分ノ外均一ノ點ヲ發見スルコト能
ハス故ニ今貨幣ノ職分ニ從ヒテ定義ヲ下スコト左ノ如シ

貨幣トハ一般ニ交換ノ媒介、價格ノ標準、價格ノ本位、價格ノ貯藏トシテ用ヒラ

ル所ノ貨物ヲ謂フ

第三節 貨幣ニ要スル性質

貨幣史ヲ通覽スルニ文化漸ク進ムニ隨テ金屬貨幣カ他ノ種類ノ貨幣ニ代リ金
屬貨幣中金銀貨幣カ他ノ金屬貨幣ヲ驅逐シタルヲ見ルヘシ此事タルヤ畢竟各
貨物ノ間貨幣ノ材料タルニ適スル程度相同シカラスシテ其性質ヲ十分ニ備フ
モノハ然ラサルモノニ代リタルニ遇キス貨幣タルニ適スル性質ハ左ノ七ト
(一) 價格ヲ有スルコト貨幣ハ有價物ト交換セラル物ナルカ故ニ貨幣自身
價格ヲ有スルヲ要ス又貨幣ハ價格ノ標準トシテ他ノ貨物ノ價格ヲ計量スルニ
用ヒラル物ナルカ故ニ其レ自身ニ價格ヲ有スル物タラサルヘカラス尙ホ物
ノ重ナフ量ルニ用ヒラル法馬カ一定ノ重量ヲ有シ物ノ長サフ計ル尺度ニ一
定ノ長サアルヲ要スルカ如シ此性質ハ各種ノ貨物之ヲ具有スルカ故ニ特ニ戒
稱ノ貨物ヲ取リテ貨幣ト爲シ他ノ種類ノ貨物ヲ排斥スル理由ト爲ルモノニアラ

- (一) 買賣を運びや貯蔵するに便く貨幣の形態を保有する爲めに、其の運搬に困難ナリ。金剛石ノ如ク價貴クシテ形重共ニ小ナル物へ紛失ノ虞アルヲ以テ共ニ不可ナリ。又寶石、骨董、薬草等の貴重・貴重・貴重品等は、(二) 携帶ニ便ナルコトア貨幣ハ形體及ヒ重量ニ比シテ相當ノ價格ヲ有スルコトヲ要ス。穀物、毛皮、煙草、油、銅鐵ノ如キ價格ニ比シテ形體重量共ニ大ナルカ故ニ運搬ニ困難ナリ。金剛石ノ如ク價貴クシテ形重共ニ小ナル物へ紛失ノ虞アルヲ以テ共ニ不可ナリ。又寶石、骨董、薬草等の貴重・貴重・貴重品等は、
(三) 破損ノ患ナキコト。貨幣ハ商買上人人ノ間ニ授受セラレ且ツ貯藏セラル物ナルカ故ニ容易ニ破損滅失セナル物ナルコトヲ要ス。玻璃ノ如キ破損シ易キ物アルコトアルノア如キ揮發シ易キ物、動物質ノ如キ腐敗シ易キ物ハ皆之ニ適セサルナリ。寶石、骨董等の貴重品等は、(四) 寶物質ハ一樣ナルコト。貨幣トシテ用ヒラルル貨物ハ其重量相同シキ物ヲ取用トキハ、當ニ同一ノ價格ヲ有スル物タルヲ要ス。寶石若クヘ動物ノ如キ各箇部分其性質價格ヲ異ニスル物ハ貨幣タルニ適セナルナリ。之ニ反シ金屬ハ精煉スルトキハ其物質皆一樣ナリ。

(五) 分割シ得ベキコト。貨幣ハ交換ノ媒介トシテ使用セラルル物ナルカ故ニ

- 日常ノ取引ノ大小ニ應シテ之ニ適當スル價格ヲ有スル片塊ト爲スノ必要アリ。隨テ價格ヲ損スルコトナクシテ自由ニ分割シ得ヘキモノナルコトヲ要ス。金屬ハ最キ善ク此性質又具備スル物ニシテ毛皮、金剛石ノ如ク分剖ニ由リテ價格ヲ損スル物ハ貨幣タルニ適當セナルナリ。貨幣並びに整理其表示を以テ表出スル。又(六) 價格ノ變動ナキコト。貨幣ハ價格ノ標準トシテ現在ニ於ケル數多シ貨物ノ價格ヲ計量スル用ヲ爲スノミナラス。價格ノ本位トシテ多少隔絶シタル期間内ニ價格ノ大小ヲ計量スルノ用ヲ爲スモノナルカ故ニ時ノ經過ヲ爲メニ其價格ノ變動ヲ來ササル物タルコトヲ要ス。蓋々此後又一ニ段階セテ度々價格ヲ增加シ且ツ其他貨幣タル效用ヲ増加スルカ爲メニハ鑄造貨幣ヲ用フルヲ便トスルニ至リタルヲ以テ貨幣ノ材料タルヘキ物ハ右ニ舉ケタル七ノ性質ノ外鑄造ニ堪フルノ性質ヲ具備スルコトヲ要スルニ至リ。金屬就中金銀ハ最モ善ク

第四節 貨幣ノ鑄造法

以上ノ性質ヲ具有スルヲ以テ文明ノ進歩ニ伴フテ人ハ金屬ニアラナル他ノ貨物ニテ造リタル貨物ヲ廢シ主トシテ金屬特ニ金銀ヲ貨幣トシテ使用スルニ至レリ。貨幣トシテ用ヒラル金屬ノ效用ハ鑄造ニ由リテ大ニ増加セラルモノナリ。金屬貨幣モ其初ニ當リテハ普通ノ商品ノ如ク授受ノ際其重量及ヒ純分ヲ鑑定シテ取引セラレタルモノナレトモ其煩勞ヲ避ケンカ爲メニ第一ニ刻印ヲ施シテ其純分ヲ示スノ制ヲ採レリ例へハ我國德川幕府時代ニ行ハレタル撒花金ノ如キ支那ノ刻印シタル金ノ立方體ノ如キモノナリ夫ヨリ進ミテ現今流通スル貨幣ノ如ク刻印ヲ以テ重量及ヒ純分ノ二者ヲ保證シ之ヲ授受スル人ハ唯其數ヲ檢スルヲ以テ足レリトスルニ至リテ貨幣鑄造法ノ發明其完キヲ得ルモノナリ其故ニゼボンス氏ハ鑄貨幣ヲ左ノ如ク定義セリ。鑄造貨幣ハ表面ニ施サレタル印象ノ缺損ナキコトニ據ワク其重量及ヒ純分ヲ知ラシムル金屬ノ塊團ヲ謂フ。

今日世ニ行ハル貨幣ハ其形圓クシテ扁平ニ其重量ハ携帶ニ便ナルモノナレトモ古來人ノ用ヒタルモノ皆此ノ如キモノニハアラサリシナリ例へハ我國ノ德川幕府時代ニ行ハレタル額金ノ如ク四角形ナルモノアリ小判ノ如ク橢圓形ノ物アリ又十八世紀瑞典國ニ於テ用ヒシ鑄造貨幣ハ七インチ半ノ四角形ニシテ重量三磅ノ鈍銅板ナリシ如ク今日ヨリ此等ヲ見レハ種種ノ異形ニシテ不便ナルモノヲ用ヒタリシナリ。

貨幣ヲ鑄造スルニ付キ注意スヘキ點左ノ如シ

一 僞造ヲ防クコト

二 貨幣ヨリ金屬ヲ不正ニ取去ルコトヲ防クコト
三 磨損ノ度ヲ輕減スルコト
四 形、重量及ヒ價值ヲ一般ノ便宜ニ適セシムルコト
僞造ヲ防ク方法ハ僞造ヲ爲シテハ莫大ノ費用繁多ナル手數及ヒ精巧緻密ナル技術ヲ要スル等非常ナル困難アリテ容易ニ金テ及ハサラシムルニ在リ脱税シ易キ租税カ脱税セラル如ク如何ナル嚴刑ヲ以テ威嚇スルモ僞造シ易キ僞

造貨幣ハ鑄造セラルルモノナリ又鑄貨ハ其全面總テ印象ヲ充タシ其形狀ヲ變スルコトナクシテハ金屬ノ質量ヲ減スルコト能ハサラシムルヲ要ス又鑄貨ハ合金其他技術上ノ方便ニ依リ日常ノ取引ニ由リ磨損スル度ヲ減スルコトヲ要ス其形狀及ヒ重量ハ携帶ニ便ニシテ其價格ハ日常ノ取引ニ相當スルモノナルコトヲ要ス又貨幣ノ價格ノ計算法ハ十進法ニ依ルヲ便トスルヲ以テ各種ノ鑄貨モ之ニ應シテ鑄造セラルルヲ可トス

第五節 貨幣制度

金屬貨幣ニ關スル制度三四種アリ

一、秤量貨幣制度(The System of Currency by Weight)トハ國家ハ單ニ秤量ノ制ヲ定ムルニ止マリ人民ハ金屬貨幣ヲ授受スルニ當リテ他ノ商品ヲ取扱フカ如ク各自貨幣ノ純分ヲ鑑定シ重量ヲ秤リテ取引スルモノヲ謂フ此制度ハ鑄造貨幣制度發達ノ初期ニ行ハルモノナリ而シテ今日ニ於テモ國際貸借ノ發高ヲ決済スルカ爲メニ用ヒラルニ當リテハ秤量貨幣制ニ依ルモノナリ

二、單本位制(Single metal tender System) 純粹ナル單本位制ハ鑄造貨幣ノ初期ニ採用セラレタルモノニシテ國家ハ唯一種ノ金屬ヨリ成ル鑄造貨幣ノミヲ發行シ之ヲ以テ法貨ト定メ法律上支拂ノ方便トシテ其額ニ制限ナク使用セシムルノ制度ナリ「スバルタ」スバルタは古希臘の銀貨で、紀元前5世紀に発行された。又鐵錢、支那ノ青銅錢、前世紀マテ行ハレン瑞典ノ銅板ノ如キ是ナリ此貨幣制度ハ貨幣トシテ採用スル金屬ハ一種類ニ限ルヲ以テ若シ賤金属ヲ採ルトキハ大取引ニ便ナラス貴金属ヲ採ルトキハ小取引ニ應スル鑄貨ヲ造ルニ便ナラズ其間ニ強大ハ發行本位貨幣ニ一大威權相成ル者實在矣

三、複本位制(Bimetalism) 即ニ種若タハ二種以上ノ金屬貨幣ヲ鑄造シ孰レモ之ヲ法貨ト爲メ人民ハ其好ミニ應シテ孰セイテ貨幣ヲ取リテ如何ナル金額人負債ヲ支拂フモ差支ナク而シテ各種ノ金屬ノ比價ヲ法律ニ依リテ定マル制度ヲ謂フ例ヘハ英國ニ於テ西暦千三百四十三年ニ金一銀十二ノ比價ヲ以テ金銀二種ノ金屬貨幣ヲ發行シ孰レモ之ヲ法貨トシテ流通セシタルカ如キ是ナリ複本位制ニシテ各種ノ貨幣ノ比價ヲ法律ヲ以テ規定キス市價ノ變動ニ任スモノヲ平行本位制(Parallel standard)ト謂フ複本位制ヲ行フ國ニ於テハ人民ヨリ孰レノ

地金ヲ提供シテ造幣ヲ請フモ其需ニ應スヘキモノトス然ルニ數種ノ金屬中或種類ノ金屬ノ鑄造ヲ中止スルコトアリ例へハ羅甸同盟國カ尙ホ金銀複本位制ヲ採ルニ拘ラス銀貨ノ鑄造ヲ停止セルカ如シ此ノ如キ制度ヲ跛本位制(The Bimetallic standard)トイフ

四 複雜本位制(Complex silver tender system)トハ或一種ノ金屬貨幣ヲ造リ此ヲ以テ本位制ト爲シ支拂上無限ニ使用セラルルノミナラス小取引ヲ便ニスル爲メ他ノ金屬貨幣ヲ鑄造シ制限セラレタル範圍内ニ於テノミ法貨トシテ用ヒラル制度ナリ例へハ我國ニ於テハ金貨本位貨ニシテ無制限ノ法貨ナレトモ銀、白銅銅貨等ハ補助貨ニシテ其使用高ニ一定ノ制限アリ例へハ五十錢以下五錢マテノ銀貨ハ一口ノ支拂十圓マテ白銅貨及ヒ銅貨ハ一口ノ支拂一圓マテヲ以テ限トシ其範圍ニ於テノミ法貨トシテ使用セラルルモノナリ

複雜本位制ハ千八百十六年以後始メテ英國ニ於テ採用セラレタルモノナリ此時ニ當リテ英國ニ於テハ金貨ヲ以テ本位貨トシ銀銅貨ヲ補助貨トシテ併用シタルナリ故ニ複雜本位ノ名稱ハ元來單本位制ニ伴フテ補助貨ヲ併用スルノ制度

第六節 「グレシャム」ノ法則

三 適用セラレタル名稱ナレトモ羅甸同盟諸國ニ於テハ金銀兩本位制ヲ取ルニ拘ラス銀貨、銅貨等ノ補助貨ヲ併用スルカ故ニ此ノ如キ國ノ制度ハ複雜本位制ニシテ且フ複雜本位ナリト謂フヲ得ヘシ

流通貨幣ノ磨損ニ因リテ各箇鑄貨ノ間ニ多少重量ニ等差ヲ生スルモ其外觀略同様ナルトキハ通常人ハ少シモ意ニ介セシテ名義上ノ價值ヲ以テ授受スルモノナレトモ兩換商地金商銀行者等ハ同一ノ法定價值ヲ有スル貨幣ニシテ純分又ハ重量ニ等差アルヲ知ルトキハ其良シキモノヲ取りテ或ハ溶解シ或ハ輸出シテ利益ヲ得シコトヲ勉ム其故ニ磨損シタル貨幣ノ流通スル時ニ當リテ十分ナル重量ヲ有スル新鑄貨ヲ發行スルモ忽チ溶解セラレタ古キ貨幣ノミ獨リ流通スヘク又品位劣等ニシテ古貨幣ト同一ノ法定價值ヲ有スル新貨ヲ發行スルトキハ新貨幣ノミ獨リ流通シテ古キ貨幣ハ流通界ヨリ引き上ケラルモノナリ貨幣ノ流通ニ關スル此法則ハ三百年前英國人サム・トーマス・グレシャム氏

ニ由リ明瞭ニ説明セラレタリ此法則ヲ簡單ニ記述シタルモノアリ曰ク
惡貨ハ良貨ヲ驅逐シ良貨ハ惡貨ヲ驅逐スル能ハズ
ト此事ヲ知ラスシテ單ニ良貨ヲ發行シテ通貨改良ノ目的ヲ達セント欲シテ失
敗シタル例勘カラス此法則ハ同種ノ金屬貨幣ノ間ニ行ハルノミナラス複本
位制ニ於ケルカ如ク二種以上ノ金屬貨幣並ヒ行ハルル場合ニモ此法則ノ効ヲ
見ルコトヲ得ヘシ例ヘハ金銀複本位制ニ於テ五フランノ銀貨カ五フラン金貨
ニ比シテ其真價低キトキハ銀貨ノミ流通シテ金貨ヲ流通界ヨリ驅逐スヘク之
ニ反シテ五フランノ銀貨カ五フランノ金貨ヨリ價高キトキハ金貨ノミ流通シ
テ銀貨ハ其影ヲ隱クスニ至ルヘキナリ左レトモ其時ノ経済事情ノ如何ニ由リ
國內ノ取引ノ爲メニ一定額ノ通貨ヲ要スルモノナリ隨テ流通貨幣ノ中ニ毀損
若クハ其他ノ原因ニ由リテ其真價大ニ少キモノト雖モ其數ニ限アルトキハ良
貨驅逐ノ勢力ニモ亦限アルカ故ニ良貨ト惡貨ト相並ヒテ流通スルモノナリ例
ヘハ佛國ニ於テハ法定價值同一ニシテ真價遙ニ低キ銀貨カ金貨ヲ驅逐シ丁セ
シテ兩貨相並ヒテ流通スルハ銀貨ノ鑄造中止ニ由リ銀貨ノ分量ニ制限ヲ加

ヘタルカ故ナリ

第七節 貨幣本位論

貨幣制度ニ關スル爭論ハ一國ニ於テ貨幣ノ材料トシテ用フヘキ金属ハ或一種
ニ限ルヘキモノナルカ或ハ數種ノ金属タルヘキカニ關シテ起リタルモノニア
ラス現今文明諸國ニ於テハ孰レモ金貨銀貨銅貨等ヲ併用ス例ヘハ金貨ノミヲ
用フルトセハ五圓ノ金貨スラ已ニ稍々小ナルフ覺ニ若シ一圓五十錢等ノ金貨
ヲ造ラハ果シテ如何進ミテ一錢五厘等ノ金貨ニ至リテハ僅ニ眼ニ見手ニ觸ル
ルヲ得ルニ過キサルノミ又銅貨ヲ唯一ノ貨幣ト爲ストキハ一圓銀貨ニシテ五百
百勿以上ノ重量アリ銀ハ其中間ニ在リ其不便稍少シト雖モ五圓ノ銀貨ハ大ニ
過キ一錢ノ銀貨ハ小ニ過キテ日常ノ取扱ニ便ナラス是レ何レフ文明國ニ於テ
モ三貨ヲ併用スル所以ナリ然レトモ此三種ノ金屬貨幣ヲ皆無限ノ法貨トシテ
用フルノ必要ナシ而シテ又何レノ國ニ於テモ銅貨ノ如キハ補助費トジテ一定
ノ制限内ニ於テノミ法貨トシテ使用スルモノナリ然ラハ他二種ノ貨幣ノ處置

ハ如何ニ二者共ニ無制限ノ法貨トシテ通用セシムヘキカ果タ一方ノミニ限ルヘ
キカ金銀兩本位制(即チ複本位制ノ一ナリ)ヲ採ルヘキカ金單本位制ヲ採ルヘキ
カニ付テ學者各見ル所ヲ異ニシテ相爭フ之ヲ貨幣本位論ト謂フ今若シ世界ノ
他ノ諸國ト通商貿易ヲ爲ス或一國カ率先シテ金銀兩本位制ヲ採用スルトキハ
其結果如何ナルヘキカ金銀兩金屬ノ法定比價ト市場比價トノ間ニ等差ヲ生
ルトキハ兩本位制ハ之ヲ維持スルニ由ナシ然ルニ兩金屬ノ市場比價ハ需用ト
供給トノ關係ニ因リ絶エス變動スルカ故ニ政府ハ之ニ應シテ絶エス法定比價
ヲ變更セサルヘカラス若シ法定比價ノ改正ヲ爲ササルトキハ金銀貨ノ中孰レ
カ一ハ法定ノ割合ニ比シテ輕キニ過キ一ハ法定ノ割合ニ比シテ重キニ過クル
ナルヘシ然ルニ「グレシャム」ノ法則ニ依リ輕キ者惡貨ハ重キ者良貨ヲ驅逐スル
カ故ニ實際國內ニ流通スルモノハ法定割合ヨリ輕キ一種ノ貨幣ニ限ルコトト
爲ルヘシ是レ名ハ兩本位制ナリト雖モ實際ハ輕キ貨幣ノ交替本位制ナリト謂
フ所以ナリ此例證トシテ最適當ナルモノハ一千八百三年以來ノ佛國ノ貨幣制
度ナリ

佛國ハ一千八百三年三月二十八日ノ法律ニ依リ金銀兩本位制ヲ採用セリ此法
律ノ依レハ銀一「キログラム」ヲ二百フラント爲シタルヲ以テ五フランノ銀貨ハ
二十五グラムノ銀塊ナリ又一「フラン」ノ銀貨ハ五グラムノ銀塊ヨリ成ル又當時
ノ市價ニ鑑ミ金一「キログラム」ハ三千一百フランニ當ルモノトシ五フランノ金
貨ハ一六一三グラムヲ含ムモノト定メタリ(即チ金銀ノ法定比價一ト十五半ト
爲シタリ其後金銀ノ比價ニ多少ノ變動アリタレトモ佛國ハ能ク其幣制ヲ維持
シタリ然ルニ一千八百四十七年ニカリホルニヤノ金鏡一千八百五十二年ニ歐
洲ノ金鏡發見アリ是マテ一年ノ金產額僅ニ一億フランナリシモノ今ハ進ミテ五
六億フランニ増加セリ又一方ニ於テハ印度ト通商ノ發達ニ由リテ銀塊ノ印度
ニ吸收セラレタル額甚タ多シ其結果トシテニ金屬ノ比價ニ變動ヲ來シ貴金屬
ノ市場ニ於テハ金一「グラム」ハ銀十五グラム半ニ當ラスシテ銀十五グラム乃
至十四グラムニ當ル當時英人ハ銀ヲ印度ヘ送ランカ爲メニ何レニカ銀ヲ求ム
ルノ必要アリ然ルニ倫敦ニ於テハ金一「キログラム」ニ對シテ銀十四「キログラム」
ヨリ餘分ニ求ムルコト能ハス然ルニ金一「キログラム」ヲ巴里ノ造幣局ニ送リテ

鑄造ヲ依頼スルトキヘ三千一百〔フラン〕ノ金貨ヲ得ヘシ此ヲ同數ノ銀貨ト交換スルトキハ3100×5[グラム]即チ金一〔キログラム〕ニ對レテ銀十五〔キログラム〕年ヲ得テ大ニ利益ヲ得タリ又佛人ハ銀貨二百八十〔フラン〕即チ銀塊十四〔キログラム〕ヲ倫敦ニ送リ其時ノ相場ニ從ヒテ金一〔キログラム〕ト交換シテ之ヲ本國ニ送リ巴里ノ造幣局ニ依頼シテ金貨ト爲ストキハ金貨三千一百〔フラン〕ヲ得ヘシ是ヲ以テ差引三百〔フラン〕ノ利益ト爲ル此中ヨリ造幣費運送費其他ノ雜費ヲ差引クモ尙ホ非常ニ有利ナル取引ナリ此ノ如クニシテ銀貨ハ次第ニ佛國ヲ去リ之ニ代リテ現ハレタルモノハ金貨ナリ是レ即チ法定割合ヨリ輕キ金貨幣惡貨カ重キ銀貨幣良貨ヲ驅逐スト謂ノグレンヤム法則ノ効ナリ此ノ如クシテ當時佛國ヲ去リタル銀貨ハ二十億〔フラン〕ニ上リタリト云フ當時英佛ノ地金商ハ競フテ佛國ノ銀貨ヲ集メテ英國ニ送ルニ當リテハ唯其速ナラシコトヲ欲スルノミニテ其貨幣ノ種類ノ五〔フラン〕銀貨タルト一〔フラン〕銀貨タルト五十サンチーム貿タルトハ固ヨリ問フ所ニアラナルナリ而シテ此等ヲ集メテ英國ニ送リ代リテ佛國ニ來ル所ノ金塊ニ由リ鑄造セラレタル貨幣ハ皆五〔フラン〕以上ノ金貨幣

シルヲ以テ佛國ハ忽チニシテ小貨幣ノ缺乏來シタリ是ニ於テ一千八百六十五年ノ法律ニ依リ五〔フラン〕銀貨ヲ除キ其他ノ銀貨ノ純分ハ從來千分中九百ナリシモノヲ八百三十五ト爲シ即チ當時金銀ノ實際比價ニ比シテ割合輕キモノト爲シタリ每制限ノ法貨タルコトヲ廢シテ補助貨ト爲シ一箇人ノ間ニ於テ一口ノ支拂高五十〔フラン〕マテヲ限リテ法貨トシテ授受セシムルコトト爲シタリ是ニ於テ此等ノ補助銀貨ノ法定價格ハ實際ノ市場價格ニ比シテ不廉ナルモノト爲リタルヲ以テ之ヲ買收シテ輸出スルモ何等ノ利益ナキヲ以テ之ヲ輸出スル者ナク茲ニ補助貨ノ流出ハ停止セラレタリ然レトモ五〔フラン〕銀貨ノ流出ハ尙ホ引續キ行ハレタリ其後二十年ヲ経テ一千八百七十三年ニ至リテ再ヒ金銀二貨ノ比價ニ反對ノ變動起リ佛國ノ貨幣制度ハ再ヒ擾亂セラレタリ亞米利加ニ發見セラレタル銀鑄ヨリ銀ノ巨額ノ產出アリ之ト同時ニ獨逸國ハ金貨本位ヲ採用シ從來ノ通用貨幣タリシターレル銀貨ヲ賣却シテ金塊ヲ買入レタリ是ニ於テ金銀二金属ノ比價再ヒ變動シ金ノ一〔キログラム〕ハ銀ノ十四キログラム若クハ十五キログラム半ト交換セラレナルノミナラス十六十七十八遂ニハ二十キ

ログラム」交換セラルルニ至レリ換言スレハ銀ハ金ニ比シテ大ニ下落シ五「フラン」銀貨ハ其當時ノ市場價格ニ依レハ金貨三「フラン」五十サンチームニ當ルニ過キス是ニ於テ金貨ハ法定割合ニ比シテ過重ト爲リ銀ハ輕キニ過クルモノトナリ茲ニ再ヒ金貨ノ流失ヲ始メタリ佛國ノ銀行家ハ金貨幣三千一百「フラン」即チ重量一「キログラム」ノ金ヲ集メテ倫敦ニ送リ是ニ於テ二十「キログラム」ノ銀塊ト交換シテ佛國ニ輸入シテ銀貨ニ鑄造スルトキハ「フラン」ハ銀五「グラム」ナルヲ以テ四千「フラン」ノ銀貨ヲ得ヘシ即チ差引九百「フラン」ノ利益アリ此中ヨリ多少ノ運送費造幣費其他ノ諸雜費ヲ差引クモ尙ホ非常ナル利益ヲ得タリ此動ノ結果トシテ佛國ニ於テハ金貨次第ニ減少シ銀貨次第ニ増加シタリ此動ヲ無制限ニ行ハシムルトキハ其結果トシテ一定ノ期間經過ノ後ハ金貨ハ全ク流出シ了リテ銀貨ノミ流通スルコト爲ルベシ故ニ佛國ハ其當時金貨流出ヲ避ケンカ爲メニ一千八百六十五年ニ採用シタル政策ノ如ク金貨ノ品位ヲ低クシ又ハ銀貨ノ重量ヲ増ス(即チ法定比價ヲ改正シテ)ニ由リテ其目的ヲ達スルコトヲ得タルナランカ度度貨幣ノ改鑄ヲ行フコトハ全ク貨幣制度ノ不信用ヲ來シ之カ

爲メニ生スル政府ノ損失莫大ナルヲ以テ一層簡單ナル方法ヲ採レリ即チ一千八百七十五年十一月ノ法律ニ依リ五「フラン」銀貨ノ鑄造ヲ停止セリ是ニ於テ佛國ヨリ金塊ヲ輸出シテ銀塊ヲ外國ヨリ輸入スルモ佛國ハ之ヲ貨幣ニ鑄造セサルヲ以テ何等ノ利益ヲ收ムルコト能ハス隨テ金貨ノ輸出ヲ企ツル者ナク金貨ノ流出モ亦停止セラレタリト雖モ銀貨ハ最早鑄造セラレナルヲ以テ引續キ新ニ鑄造セラルルモノハ金貨ノミニ限ルヲ以テ名ハ金銀兩本位制ナリト雖モ實際ハ殆ト金單本位制ニ同シト謂ハサルヘカラス此復本位制ノ變體ヲ名ケラ破本位制(Jumping standard)ト云フ

一千八百七十三年獨逸カ金單本位制ヲ採用シタルカ故ニ銀ノ價格ハ大ニ下落シタルニ一千八百七十五年ニハ佛國ヲ殆メ其他羅甸同盟國以太利、白耳、義瑞西、希臘カ銀貨ノ鑄造ヲ停止シタルニ因リ銀貨此ニ再ヒ人口八千萬人ノ市場ヲ失ヒ大ニ其需要ヲ減少シタルヲ以テ銀貨ノ下落ヲ一層急激ナラシメ一千八百七十二年ニハ金一銀十五・五五ナリシモ一千八百七十六年ニハ十六八二ト爲リ一千八百八十年ニハ金一銀一八〇・五一、一千八百八十六年ニハ金一銀二〇・七八ト爲リタ

前ニ舉ケタル佛國ノ實例ニ徴スルモ一國カ他國ニ率先シテ兩本位制ヲ採ルトキハ實際市場ノ比價ト法定比價トノ間ニ等差ヲ生スルトキハ下落シタル貨幣ノミ其國ニ流入シ騰貴シタル貨幣ハ外國ニ流出シ結局其國ノ損失ニ歸スルモノナリ。一千八百七十三年英國ノ本位制ノ變遷、其國ノ通商銀行團即ち本國自其開港以來各國ノ通商銀行團ノ本國に於ける貨幣の流通を主導する事、然レトモ社會一般ヨリ觀ルトキハ金ノ價騰貴セハ兩本位國ハ金ノ輸出シテ銀ヲ購買ス此銀ニ對スル需要ノ増加ハ銀ノ價格ヲ騰貴セシメ金ノ供給ノ増加ハ金ノ價格ヲ下落セシムモノナリ之ヲ兩本位ノ補正作用ト謂フ兩本位制ニ於テハ此補正作用ノ効アルヲ以テ單ニ一種ノ金屬ヲ貨幣トスル場合ニ比スレハ貨幣價格ノ變動ヲ少カシム而シテ其補正作用ハ兩本位制ノ行ハル區域廣クシテ二金屬既存ノ分量孰レモ多量ナルトキハ有效ニ行ハルモノナリト謂フ理論ハ萬國複本位論者即チ一二ノ國カ他國ニ率先シテ兩本位制ヲ採ラントスルモ固ヨリ行ハルヘキコトニアラナレトモ世界ノ主要ナル通商國聯合シテ兩本位制ヲ採ルトキハ能ク之ヲ維持スルコトヲ得ヘシト主張スル者ノ金科玉條ト分ナリ。

一千八百七十三年以來諸國競フテ金貨本位制ヲ採用シタルヲ以テ創シク金ノ需要ヲ増加シ其結果トシテ金ノ價格著シク騰貴シ諸物價甚シク下落シテ貸借ノ關係ヲ紊亂シ產業萎微シテ畜ハス一般ニ不景氣ノ悲況ニ沈倫セリ是レ即チ金ノミニテハ貨幣ノ材料タルニ不十分ナルコトヲ證スルモノナリ。金貨本位論者曰ク金貨國ニ於テ物價ノ下落シタルハ學理ノ應用器械ノ發明ニ由リテ生産費ヲ減シタルニ基クモノニシテ金ノ價格ノ騰貴ニ起因スルモ

人ニアラス然レトモ學理ノ應用器械ノ發明其産業ノ進歩ハ最近二十餘年以來始メテ起リタル事柄ニアラス又此時代ニ限リ特ニ著シク進歩ノ度ヲ加ヘタルヲ見ス又此ト同時ニ同様ノ文明ノ利器ヲ應用シタル銀貨國ニ於テハ物價ニ著シキ變動ナキニ拘ラス此時代ニ於ケル金貨國ニ限リ物價ノ劇變ニ遭遇シタルハ全ク金貨本位制採用ノ結果ナリト謂ハサルヘカラス

二、主要ナル商業國連合シヲ復本位制ヲ取ルトキハ金銀ノ法定比價ヲ維持スルコトヲ得ヘシ

一、現近世界ノ主ナル商業國ニ存在スル貨幣ハ金貨約五十億圓、銀貨ハ補助貨ヲ除キ約五十億圓、總計大凡百億圓アリ然ルニ金ノ一年ノ產額ハ平均約二億圓銀ノ產額ハ約五億圓アリトシ金銀トモ其半額ハ年年工藝其他ノ用ニ充ラレ其半額ハ貨幣鑄造ニ充ラルモノト假定セヨ而シテ金銀貨ノ法定比價ハ一ト三〇トノ割合ナリシモノト假定セヨ然ルニ金ノ供給俄ニ減少シテ一年ノ產額一億圓ト爲リ金塊ノ相場著シク騰貴シテ金一銀三五ト爲リタルモノト假定スルトキハ金銀ノ法定比價ハ之ヲ維持スヘキヤ否ヤ此時ニ當リテ

金ハ貨幣ニ鑄造スルヨリモ金塊トシテ賣却スル方有利ナルヲ以テ何人モ金塊ヲ提供シテ金貨ノ鑄造ヲ依頼スル者ナカルヘン又銀ハ地金トシテ販賣スルヨリハ貨幣トシテ使用スル方有利ナルヲ以テ各人競フテ銀貨ノ鑄造ヲ依頼スヘタ其極一年ノ產額五億圓ハ悉ク銀貨ニ鑄造セラレタルモノト假定スヘシ然ルニ此等ノ諸國ニ於テ年年貨幣トシテ增鑄ヲ要スル額ハ金銀ノ毎一年ノ產額七億圓ノ半額三億五千萬圓ニ過キス然ルニ六億圓丈增鑄セラルルトキハ貨幣ノ供給多キニ過キ貨幣ノ價格下落スルヲ以テ貨幣トシテ用ヒラルヨリハ地金トシテ用フルヲ以テ利益アリトスルニ至ルヘシ而シテ此場合ニ於テハ金貨ヲ鑄潰シ金塊トシテ販賣スルコトハ頗ル有利ナルヲ以テ六億圓ト三億五千萬圓トノ差二億五千萬圓丈ノ金貨ハ貨幣タル用ヲ辭シテ金塊ト爲リ市場ニ現ルヘシ然ルニ金塊ノ工藝品等ニ要スル額ハ一年僅ニ一億圓ニ過ぎナルニ其供給ハ新生產額一億圓ト舊貨幣ノ鑄潰ナレタルモノニ二億圓合計三億圓ト爲ルヲ以テ供給遙ニ需要ニ超過シ金塊ノ相場忽チ下落ノ傾ラ生シ遂ニ金一銀三〇ノ法定比價ニ復スルモノナリ
一千八百三十二年

此事タル單ニ理論上右ノ如ク決定スルコトヲ得ルノミナラス一千八百三年以來七十年間羅甸同盟カ金一銀一五五ノ割合ヲ以テ復本位制ヲ採用シ善ク之ヲ維持スルコトヲ得タルヲ以テ例證ト爲スコトヲ得ヘシ

三、金銀兩金屬ヲ併用スルトキハ一金屬ヲ使用スルトキヨリ貨幣ノ價格ニ變動少シ

一、金屬ノミヲ使用スルトキハ其金屬ノ需要供給ニ變動アルトキハ貨幣ノ價格ハ忽チニ變動スヘシ然ルニ兩金屬ヲ併用スルトキハ一金屬ノ供給減少スルモ單ニ其金屬ノミヲ使用スルトキニ比スレハ貨幣ノ價格ニ影響ヲ及ホスコト少シ況ヤ一方ノ金屬ノ供給カ減少スルト同時ニ偶々他方ノ金屬ノ供給増加スルカ如キコトハ決シテ稀有ノコトニアザレハナリ是ヲ以テ羅甸同盟國復本位制ヲ實行シタルトキニ於テ歐洲諸國ノ物價ハ最近二十餘年間ニ於ケルカ如ク甚シキ變動ヲ蒙リタルコトナシ

四、萬國本位制ヲ採用スルトキハ世界ノ貿易ヲ圓滑ナラシム
金貨國、銀貨國トノ間ニ存在スル爲替相場ノ變動ヨリ生スル障礙ヲ去リテ通

商貿易ヲ圓滑ナラシメ又諸國ノ間ニ資本ノ疏通ヲ便ナラシム

一、此爲換相場變動ヨリ生スル通商上ノ妨害ハ萬國カ金又ハ銀單位ヲ採用スルコトニ依リテモ亦之ヲ除クコトヲ得ヘシト雖モ何レカ一方ノ金屬ノミニテハ貨幣ノ材料トシテ不十分ナルカ故ニ強ク此ノ如キ方法ヲ取ルトキハ物價ニ劇變ヲ來シ其幣ニ堪ヘナルヘキヲ以テ此目的ヲ達セんカ爲メニハ萬國複本位制ヲ取ルヲ以テ最モ機宜ニ適シタルモノナリト云フナリ

又單本位制ヲ主張スル者ノ論旨ハ左ノ如シ

一、兩金屬ノ比價ハ常ニ變動スルモノナルヲ以テ價格ノ標準ト爲ス能ハス
金銀ノ價格ハ其供給工藝等ニ用フル需要及ヒ其生產等ニ關スル變動ニ由リ
三、絕ニス變化スルモノナルカ故ニ到底一定ノ比價ヲ維持シ得ヘキモノニアラ
ス隨テ此二種ノ金屬貨幣ヲ以テ價格ノ標準ト爲スコトハ到底ナシ得ラレサ
ルナリ本來貨幣ノ價值を以て其價格を定め得サムニ烟火智國ハ或
二、金ハ文明國ノ貨幣タルニ適スルモノナリ
金單本位制ヲ主張スル人ハ曰ク金ノ價格ハ銀ヨリモ固定ナルモノナリ又經

濟社會ノ進歩スルニ隨テ大取引ハ益々頻繁ト爲ルモノナリ金ハ其容量小ニシテ價格大ナルカ故ニ此ノ如き社會ノ貨幣タルニ適スルモノナリ朝鮮ノ如キ夥多ノ小支拂アル國ニ於テハ銀貨ヲ以テ便ナリト爲セトモ歐米諸國ノ如ク大商業國ニ於テハ金貨ヲ以テ本位貨ト爲スヲ便トスリハ此制大なる也三、復本位制ヲ採用ストキハ貸借關係ヲ擾亂ス此費々譯發心費ヘナシニテ金銀復本位制ハ名ハ兩本位ナレトモ其實廉價ナル貨幣ノ交替本位制ナルカ故ニ債權者ニ損失フ被ラシメ債務者ヲシテ不當ノ利益ヲ得シムルモノニシテ信用經濟ノ發達ヲ害スルモノナリ

第四章 信 用

第一節 信用ノ種類

信用トハ一方ノ履行カ將來相手方ノ履行ニ依リテ報イラルヘシトノ信認ニ基キテ行ハル所ノ貨財ノ授受ヲ謂フ。又財物の現金又ハ銀票並ハ銀票大半又は其餘を同前の如キ又は前記入金ニ實存ハ無能者則モ然也。

第二節 信用ノ種類

信用ハ種種ノ標準ニ依リテ之ヲ分類スルコトヲ得ヘシ

- (一) 債務者ノ人格ヲ基礎ト爲ストキハ公共的信用私人的信用ノ別アリ債務者カ國家其他ノ公共團體ナルトキハ公共的信用ト謂フ。又債務者カ一私人ナルトキハ私人的信用ト謂フ。
- (二) 支拂ノ約束ヲ保證スルトキハ對物信用對人信用ノ別アリ
- (三) 債務者又ハ第三者カ自己ノ動產又ハ不動產ノ上ニ行ハル物權動產質不動產抵當ヲ債權者ニ與フルコトニ由リテ債務者ノ支拂ノ約束ヲ保證スルトキハ之ヲ對物信用ト謂フ此種類ノ擔保ナキトキハ對人信用ト謂フ
- (四) 債務者カ受取リタル貨財ノ使用ノ方法ヲ基礎トスルトキハ生產的信用消費的信用ノ別アリ

負債者借財ヲ不生產的ニ使用シタルトキハ消費的信用ト謂フ之ヲ經濟スルニ當リテハ他ノ財源ニ依ルコトヲ要スルモノナリ負債者カ借財ヲ生產的

使用シタルトキハ之ヲ生産的信用ト謂フ而シテ商業ニ用ヒタルトキハ商業
信用ト謂ヒ工業ニ用ヒタルトキハ工業信用農業ニ用ヒタルトキハ農業信用
ト謂フ

第三節 信用ノ成立要件

信用ハ一定ノ個人的及ヒ社會的條件ノ具備ニ由リテ成立スルモノナリ
 (甲) 借入の條件トハ債務ヲ履行スル負債者ノ能力ト意思トヲ謂フ
 (乙) 債務履行ノ能力ハアバ、其猶イタムモナサヘ管財者無人者有
 一、勞働ニ堪能ナラシムル精神及ヒ身體ノ狀態

二、所有財產ノ量及ヒ其處分ノ難易

(三) 由リテ決定セラル又債務者ノ意思ハ債務者ノ道徳上ノ性質正直、廉恥節儉等
 仁義、忠誠、誠實、不貪財大度等ハ一切其舉中ニ現セラム
 (四) 當事者ハ眞實、誠實、誠實ハ人間として通入、根柢、當入の志を抱置ハセバ

第一款 信用ノ利益

(一) 信用ハ資本ノ效力ヲ増加ス、企業ヲ爲スノ能力智識嗜好又ハ必要ニ迫ラレ
 プルモノハノ手中ニ存スル資本ヲ之ニ反スルモノノ手ニ移シ又小資本ヲ結合
 ジテ大企業ニ充用スルヲ得セシムルカ如キハ大ニ資本ノ效力ヲ増加スルモ
 (二) 信用ハ貯蓄ヲ獎勵ス、直接ニ使用スルモノ機會ナキ程ノ小額ノ資金ヲ預リテ
 相當人利子ヲ附スル貯蓄銀行預金銀行等ノ設備アルハ大ニ貯蓄ヲ獎勵スル
 (三) 信用ハ金銀ノ使用ヲ節約ス、現近ノ文明國ニ於ケル交換ノ大部分ハ信用設

- (三) 分ノ媒介ニ依リテ行ハルモノナリ特ニ遠隔ノ土地ノ間ニ行ハルル巨額ノ支拂ハ此方法ニ依ルノ外他ニ便法ナシト謂フコトヲ得ヘシ
 (四) 信用ハ無資財者ノ急ヲ救フ。信用ハ人ヲシテ其人ノ未來ノ收入ヲ引當トシテ現在ニ他人ノ貨財ヲ利用スルノ機會ヲ得セシムルモノナリ隨テ不慮ノ災害若クハ其他ノ理由ニ據リテ一時ニ巨額ノ支拂ヲ要スル場合ニ於テハ一時他人ノ貨財ヲ借りテ其急ニ應シ長キ期間ニ涉メ分割シテ返済スルコトニヨリ大ニ灾害ヨリ生スル苦痛ヲ減少スルコトヲ得ヘシ
 (五) 大ニ灾害ヨリ生スル苦痛ヲ減少スルコトヲ得ヘシ

第二款 信用ノ害

- (一) 信用ハ浪費ヲ催進ス。信用ハ人ヲシテ他人ノ財産ヲ借入レ之ヲ處置スルノ權能ヲ得セシムルモノナルカ故ニ不謹慎ナル者ハ一時其掌中ニ歸シタル資產ノ分量多キニ往セ身分不相應ナル濫費ヲ爲スニ至ルコトアリ

- (二) 信用ハ不確實ナル企業ヲ誘起ス。信用資金ヲ以テスル者ハ自己所有ノ資金ヲ以テ業ヲ營ム者ニ比スレハ往往其成功ノ目途不確實ナル業務ヲ企ツルモトアリ

第五章 貨幣ノ代用物

貨幣ノ使用ハ交換ニ非常ナル便宜ヲ與フルモノナリ然レトモ交換ノ行ハル度每ニ金錢ノ授受ヲ要スル。貨物ノ取引ヲ容易ナラシムル途ニテア未タ盡シタルモノト謂フヘカラス而シテ交換ノ媒介トシテ獨リ貨幣ノミヲ使用スルトキハ極メテ巨額ナシ金銀ノ供給ヲ必要トス然ルニ金銀ハ他ノ貨物ノ分量又ハ貨物ノ取引ノ増加ニ伴ヒテ相並ヒテ増加セナルカ故ニ世人ハ他物ヲ以テ貨幣ニ代リテ交換ノ媒介ヲ爲シムルニ至リ
 貨幣ノ重ナル代用物ハ信用證券及ヒ紙幣ナリ信用證券ノ價ヲ有スルハ之ヲ流

通セシムル人カ證券ニ對シテ貨幣ヲ支拂フコトヲ約シ世人カ其約束ノ信用スルカ故ニ之ヲ金屬貨幣ト異ナリ其材料中ニ真價ヲ有スルモノニハアラナルナリ
信用證券ノ分類種種ノ標準ニ依リ之ヲ區別スルコトヲ得ヘシ

一、發行者ノ人格ニ依リテ區別ストキハル

(a) 國家、府縣市町村等ノ公共團體ノ發行シタル債券ヲ公ノ信用證券ト謂ヒ例

如テヘハ國債地方債證券ノ如キ)

(b) 一私人又ハ私ノ團體ノ發行シタルモノヲ私ノ信用證券ト謂フ例ヘハ借金證書手形等ノ如シ)

二、支拂ヲ爲スヘキ人ニ依リテ區別スルトキハ

(a) 信用證券ノ發行者カ直接ニ債務ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約束スルモノノ例ヘハ借用證書約束手形等ノ如キモノト

(b) 第三者ニ對シテ發行者ニ代リテ支拂ヲ爲スヘキコトヲ依頼スルモノノ例ヘ

三、(三)ハ爲替手形小切手等トアリ

三、債務ノ履行ノ時期ニ依リテ區別スルトキ

(a) 一覽拂證券 發行者又ハ發行者ヨリ支拂ヲ依頼セラレタル人ハ信用證券

ヲ呈示セラレタルトキハ直チニ支拂ヲ爲スヘキモノヲ謂フ例ヘハ一覽拂ノ

手形小切手等ノ如シ

(b) 定期拂證券 多數ノ借用證書及ヒ手形等ニ屬ス證券面ニ記載セラレタ

ル一定ノ期日ニ達セサレハ債務者ハ支拂ヲ爲スヲ要セサルモノナリ

(c) 不定期拂證券 債權者若クハ債務者ノ一方若クハ雙方カ通知權ヲ有スル

場合ト雙方共ニ之ヲ有セサル場合トアリ當事者カ通知權ヲ有スル場合ニ於

テハ其通知ヲ爲シタルトキ若クハ通知後一定ノ期日ニ達スレハ債務者ハ支

拂ヲ爲スヘキモノナリ又雙方共ニ通知權ヲ有セナルモノハ例ヘハ永久公債

ノ如ク雙双方ノ同意アルニアラサレハ債務ヲ消滅セシムル機會ナキモノヲ謂

四、移轉ノ方法ニ關シテ信用證券ヲ區別スルトキハ人又ハ其人ハ相承オレ人ニ

(a) 記名式證券 證券ノ表面ニ記載シタル宛名ノ人ニノミ支拂フヘキモノヲ

謂フ而シテ此證券ヲ所有權ヲ移轉スルニハ債權讓渡ニ必要ナル條件ヲ具フ

(b) 指圖式證券 證券ノ表面ニ記載シタル宛名ノ人又ハ其人ノ指定セシ人ニ支拂フヘキコトヲ記載セルモノヲ謂フ而シテ此種ノ證券ヲ讓渡スニハ其所

有者ハ通常其證券ノ裏面ニ署名捺印シ又ハ署名捺印ニ加ヘテ表面ノ金額ノ支拂ヲ受クル權利ヲ讓渡ス旨ヲ明記シ之ヲ相手方ニ引渡スコトヲ要スルナリ例ヘハ指圖式ノ約束手形爲替手形等ノ如キモノヲ謂フ

(c) 無記名式證券 證書ノ券面ニ支拂ヲ受クヘキ人ヲ指定セサル證券ヲ謂フ此證券ノ移轉ハ單ニ引渡エ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ヘタシモ他ノ方式ヲ要セサルモノナリ例ヘハ無記名公債證書銀行紙幣等ノ如キモノヲ謂フ

貨幣ノ代用物トシテ最モ廣ク使用セラル信用證券ハ次ノ四種ナリ
 (1) 約束手形 トハ手形ノ發行人カ其手形ノ受取人又ハ指圖人又ハ其手形ノ持參人ニ一覽次第又ハ一定ノ期日ニ一定ノ金額ヲ自ラ支拂ハントノ約束ヲ記載シタル證券ヲ謂フ而シテ手形ノ受取人又ハ所持人ハ裏書讓渡又ハ引渡ニ依リ

チ券面ノ金額ヲ第三者ニ支拂フヘキコトヲ發行人ニ指圖スルコトヲ得ヘシ此方法ニ依リ手形ノ所持人ハ手形ヲ以テ負債支拂ノ具ト爲スコトヲ得ヘク最後ノ所持人カ支拂ノ爲メニ手形ヲ發行人ニ呈示スルマテニハ數回ノ交換ヲ媒介スルコトヲ得ヘシ

(2) 小切手 トハ其發行者カ銀行ニ對シテ受取人又ハ其指圖人又ハ持參人ニ一定ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ依頼スル證券ナリ此證券ハ銀行ニ預金ヲ爲シ又ハ豫メ銀行ト信用約束アル場合ニノミ發行スルコトヲ得ヘシ
 (3) 爲替手形 トハ手形發行者カ他人支拂人ニ宛テ一定ノ金額ヲ或第三者ニ支拂フヘシトノ依頼シタル證券ヲ謂フ此證券ハ特定ノ人又ハ其指圖人又ハ所持人ニ支拂フヘキモノト爲スコトヲ得ヘク一覽拂ナルモアリ又定期拂ナルモノモアリ此證券モ亦支拂ノ爲メニ呈示セラル前ニ數多ノ交換又ハ支拂ノ用ニ供セラルモノナリ又銀行者ハ手形ヲ買ヒ入レ又ハ遠隔ノ地ニ送金セント欲スル者ニ手形ヲ賣渡スモノナリ
 (4) 銀行紙幣 トハ銀行ノ發行シタル一ノ約束手形モシテ持參人ノ要求次第支

塘ハルヘキモノナリ而シテ形式上他ノ約束手形ト少シモ異ナル所ナシト雖モ
小切手其他ノ手形ハ商品取引ニ基キテ發行セラレタルモノニシテ銀行紙幣ハ
故意ニ交換ノ媒介物タラシメンカ爲メニ發行シタルモノナルヲ以テ多少實質
上ノ差異アリト謂フコトヲ得ヘシ又強制力ヲ有スル紙幣ニ付テハ別ニ章ヲ更
ヘテ之ヲ論スヘシ

第六章 銀 行

第一節 銀行ノ性質
信用取引ハ債主ト負債主トノ間ニ直接ニ行ハレ又ハ債主ト負債主トノ間ニ立
チテ資本ノ需要ト供給トヲ結合セシムルコトヲカムル第三者ノ協力ニ依リテ、
間接ニ行ハル

直接受信ノ信用ニ伴フ不便ナル點ハ左ノ如シ

一 債主負債者相互間ノ欲求ヲ知悉スルノ機會少シ
二 債主カ負債主ノ支拂能力ニ對シテ置ク所ノ信認ノ缺乏セルコト
三 債主負債主ノ要求スル條件一致セサルコト

(イ)貸シ又ハ借ラント欲スル金額ニ付テ
(ロ)返済ノ時期及ヒ方法ニ付テ
(ハ)利子ノ歩合ニ付テ
銀行トハ自己ノ計算ト危険トヲ以テ信用取引ノ媒介ヲ以テ業ト爲スモノア謂
ラ銀行ハ自ラ債務者ト爲リテ資金ノ餘リアル所ヨリ借リ入レ自ラ債權者ト爲
リテ資金ノ足ラナル所ニ貸付クルコトヲ業ト爲スモノナリ而シテ營業上ノ熟
練ト同業者間ノ聯合及ヒ其取扱フ所ノ資金ノ巨大ナルコトヨリシテ其支拂能
力ニ關シテ世間ニ信用ヲ博シ又負債者ノ支拂能力ヲ探クルニ付テ特別ナル便
宜ヲ有スルモノナリ

銀行業ハ一箇人企業ヨリモ寧ロ團體企業ニ適スルモノナリト謂フヲ得ヘシ團
體企業ナルトキハ信用ヲ得ルノ基礎タル資金ヲ隨意ニ増加スルコトヲ得ヘタ
又貸借對照表ノ公示セラルコトニ由リヲ一般ノ信用ヲ博スルコトヲ得レハ
ナリ

第一節 銀行ノ種類

業務ノ性質及ヒ目的ノ如何ニ依リテ銀行ヲ左ノ三種ニ區別ス
(一) 農業銀行 (二) 工業銀行 (三) 商業銀行
農業銀行第一款 農業銀行

國ノ東西ヲ問ハス時ノ古今ヲ論セス苟モ農業ニ從事スル者ハ其生活ヲ維持シ
其事業ヲ繼續シ或ハ進ミテ業務ノ改良發達ヲ計ラント欲セバ時々其負債ヲ爲ス
人必要ヲ生スルモノナリ土地未タ開ヶス人口稀薄ナル邦ニ於テハ其耕作法未
タ全ク整ハサルニ當リテ時時時候不順ニシテ收穫物非常ニ減少シ農民ヘ其事
業ヲ繼續スル能ハサルノミナラス目前ノ生活ニ差支フ生シ負債ヲ爲スノ必要
ヲ生ス又國大ニ開ケ人口稠密ナル地方ニ於テハ穀物ノ需要増加シ其價格次第
ニ騰貴スルヲ以テ在來ノ地積ト古來ノ耕作法ヲ以テ農業ヲ營ムコトヲ容サス

耕作ニ不便ナリトシテ捨テ置キタル土地ヲ開キ又々既成ノ土地ニ改良ヲ加ヘ
器具機械ヲ改良シ肥料ヲ精選增加シテ總收穫ノ增加ヲ計ルノ必要ヲ生ス此時
ニ當リテ多數ノ農民ハ自己所有ノ資本ノミニテハ不足ヲ感スヘク時ニ一旦自
己所有ノ資本ノミニテ改良ヲ企テ半途ニ其資金盡キタル際ニ於テハ他人ノ資
本ニ依ラサルヲ得サルモノナリ加之虫風水旱等ノ天災、戰亂、疫癆獸疫等ノ厄難
若クハ火災、一家ノ不幸家計ノ不整理土地買入代ノ不足等ノ結果ニ由リ借用金
ヲ爲スノ必要ヲ生スルコトアリ而シテ此等ノ農民ニ對シテ資金ヲ貸與シ又ハ
貸付ヲ媒介スル者ハ如何ナル者ナルヤト云フニ尙ホ土地ニ抵當借用證書ナリ
ラレサル時ニ於テハ田舍ニ散在スル金貸又ハ市街地ニ在ル商業銀行ニシテ貸
借ノ約束ハ短期全額一時拂長期年賦拂ニ對シテ云フニシテ其利子歩合モ高キ
ヲ常トス而シテ農民ヨリ債權者ニ立フノミナラス農民ニ貸付ケタル資金ノ實
際ノ所有主ナリ之ニ反シテ商業銀行ハ他人ノ資金ヲ低歩ニ預リテ稍ヤ高歩ニ

之ヲ貸付ケ其間ノ差額ヲ利スルヲ以テ本務ト爲スモノナルカ故ニ商業銀行ノ貸付ケタル資金ノ出所ハ銀行ニ當座若クハ定期預金ヲ爲シタル人ニ在リト云フヲ得ヘシ。此等ノ人ヨリ借入ル農民ノ被ル不利益ハ左ノ如シ、土地是當留置猶書ナキ。謂(一)必要ナル時ニ必要ナル金額ヲ借用スル能ハス。此ニモ其株子參合の高利(二)高利ナリ。或モ田舎ニ清酒又ハ金錢又ハ市書狀を遺め商業銀行ニ至大費(三)支拂ノ方法及ヒ時期不適當ナリ。ナニ云々。實事上士地ノ產當換算又加立チ。

(一)金貸ハ自己所有ノ資本ト親戚知友等ヨリ借入レタル小額ノ資本ニ依リテ營業スルモノナルカ故ニ其手裡ニ在ル資金ハ甚タ少キヲ常トス隨テ一時ニ巨額ノ借入請求ニ遇フトキハ之ニ應スルコト能ハス又市街地ノ商業銀行ハ農民ノ如ク期限ニ到リテ屢延期ヲ乞フ者ニ對シテ多額ノ貸付ヲ爲スヲ好マス隨テ農民ハ價格甚タ多キ抵當物ヲ提供スルモ其借入請求ハ屢拒絶セラルルコトアリ。隨テ農民ハ必要ノ際ニ必要丈ノ金額ヲ借入ル能ハス。

(二)金貸ハ自己所有ノ小額ナル資本ノ利子ノミヲ受クルモノナルカ故ニ銀行ノ

如ク他人ノ資本ヲ運轉シテ利益ヲ收ムル者ニ比スレハ多少高歩ヲ得ルニアラオレハ其利得少キヲ以テ銀行ヨリ稍々高歩ヲ求ムルハ當然ノコトナレトモ彼等ノ其近隣ニ競争者少ク稍々獨占ノ地位ニ在ルヲ以テ之ヲ利用シ借主ノ窮迫セル機會ニ乘シテ極メテ高歩ナル利子ヲ求ムルコトアリ又市街地ニ在ル商業銀行ヨル觀ルトキハ農民ハ屢々支拂ノ猶豫ヲ請フ者ニシテ結局支拂ヲ誤ルコトハ少キモ支拂ノ期限ヲ守ラサルコト多シ此事タル商業銀行ノ業務ノ性質ニ反スルヲ以テ商人ニ對スル貸付例へハ手形ノ割引、當座貸越等ニ比スレハ農民ニ對スル土地抵當ノ貸付ハ危險多シト謂ハサルヲ得ス隨テ其危險ニ對スル保險料トシテ普通商人ニ對スル貸付利子ヨリ稍々高歩ニ貸付ヲ爲スノ必要アリ加之農民ノ提供スル擔保タル不動産ハ銀行カ資金ヲ他ノ銀行ヨリ借入レントスルニ際シテ再擔保トシテ之ヲ利用スル能ハス又結局農民カ支拂ヲ怠リタルトキニ之ヲ強制シテ取立ヲ爲ス場合ニハ商人ニ對スル貸付金ニ比シテ時日ト費用ヲ要スルコト多キヲ以テ益高歩ノ利子ヲ求メサルヘカラス全體ノ損失を避

(三)右ノ債權者等カ短期全額一時拂ニアラサレハ貸出ヲ爲ササル理由ハ市街地

ノ商業銀行ノ貸付タル資金ハ短期ノ後若クハ預金主ノ要求次第全額一時ニ返済スヘキモノナリ隨テ已ニ對スル借主タル農民ヨリモ短期ニ全額一時拂ニ返済ヲ求メサルヲ得サルナリ又一箇人タル金貸ハ長年月ニ亘リ元金ヲ分割シ利子ト共ニ返済セラルトキハ一團ノ資金ハ其年賦期限ノ終ニ至ラナレハ一ツ經マリタル資本金トシテ利用スルノ機會ヲ失フノミナラス年賦金全體ヲ歲入ト混同シテ消費シ丁リ終ニハ一ノ經マリタル資本ヲ失フニ至ルノ恐アリ是レ年賦返済ヲ好マスシテ全額一時拂フ求ムル所以ナリ又一箇人ハ其家計ノ都合ニ何時資金ヲ要スルコトアルヤモ計ラレサルヲ以テ餘リ長期ノ貸付ヲ爲スコトヲ好マサルナリ
以上ノ三利益ノ外ニ一箇人ノ金貸中ニハ金ヲ貸スハ唯元利ノ返済ヲ欲スルニアラスシテ社交上ニ不當ノ利益ヲ得又ハ抵當物タル土地ノ獲得ヲ目的トスル等ノコトアリテ借主ヲシテ不測ノ損害ヲ被ラシムルコトアリ
又農民ニ貸付ヲ爲シタル市街地商業銀行者ノ感スル不便左ノ如シヤノイナカヌ

(一)資金ノ回収不確實ナリ

(二)資金金融通ノ便ヲ失フ

(一)農民ハ其性質朴直ナレハ惡意ヲ以テ支拂期限ヲ誤ルモノニアラサレトモ彼等ノ歳入ハ毎年殆ド一定シ不時ノ利益ヲ得ルノ見込甚タ少キモノナルカ故ニ一旦不幸ニシテ其業務執行ニ必要ナル其所有資本ノ一部分ヲ失ヒ借用金ヲ以テ之ヲ補充シタルトキハ長年月ニ亘リテ毎年ノ出費ヲ節約シ漸次消却ノ方法ニ依ルニアラサレハ之ヲ完済シテ其必要資本ヲ全ク自己ノ有ト爲ス能ハサルナヲ又他ヨリ資本ヲ借入レテ土地改良建物ノ建設器具機械ノ買入等ヲ爲シタル場合ニ於テハ長年月ニ亘リ從來ヨリ毎年多額ノ收益ヲ得ヘシト雖モ其一年間ニ於ケル收益ノ増加額ハ借用金一年間ノ利子ヲ超ユルコト甚タ多カラサルモノナレハ一年若クハ二三年ノ收益増額ノミヲ以テ借用資本ノ元利金全額ニ達セサルヲ常トス隨テ農民ハ短期全額一時拂ニ其借用金ヲ拂フコトハ營業ノ性質三伴ハサルコトニシテ不本意ナカラ期限ニ至リテ利子ノミヲ支拂ヒ屢々延期ヲ請ハサルヲ得サルナリ隨テ農民ニ貸付タル債權者ハ豫期通りニ其資金ヲ回収スルコトヲ得シテ之カ爲スニ不測ノ損害ヲ被ルコトアリ破滅

(二) 一箇ノ農民ノ提供シタル抵當物ハ如何程價貴キ物ナルモ其農民ハ如何程正直ナリトスルモ其事柄フ熟知スル者ハ近隣ニ住居スル極メテ少數ノ人ニ止マリア廣々世人ノ認識ヲ得ナルナリ隨テ債權者ハ臨時必要ノ場合アリテ期限前ニ資金ノ回収ヲ要スルコトアルモ其借用證書ヲ賣却シテ現金ヲ得ルコトハ頗ル困難ナルノミナラス其借用證書ヲ擔保トシテ差出シ他ヨリ一時資金ヲ融通スルコトモ亦殆ト爲シ能ハサルナリ隨テ一度農民ニ貸與ヘタル資金ハ債權者ニ取りテハ其貸附期限到来スルマテハ全ク活動ヲ失フモノナリト云フヲ得ヘシ此事タル市街地ノ商業銀行ニ取りテハ頗ル不利ナルコトニシテ一箇人タル金貸ニ取りテモ亦多少不便ナルコトナリト謂ハサルヲ得ス又商業銀行カ其業務ノ性質ニ背キテ不動産ヲ抵當トシテ多額ノ資金ヲ農民ニ貸付クルコトハ頗ル危險ナルコトニシテ時トシテ一時ニ多額ノ預金取付ニ遭フトキハ之ニ應スルコト能ハシシテ或ハ破産スルニ至ルコトナシト云フヘカラス
農業信用ノ組織以上ノ如ク不整頓ナルトキハ農民ハ不幸ニシテ一度負債ヲ起ストキハ其負擔ニ堪ヘヌシテ彼等ノ據リテ生活ノ基礎ト爲ス土地ヲ離レ勤勉

ナル自作農ハ貪婪飽クナキ高利貸若クハ田舎ノ事情ヲ解セサル市街地ノ住民ノ小作人ト爲ルカ又ハ祖先墳墓ノ地ヲ去リテ浮浪ノ徒ト化シ去ルノ外ナシ此ノ如クナル時ハ啻ノ農業ノ改良發達フ阻害スルノミナラス社會組織ノ基礎ヲ危クスルモノニシテ單リ農民ナル一階級ノ利害問題ニアラナルナリ是ニ於テカ國家ハ最早傍観スヘキ時ニアラスト爲シ何レノ邦國モ自ラ機關ヲ設ケテ銀行業ヲ營ミ又ハ法令ヲ設ケテ信用機關ノ設立ヲ催シ嚴重ナル監督ト優渥ナル保證ヲ加ヘテ其業務ヲ助ケ農業信用ノ組織ヲ整理シ新ナル制度ヲ設ケ低利ニシテ且フ便利ナル金融ヲ與ヘテ高利負債ノ苦海ニ沈淪セル農民ヲ救ヒ尙ホ一步ヲ進メテ其事業ノ改良發達ヲ助タルニ至レリ
此新制度ノ萌芽ヲ發シタルハ普魯西國ニシテ有名ナル七年戰爭千七百五十六年乃至六十三年ノ爲メニ國內一般ニ疲弊シ就中國王ニ直隸スル貴族ニシテ土地ヲ所有スルモノハ戰時ノ出費ト戰亂ノ爲メニ被ワタル收益ノ減少トニ由リテ皆身分不相應ノ負債ヲ起シ其元利ノ支拂ニ苦シミ國王ニ乞フテ不法ニモ三年間利子ヲ支拂ハサルヲ得ルノ命令ヲ出サシメ其三年ノ期限滿了ノ後モ再三其命令

ア、發布セシメタリ是ニ於テカ債権者ハ期限ニ至リテ元金ノ取立嚴重ト爲リタルノミナラス新ニ貸付ケントスル者少ク彼等ノ社會ハ益、金融逼迫當時公債ノ利子五歩ナルニ拘ラス彼等ノ借用金ノ利子ハ一割乃至一割五分ニシテ甚レキニ至リテハ二割ノ高利ヲ支拂フニ非サレハ貸渡ス者ナキニ至レリ是ニ於テ彼等ハ又其救濟ヲ國王「フレデリック二世」ニ求メタリ國王ハ其求ニ應シテ西暦一千七百六十九年ベルリン府ノ商人ビューリング氏ノ考案ニ基キ勅令ヲ發布シテ強制的組合制ノ土地抵當銀行「シレジエーン州」ニ設立シ其州内ニ住スル貴族ハ新銀行ヲ利用スルノ意思アルト否トヲ問ハス強制的ニ其組合員タラシメ其責任ハ無限ニシテ且ツ組合員ハ銀行ノ許可ナク其土地ヲ賣買質入書入等ノ處分ヲ爲スコトヲ禁シ組合員ヨリ銀行ノ重役ニ選舉セラル時ハ極メテ僅少ナル報酬ヲ得テ其職ヲ盡ササルヲ得ナルモノニシテ重大ナル理由アルニ非サレハ之ヲ辭退スルコトヲ許ナス又一方ニ於テハ國王ハ此組合制ノ銀行ニ準備金ヲ下付シ且ツ銀行カ業務ヲ營ムニ付キテ法律上ノ手續ヲ爲スニ當リテ要スル各種手數料ノ特免若クハ割引ヲ許シテ此銀行ヲ保護シタリ此組合制銀行ノ媒

介ニ因リテ國王ハ其配下ノ貴族ヲシテ高利ノ舊債ヲ低利ノ新債ニ借り換フルコトヲ得セシメタリ

此組合制銀行ヲ「ランドシャфт」ト謂フ而シテ組合員カ高利舊債ヲ償還セント欲スルトキハ其所有地及ヒ舊債高ヲ組合ニ申出サシメ組合ノ重役カ其土地カ其申シ出タル金額丈ニ抵當タルニ十分ナリト認メタルトキハ銀行ハ新ニ一ノ負債證券ヲ作り申出人ノ提出シタル土地ヲ抵當トシテ申出人ヲ借主ト爲シ銀行カ自ラ保證人ト爲リ債権者ノ宛名ヲ記載セシテ申出人ニ渡スナリ申出人ハ此證書ヲ受取リテ適當ナル金主ヲ求メテ其證書ヲ賣却シテ現金ヲ收メ以テ高利ノ舊債ヲ償却セリ此方法ニ依ルトキハ此新證券ニ依ル債権ハ極メテ確實ナル検査ヲ經タル不動産ノ抵當アルノミナラス組合員ノ連帶責任ヲ以テ保證セラルルカ故ニ大ニ信用ヲ得此銀行ノ組合員ハ從前ヨリハ遙ニ低利ヲ以テ資金ヲ借入ルルコトヲ得タルノミナラス無記名證券ナルヲ以テ元ノ普通ノ借用證ト異ナリテ他人ニ轉賣スルコト稍ヤ輕便ト爲リタレトモ貸主ハ其受取ルヘキ元利金ヲ直接ニ借主ニ付キテ取立ヲサルヘカラサノ煩勞アルヲ以テ

借主ヨリ遠隔ノ地ニ在ル者ハ此證券ヲ買取ルコトヲ好マス隨テ其流通區域狭隘ナルヲ以テ先ノ普通借用證書ヲ以テスルヨリハ何分カ長期ニ貸出ス者アレトモ借主ノ望ミ通リニ十分長期ニ貸出ス者ナシ又此場合ニ於テハ貸借ノ關係ハ一箇人ト一箇人トノ直接ノ關係ナルヲ以テ年賦償還ノ法ヲ用フルコト能ハス次テ組合ハ債權者ノ便ヲ計リテ組合員ヨリ小額ナル積立金ヲ爲サシメ組合員ヨリ其負債ノ元金又バ利金ヲ一旦銀行ニ於テ取立テ置キ且ツ負債者中日限ヲ誤リタル者アルトキハ準備金ヲ以テ立替ヘ置クコトト定メ期日ニ至リテ銀行ヨリ債權者ニ元利金ヲ支拂フコトト定メタリ之ニ由リ債權者ハ大ニ便益ヲ得タルヲ以テ此負債證券流通益圓滑ト爲リタレトモ尙ホ或特定ノ不動產ハ特定ノ債權ノ抵當ナルト貸借ノ關係者ハ一箇人ト一箇人ト爲ルヲ以テ尙ホ年賦償却法ヲ用フルコト能ハス債務者ニ取リテハ尙ホ甚タ不便ナリシヲ以テ債務者ノ利益ヲ計ルヲ主タル目的ト爲ス此種ノ銀行ハ從前ノ如ク信用ノ媒介貸借ノ保證人タル地位ヲ去リテ組合員ヨリ舊債借換ノ申請アリタルトキハ銀行ハ自己ニ對シテ土地抵當信用證書ヲ差出サシメ之ヲ受取リテ自己ノ金庫中行ハ自己ニ對シテ土地抵當信用證書ヲ引當トシテ

ニ藏メ其代リトシテ銀行ハ其庫中ニ收メタル土地抵當信用證書ヲ引當トシテ銀行自ラカ債務者タル無記名證券ヲ作成シテ組合員ニ渡シタリ此事タル不動產抵當債券ノ沿革上頗ル重要ナル進歩ニシテ此方法ノ真髓ハ銀行保證ノ負債證書ヲ分割シテ銀行ノ金庫中ニ在ル借用證書ト銀行ノ債券トノ二ト爲シタルニ在リ而シテ組合員ハ銀行ノ債券ヲ受取リ之ヲ市場ニ賣却シテ現金ト爲シ依リテ以テ己ノ舊債償還シタリ其後ニ至リテハ尙ホ一層組合員ノ便ヲ計リ銀行自身カ債券ヲ市場ニ賣却シテ組合員ニハ現金ヲ渡スニ至レリ此種ノ債券ハ銀行カ組合員ヨリ受取りテ其金庫ニ藏スル土地抵當借用證書ヲ引當トシテ發行シタルモノ爲ルモ此債券所持者ノ權利ハ最早或特定ノ不動產抵當權ニ依リテ擔保セラルルモノニアラスシテ銀行ノ有スル不動產抵當附債權全體ニ依リテ擔保セラルルモノナリ是ニ至リテ始メテ實際ノ金主即チ債券所持者ト土地抵當權トノ直接ノ關係ヲ止メ其間ニ信用確固タル銀行介立シタルヲ以テ組合員ノ一口ノ借入申請金額ノ如何ニ拘ラス債券一枚ノ金額ヲ随意ニ止ムルコトヲ得セシメタルノミナラス金主ヲシテ資金ヲ放下スルカ爲メニ要スル手數ヲ

當略スルヨトヲ得セシメタリ加之此組合制銀行ハ其制度頗ル確實ニシテ設立以來飢餓若クハ戰亂ノ場合ニ於テモ支拂ヲ怠リタルコトナキヲ以テ非常ノ信用ヲ博シ且ツ債券ノ流通益圓滑ト爲リ其額面金額モ一定シ爲メニ資本主カ資本ヲ安全ニ放下スルニ最良ノ手段ト爲リタルヲ以テ債券ヲ引受ケ又ハ買入レント欲スル者ハ最早其償還時期等ニ重キヲ置カナルニ至レリ是レ債券所持者ハ其所有ノ間ハ一定ノ利子ヲ受取リ元金ヲ要スルトキハ何時ニテモ市場ニ賣却シテ之ヲ求ムルコトヲ得ルヲ以テ不時ノ必要ニ備フル爲メニ短期一時拂ノモノヲ求ムル必要ナキニ至リタルヲ以テナリ是ニ至リテ銀行ハ長期償還ノ債券ヲ發行スルヲ得ルニ至レリ而シテ又其債券ハ流通證券ト爲リタルノミナラス一銀行ノ發行シタル總高モ甚タ多々銀行ヨリ貸付ケタル金高モ之ト同シク多額ト爲リタルヲ以テ借主ヨリハ年賦ノ方法ニ依リテ年年利子ト共ニ元金ノ一部分ヲ受取り其利子ハ金額ニ應シテ債券所持者全體ニ支拂ヒ各借主ヨリ受取リタル少額ノ減債元金ヲ集メテ其金額ニ相當スル銀行ノ債券ヲ消却スルコトト爲シタルヲ以テ借主ニハ年賦償還ヲ許シ債券所持者ニハ全額ヲ一時ニ支拂ヒ

タリ是ニ至リテ債券ハ殆ト其完全ナル發達ヲ爲シタルモノニシテ借主及ヒ金主雙方ニ十分ナル満足ヲ與フルコトヲ得ルナリ

此發達シタル債券ノ動ニ由リテ始メテ營ムコトヲ得ル長期年賦ノ貸付ノ方法ハ農業者ニ取リテ顛ル便利ナル方法ニシテ獨リ舊債償還ノミナラス新事業費ヲ借入ルルニ付テモ顛ル便利ナルカ故ニ遂ニ此種組合制銀行ハ新事業費ニ對シテモ貸出ノ門戸ヲ開キタリ然リト雖モ貴族外ノ土地所有者モ此便益ヲ得シコトヲ望ミタルヲ以テ彼等モ亦舊來ノ貴族組合銀行タル「ランドシャフト」ニ加入ヲ乞ヒ又ハ新ニ彼等ノミニテ獨立ノ「ランドシャフト」ヲ設立シタリ此ノ如クニシテ「ランドシャフト」ノ基礎次第ニ鞏固ト爲ルニ隨ヒ工業者モ亦不動產ヲ有シ長期ノ資金ヲ要スルコト農業ニ類スルヲ以テ幾分カ工業者ヲモ加入セシムルコトヲ得セシメ土地抵當銀行タル「ランドシャフト」ハ一轉シテ不動產抵當銀行ト爲リタリ又從來「ランドシャフト」ハ無限責任組合ナルヲ以テ其制度ノ普及困難ナリシカ途ニ法ヲ寛ニシ有限責任ノ「ランドシャフト」ヲ設立スルヨトヲ免許セリ然リト雖モ「ランドシャフト」ノ貸付ハ組合員ニ限ルカ故ニ廣ク組合外ノ者

ニ恩恵ヲ施スコト能ハサルヲ以テ千八百六十年頃ヨリ資本家相集リテ佛國ノ制ニ倣フテ營利ノ爲メニ株式組織ノ銀行ヲ設立シ其中央政府ノ特許ヲ得タル者ハ債券ヲ發行シテ「ランドシャフト」ト相併ヒテ長期年賦ノ貸付ヲ爲シ又一方ニ於テハ「ランドシャフト」ハ其營業區域一州内ニ限ラルルヲ以テ其組織小ナルト地方ニ偏在スルトニ由リテ其地方ニ信用アルニ拘ラス其債券ハ中央市場ニ於テ十分ナル信用ヲ得ルコト能ハサリシカ故ニ千八百七十三年普魯西内ノ九箇ノ「ランドシャフト」ハ相聯合シテ中央「ランドシャフト」ヲ柏林府ニ設立シ各州ノ「ランドシャフト」ニ代リテ中央市場ニ於テ極メテ低利ニ債券ヲ發行シテ資金ヲ集メ之ヲ各「ランドシャフト」ニ配分スルノ方法ヲ取ルニ至レリ一千八百八十年ニ至リテハ魯西國全體ニ於テ「ランドシャフト」二十八箇株式銀行三十五箇アリテ共ニ長期年賦貸付ヲ爲シ主トシテ農業者ノ金融ノ便ヲ計レリ佛國ニ於テモ亦農業信用組織整理ノ問題ハ重大ナル國家問題ナリシカ千八百三十五年佛國ノ大家オロスキ一氏ノ獨逸ノ不動産信用制度ニ關スル著書出版セラレ千八百四十五年ニハ政府ヨリ獨逸國へ調査ノ爲メ特ニ派遣セラレタノロエエ

ル氏ノ報告書公ニセラレ其後引續キテ一私人農會、政府特別調査會議會等ニ於テ長年月間論究ノ結果トシテ一千八百五十二年二月二十八日土地抵當銀行保謹法發布セラレタリ此法律ニ基キテ巴里馬耳塞「オバ」ニ相應キテ土地抵當銀行設立セラレタレトモ幾モナク合併シテ佛國土地抵當銀行（Crédit Foncier de France）ト爲リ二十五年間ノ專業權ヲ付與セラレタルノミナラス政府ハ此銀行ニ四十萬磅ノ準備金ヲ下付シ又自ラ此銀行ヨリ發行スル債券ヲ買入レ又府縣ヲシテ債券ノ買入ヲ爲サシメ幼者ノ財產管理者ニ財產保護ノ方法トシテ債券ノ買入ヲ爲スコトヲ許可シテ此銀行ノ信用スヘキモノナルコトヲ世間に紹介シ内務大藏農商務省ハ皆自ラ直接ニ此銀行ノ事務ヲ監督シ印紙稅登錄稅ノ輕減、登記及ヒ訴訟手續ニ關シテ特別ノ便益ヲ與ヘテ此銀行ヲ保護セリ此ノ如ク優渥ナル保護アリタルト銀行ノ當局者カ極メテ慎重ニ業務ヲ執行シタルトノ結果トシテ一千八百五十四年ニハ此銀行ハ基礎略ホ定マリタルヲ以テ日常ノ業務ヲ處理スルニ付テ一一内務農商務大藏三省ノ監督ヲ受ケシムルコトヲ免シ之ニ換フルニ政府ハ此銀行ノ業務執行ノ責ニ任スル總裁副總裁ヲ任命

シ又二十三人ノ理事中三人ハ必ス大藏省高等官中ヨリ選任セシムルコトトシテ業務ヲ敏活ニ處置スルコトヲ得セシメタリ又一千八百六十年ニハ抵當ヲ徵セスシヲ府縣市町村農業組合ニ貸金ヲ爲スコトヲ許シタリ此ノ如ク政府ノ監督保護及ヒ當局者ノ處置其當ヲ得タルカ爲ミニ設立後盛ニ割増金附債券ヲ發行シテ長期年期貸付ヲ爲シテ農業者其他ノ土地所有者ノ便益ヲ計リ其業務大ニ繁榮シ一千八百七十年一千八百七十一年ハ普佛戰爭ノ後ヲ承ケ此國一般ニ金融社會困難シタレトモ此銀行ハ少シモ影響ヲ受ケス三分利附政府ノ百フラン公債ハ一時五十五フランニ抵落シタレトモ佛國土地抵當銀行ノ三分利ト八厘ノ割增金附ナル債券ハ九十八フランノ價格ヲ保ナテ其後經濟社會ノ回復ト共ニ此銀行ノ債券ハ常ニ額而以上ニテ賣買セラルコトト爲リタリ而シテ此銀行ノだ業區域ハ其初ヨリ佛國全體ニ亘ルモノナルニ拘ラス本店ノミニテ業務ヲ執行シタル結果トシテ此銀行ノ恩澤ヲ被ルモノハ其所在地タル巴里若クハ其近隣ニ限ラレタルノ憾アリシカ一千八百七十九年ニハ各縣(Department)ニ各一箇總計七十三箇所ノ出張所ヲ設ケテ僻陬ノ人モ容易ニ此銀行ト取引スル

コトヲ得セシメタリ又一千八百八十年ニハ此銀行ノ保護ノ下ニ佛國及ヒアルニアヤ土地銀行(The compagnie Fonciere of France de Algerie)ヲ設ケテ土地改良等ノ事業ニ放資セシメ其結果トシテ生シタル改良シタル土地其他ノ工作物ハ皆所有主ノ請求ニ因リ貸金ノ抵當トシテ佛國土地抵當銀行ニ於テ微スルコトト爲シタルヲ以テ佛國土地抵當銀行ハ單ニ土地抵當銀行タル動ノ外ニ間接ニ土地改良銀行タルノ動ヲ爲スコトト爲リ其營業益繁榮スルト同時ニ此銀行ハ農業者及ヒ其他ノ土地所有者ニ對シテ益重要ナル金融機關ト爲リタリ而シテ一千八百九十年ニ於ケル此銀行ノ營業成績表ニ據レハ其資本六八二〇〇〇〇磅配當歩合一割二步通常準備金六八五〇〇〇磅特別準備金五四四〇〇〇磅十二月現在ノ貸金ハ土地抵當貸付金大約八〇〇〇〇〇磅公共團體貸付金四六五四〇〇〇〇磅ナリ抑モ此銀行ハ其當初佛國人民ノ思想慣習ニ適セサルノミナラス佛國ノ如キ土地區劃狹小ニシテ小農多キ所ニ獨逸ノ大農地ニ行ハルル制度ヲ移植セントスルハ大ナル誤認ナリ又土地抵當貸付ノ如キ地方的ノ智識勢力ヲ要スル事業ヲ一ノ中央銀行ニ依リ行ハントスルハ不條理ナリトノ非

難アリタルニ拘ラス年賦償却法ト土地抵當債券トノ大原則ハ著好結果ヲ收メ此銀行ノ業務益繁榮シタルヲ以テ露國、塊國、以太利等ノ諸國續佛國抵當銀行ノ組織ニ倣フテ土地抵當銀行ヲ設立シタリ又佛國ニ模範ヲ與ヘタル獨逸國ニ於テモ佛國ノ制ニ倣フテ株式組織ノ土地抵當銀行ヲ設立シテ「ランドシャフト」ノ恩澤ヲ被ル能ハサルモノノ便益ヲ計ルニ至レリ我國ニ於テモ主トシテ此佛國土地抵當銀行ノ制度ニ則リ明治三十年以來日本勸業銀行、農工銀行ヲ設立セリ然レトモ我國ニ於テハ各府縣ニ中央銀行ノ出張所ヲ設クルノ制度ヲ取ラシテ中央ノ勸業銀行ト相離レテ一箇獨立ノ株式會社タル農工銀行ヲ設立シ唯運轉資金ヲ得ルコトニ付テノミ勸業銀行ヲシテ各府縣ノ農工銀行ノ發行スル農工債券ヲ引受ケ之ニ依リテ農工銀行ノ勤ラ助ケシムルノ仕組ト爲シタリ此ノ如ク佛國ノ出張所組織ヲ採ラスシテ各府縣ニ獨立ノ農工銀行ヲ設立シタルハ佛國ノ制度ニ依ルトキハ出張所ノ監督困難ナルト其事務ノ執行上ニ本店所在地ニ厚クシテ僻険ノ地ヲ疎ニスルノ弊ヲ生シ易キト一出張所ノ失敗カ直チニ中央銀行ノ信用ニ影響ヲ及ボスノ恐アルト及ヒ地方的ノ智識勢力ヲ利用

スルニ不便ナル等ノ不利ヲ避ケ之ト同時ニ獨逸ノ中央「ランドシャフト」カ地方僻在ノ「ランドシャフト」ノ爲メニ低利ノ資金ヲ得セシムルカ如ク勸業銀行ヲシテ各府縣ノ農工債券ヲ發行スル農工債券ヲ引受ケシメテ地方ノ農工銀行ニ資金吸收ノ便ヲ缺カシメサルノ策ヲ取レリ此新組織ノ土地抵當銀行ハ農民其他ノ土地所有者ニ貸金ヲ爲スニ適スル制度ニシテ舊時ノ一箇人若クハ商業銀行ト農民其他ノ土地所有者トノ間ニ資金ヲ貸借スルニ比スレハ金主銀行及ヒ負債者共ニ其便益甚タ多シ今其二三ヲ舉クレハ左ノ如シ

- (一) 金主ノ利益
 - (1) 資本放下ノ方法安全ニシテ簡便ナリ 土地抵當銀行ハ貸付金額ノ殆ト二倍ノ價格アル抵當ヲ以テ擔保セラレタル債權ノ外自己ノ拂込資本金準備金ヲ引當トシテ土地抵當債券ヲ發行スルモノナルカ故ニ其債券ハ頗ル確實ナリモト云フヲ得ヘシ而シテ金主カ其資本ヲ放下セントスルニ當リテハ唯此債券ノ募集ニ應スルカ又ハ市場ニ於テ債券ヲ買入ルルヲ以テ足ルカ故ニ自ラ負債者ノ資力抵當地ノ價格ヲ評定シテ後其所有資本ヲ貸出スニ比スレ

ハ其手續頗ル簡易ナリト云フヘキナリ

(2)資金ノ運轉自由ナリ 一度農民ニ資金ヲ貸付タルトキハ永ク返済ヲ求ム
ルコト能ハス其貸金證券ヲ賣却シテ元本ヲ收回ムルコトハ頗ル困難ナリト雖
モ土地抵當銀行ノ發行シタル債券ハ何時ニテモ株式市場ニ於テ賣却シテ現
金ト爲スヘク又之ヲ擔保トシテ差入レ他人ヨリ一時資金ノ融通ノ得ルコト
モ頗ル容易ナリ

(二) 土地抵當債券ヲ發行スル銀行ノ利益

債券ヲ發行シテ長期年賦貸付ヲ爲スハ商業銀行カ農業者若クハ其他ノ土地
所有者ニ貸金ヲ爲スニ比スレハ左ノ如キ利益アリ

(1)遊金ヲ要セス 銀行ハ貸出ノ見込ナキトキハ新ニ債券ノ發行ヲ爲サヌ又
債務者ヨリ減債元金ヲ受取り或ハ期限前ニ貸却ヲ受タルトキハ直チニ新ナ
ル貸付請求者ニ貸付タルカ然ラサレハ返済セラレタル元金ト同額ノ債券ヲ
償却シ決シテ長ク現金ヲ手許ニ置キテ利子ヲ損ヌルコトナシ

(2)取急キテ不確實ナル貸付ヲ爲スコトヲ要セス 土地抵當銀行ハ債券發行

ノ時ニ限リテ世間ヨリ資金ヲ吸收スルモノニシテ普通ノ商業銀行ノ如ク常
ニ店舗ヲ開キテ遊金ヲ受タルコトナシ隨テ資金ノ需要少キ時ニ多額ノ預金
ヲ提供セラレ遊金ヲ抱キテ利子ヲ損ヌルカ如キ恐ナキカ故ニ資金ノ用途性
質抵當價格借主ノ人格ニ關スル調査ヲ疎略ニシ取急キテ貸付ヲ爲スカ如キ
必要ヲ生スルコトナク常ニ慎重ノ調査ヲ爲シ深ク將來ヲ慮リ靜ニ最確固ナ
ル貸付ヲ爲スコトヲ得ヘシ

(3)安全ニシテ費用少シ 土地抵當銀行ハ土地抵當トシテ微スルニ當リナハ其
土地ノ收益賣價格ヲ基礎トシテ嚴密ナル審査ヲ爲シ既往ノ事實ヨリ將來
ノ變化ヲモ推考シテ貸付年限中如何ニ低落スルモ之ヨリ低落スルコトハ萬
ナカルヘント認ムル點ヲ以テ其土地ノ評定價格ノ二分ノ一若
クハ國ニ依リテ三分ノ二以内ヲ貸付タルモノナルカ故ニ此種ノ貸付金ハ時
價ノ變動甚シキ商品株式等ヲ抵當トシ貸付ヲ爲シ若クハ引當ナキ手形ノ割引
等ニ比スレハ頗ル安全ナリト謂フコトヲ得ヘシ加之年賦貸付金ハ年期毎ニ
元金ヲ減却スルモノナルカ故ニ抵當物ノ價格ノ元金額ニ對スル割合ハ次第

ニ増加スルナリ又不動産モ時ノ事情ニ依リテ價格ノ抵落スルコトアルヲ以テ銀行モ其場合ニハ元金ノ一部償還ヲ請求シ又増抵當ノ差入ヲ要求シテ貸付金ト抵當地ノ評定價格トノ割合ヲ維持スルコトヲ必要トスル場合ナキニアラスト雖モ土地ハ長年月ニ亘リテ次第ニ其價格騰貴スルモノナルカ故ニ長期貸付ノ抵當トシテ最モ安全ナルモノト謂フヘシ又長期年賦償還法ニ依ルトキヘ農民ハ其收入ヲ以テ年賦金ノ支拂ニ充ツルコトヲ得ルカ故ニ一時全額拂ニ比スレハ其債務ノ辨済ノ期ヲ誤ルコト少シ是レ土地抵當銀行ノ貸出ハ安全ナリト謂フコトヲ得ル所以ナリ又費用少シト云フハ當初貸付ノ際ニハ土地ノ評價登記手續等ノ繁雜ナル手數ト費用トヲ要スレトモ一口ノ貸付金稍多額ナルト一度貸付ケ置クトキハ長年月ノ間再ヒ貸付ノ手數ヲ要セス例ヘハ佛國土地抵當銀行ノ如キハ一千八百九十年十二月末現在土地抵當貸付金八〇〇〇〇〇〇〇磅即チ略二十四分ノニ當ル見レハ巨額ノ貸金ヲ爲シ居ル割合ニハ一箇年ニ貸付ノ手數ヲ要スル額少ク隨テ貸付ノ費用少キコトヲ知ルヘ

シ又資金ヲ吸收スル方ヨリ言フモ隨時隨意ノ金額ヲ預ルニ比スレハ一時ニ債券發行ニ依リ資金ヲ集ムル方費用ヲ要スルコト少シ

(三)負債者ノ利益

人土地抵當銀行ノ負債者ニ與フル利益ハ彼等カ嘗テ一箇人タル金貸若クハ商業銀行ノ外金融ヲ得ルノ途ナカリシ時ニ感シタル不便ヲ除去シタルニ在リ

(一三〇頁参照)

(1)資金ノ借入自由ナリ 土地抵當銀行ハ其營業法確實ニシテ取引ノ範圍廣キカ故ニ必要ニ應シテ公衆ヨリ十分ニ資金ヲ吸收スルコトヲ得ヘク且ツ何時ニテモ借入ノ請求ニ應センカ爲メニ常ニ多少ノ資金ヲ備ヘ置クカ故ニ農業者ハ相當ノ抵當ヲ提供スルトキハ何時ニテモ其欲スル丈ノ資金ヲ借入ルコトヲ得ヘシ

(2)利子低廉ナリ 土地抵當銀行ハ一方ニ於テハ債券ノ發行ニ由リテ低利ノ資金ヲ社會公衆ヨリ吸收スルコトヲ得ヘク他方ニ於テハ貸付方法借主ノ業務ノ狀態ニ適合スルカ爲メニ元利ノ取立ヲ誤リ損失ヲ受クルコト少キカ故

三 借主ヨリ高利ヲ求ムル必要ナキヲ以テ個人ノ金貸又ハ商業銀行ニ比スレ
ハ農業者ニ對シテ低利ニ貸付ヲ爲スヲ得ルナリ
(3) 運賃ノ方法適當ナリ 土地抵當銀行ハ長期年賦ノ貸付及ヒ短期定期ノ貸
付ヲ爲スカ故ニ借主ハ其資金ノ用途ニ從ヒ其好ム所ノ返済方法ヲ以テ資金
ヲ借入ルルコトヲ得ヘシ

第二項 農業銀行ノ功績

農業者ニ便利ナル金融ヲ與ヘンカ爲メニ計畫セラレタル土地抵當銀行ハ瑞西
國ヲ除キ其他ノ歐洲諸國ニ於テハ其恩惠ハ獨リ中產以上ノ者ノミニ限ラレ
農ニ及ハス 其理由ハ小農ハ抵當トシテ差出スヘキ土地ヲ有スルコト少キト
入金額少キモ抵當地ノ價格ノ評定登記其他ノ借入手續ヲ爲スニ要スル手數料
費用ハ其割合ニ少カラナルカ故ニ此種ノ銀行ヨリ資金ヲ借入ルルコトハ彼等
(二) 取リラハ却テ不便不利ナルカ故ナリ

第二款 工業銀行

工業銀行ハ近世ニ至リテ述ニ勃興シタル工業的大企業就中株式會社ニ依リア
營マルモノニ要スル基本的資本ヲ企業者ニ供給スルコトヲ以テ主タル目的
ト爲ス所ノ銀行ヲ謂フ今茲ニ此種ノ銀行ノ一適例ナル佛國動産銀行ノ營ミタ
ル業務ヲ述フヘシ此銀行ハ未成會社ノ株式既設會社ノ增株若クハ社債ノ募集
ニ應シ或ハ其募集ニ助力シテ直接ニ工業會社ニ資金ヲ得センメ或ハ工業會社
ノ株券社債券ヲ擔保トシテ金錢ヲ貸付ケテ間接ニ此等ノ會社ノ成立及ヒ發達
ヲ助ケ又時トシテハ公債ノ募集ニ應シ有價證券ノ賣買交換ヲ爲シ關係アル會
社ノ爲メニ相當ノ手數料ヲ納メテ其社ノ株券債券ノ番號ノ證明名義書換利札
若クハ元金ノ拂戻及ヒ計算事實等ヲ執行シタリ而シテ此等ノ業務ヲ爲スニ必
要ナル資金ハ自己ノ資本債券ノ發行其所有ニ歸シタル有價證券ノ賣却若クハ
之ヲ擔保トスル借入等ニ因リ得タル資金及ヒ預金等ヨリ得タルモノナリ
此種ノ銀行ハ債務ノ發行ニ由リテ比較的ニ效益少キ零碎ノ資金ヲ集メア大資

本ト爲シ鐵道、運河、鐵山等ノ大企業ノ設立及ヒ擴張ヲ援助スルカ故ニ其運用宣キヲ得ルトキハ社會ニ對スル效用甚タ大ナルモノナリ然レトモ銀行ノ當局者ハ勸モスレハ銀行ノ利益ヲ大ナラシムルヲ以テ唯一ノ目的ト爲シ一旦引受ケタル有價證券ハ速ニ拂込價格以上ニ賣却シテ其資金ヲ更ニ新ナル企業ニ放下シ資本ノ運轉迅速ニシテ利益ヲ得ルコト益多キヲ喜ヒ銀行ノ關與スル事業ノ確否ヲ問ハサルニ至ルコトアリ又一旦關與シタル會社ノ事業危險ニ瀕スルトキハ速ニ其會社ノ株券ヲ情ヲ知ラサル者ニ賣却シ甚シキニ至リテハ利益ノ少キ會社ノ事業ヲ殊更ニ利益多キカ如クニ裝ヒ其株券ノ騰貴シタルニ乘シテ之ヲ賣リ抜キテ公衆ヲ害シタルカ如キ類例甚タ乏シカラス

第三款 商業銀行

商業銀行トハ商人ニ對シテ運轉資金ヲ供給シ之カ爲メニ預金出納ノ事務ヲ處理スルコト等ノ業務ヲ爲ス所ノ銀行ニシテ外部ヨリ資金ヲ得ル形式ノ異ナルニ從ヒ之ヲ分チテ通常預金銀行、銀行券發行銀行ノ二トス

第一項 預金銀行

預金銀行トハ主トシテ預金ニ因リテ得タル資金ヲ以テ割引貸付有價證券ノ買入等ノ業務ヲ爲ス所ノ銀行ヲ謂フ今茲ニ此等ノ業務ノ如何ナルモノナルヤア略説スヘシ

預金自己ノ資本ノミヲ貸付クルモノハ金貸ニシテ銀行ニアラス銀行ハ自己ノ資本ノ外廣ク外部ヨリ資金ヲ借入レテ再ヒ之ヲ貸出し其間ニ立チテ利益ヲ收ムルモノナリ然レトモ此銀行ノ借入レント欲スル資金ハ政府、地方團體、工業會社等ノ發行スル長期ノ公債、社債券等ノ募集ニ應スルカ如キ稍高歩ノ利子ヲ得シコトヲ望ム種類ノモノニアラス目下其用途定マラス何事ヲモ爲ナス何物ヲモ生産セス其用途ノ決スルマテ持主ノ財產又ハ金庫ノ裡ニ貨幣ノ形ヲ以テ貯藏セラレテ存在スヘキ運命ヲ有スル所ノ流動資本ナリ此形ヲ以テ存在スル資本ハ何レノ國ニ於テモ甚タ多額ナルモノナリ此銀行ハ此種ノ資金ヲ吸收センカ爲メニ公衆ニ向ヒテ曰ク諸君ハ入用ノ生スルマテ其貨幣ヲ予ニ預ケヨ予

ハ諸君ノ爲メニ之ヲ安全ニ保管シ要求次第返却スヘク且ツ預ソタル期間ニ對ジテ相當ノ利子ヲ仕拂フヘシ是レ諸君ノ爲メニ大ナル利益ニアラスヤ諸君若シ其貨幣ヲ各自ノ手裡ニ藏セハ何等ノ利益ヲ生セサルノミナラス之ヲ保管スルノ煩勞ヲ免レサルヘシ諸君若シ其貨幣ヲ予ニ預ケ入レナハ予ハ諸君ノ爲メニ指圖ニ從ヒ諸君ニ代リテ諸君ノ債權者ニ仕拂フ爲シ諸君ノ債務者ヨリ金錢ヲ受取ルヘシ是レ諸君ノ爲メニ大ナル便利ニアラスヤト此言ニシテ公衆ノ理解スル所ト爲リ且ツ此銀行ニシテ確實ナルトキハ甚タ容易ナル條件ヲ以テ巨額ノ資金ヲ吸收スルコトヲ得ヘシ而シテ此種ノ預金ヲ稱シテ當座預金ト謂フ銀行ハ尙ホ此外ニ一定ノ期日ニ拂戻ヲ爲スノ約束ヲ以テ稍高歩ノ利子ヲ支拂ヒテ預金ヲ爲スコトアリ之ヲ定期預金ト謂フ又當座預金ニシテ之ヲ引出サントスルニハ預主ヨリ豫メ一定ノ期日前ニ豫告ヲ爲スベキコトヲ約スルコトアリ之ヲ通知預金ト謂フ

割引 割引トハ取引ノ當日ヨリ仕拂ノ期日マテノ利子ヲ證券面ノ金額ヨリ引去リタル價格ヲ以テ未タ仕拂期日ノ到來セサル證券ヲ買取ルコトヲ謂フ定期

預金ハ支拂期日ノ到來スルマテ拂戻ノ要求ヲ受クルコトナキカ故ニ其間他ニ貸出スコトヲ得ルハ論ヲ俟タヌ又要求次第返済スヘキ當座預金ト雖モ通常全額一時ニ拂戻ノ要求ニ遇フモノニアラス隨テ銀行ハ常ニ其全部ヲ其金庫中に貯蔵スルコトナク唯其一小部分ヲ準備トシテ備へ置クトキハ通常日日ノ拂戻ノ要求ニ應スルニ十分ナルカ故ニ其餘ノ資金ハ一時他ニ貸出シテ利積ヲ計ルモノナリ然レトモ實際ニ現ハル預金引出ノ分量ハ預金者ノ都合ニ因リ又ハ預リ主タル銀行ノ信用如何ニ因リテ常ニ變動ヲ免レサルカ故ニ當座預金ニ因リテ得タル資金ヲ以テ餘リ長期ノ貸付ヲ爲ストキハ一旦多額ノ預金引出ニ遇ヒタルトキ之ヲ如何トモスル能ハサルニ至ルノ處アルカ故ニ力メテ短期ノ貸付ヲ爲ササルヘカラス而シテ最モ好ク此目的ニ適スルモノハ手形ノ割引ナリ今其一例ヲ舉ケテ之ヲ説明スレハ商人間ニハ屢々商品ヲ「延」ニテ賣買スルコトアリ此時ニ當リテ賣主カ品物ノ代金ヲ受取ルヘキ期限前ニ現金ノ必要アルトキハ買主ヨリ品物代金ニ當ル約束手形ヲ受取り之ヲ銀行ニ持參シテ現金ノ融通ヲ乞フコトアリ其時銀行ハ其手形ヲ額面ノ金額ヨリ支拂期日マテノ利子ヲ引

去リタル額ニ相當スル價格ヲ以テ買取ルコトアリ之ヲ手形ノ割引ト謂フ銀行ハ手形ヲ買取りテ賣主ノ債權ヲ譲受ケ期日ニ至リ直接ニ手形ノ發行人ヨリ手形面ノ金額ヲ受取リ割引ノ際ニ支出シタル資本ノ元利ヲ回収スルコトアリ又ハ手形期日ノ到来ヲ待クシテ其手形ヲ他人ニ賣却スルコトアリ

貸付 貸付トハ通常動産ヲ擔保トシテ爲ス所ノ貸金ヲ謂フ而シテ擔保品ハ有價證券、貴金屬、商品等ニシテ容易ニ其價格ノ減盡若クハ減少セサル物ニシテ銀行又ハ倉庫業者ニ於テ保管スルコト餘り困難ナラサル物ニ限ル此種ノ貸付モ亦短期ニシテ六箇月以内ナルヲ通常トス又貸付ノ金額ハ契約ノ期間中擔保品カ或ハ其マテ下落スルコトアルヘシトノ豫定價格ヲ超過スヘカラサルモノトス貸付ハ擔保品ノ持主ニ賣却スルコトヲ好マサル貨物ノ價格ヲ一時利用スルコトヲ得セシメ又ハ結局賣却セント欲スル貨物ヲ適當ナリト思考スル時期ニ賣却スルノ機會ヲ得セシムルモノナリ又此銀行ハ當座預金ヲ爲シ居ル人ニ對シテ通常相當ノ抵當ヲ徵シテ一定ノ金額マテ貸付ノ豫約ヲ爲シ其範圍ニ於テハ尙ホ預金ノ殘高アルトキハ同様ニ隨意ニ資金ヲ引出スコトヲ許スコトアリ

リ之ヲ當座貸越約定ト謂フ右ノ外此銀行ハ有價證券ノ買入送金、地金金銀ノ賣買等ノ業ヲ營ムモノナリ

第二項 紙幣發行銀行

紙幣發行銀行トハ銀行紙幣發行ノ特權ヲ有スル銀行ヲ謂フ

銀行紙幣ハ呈示期間ノ制限ナク一覽次第持參人へ手形面ノ金額ヲ支拂フヘキ約束手形ニシテ通常經リタル金額(本位貨又ハ其倍數)ニ對シテ發行セラルモノナリ銀行紙幣ハ法律ノ規定ニ依リ第三者間(發行者以外ノ者相互ノ間)ニ法律上ノ支拂手段法(貨タル性質ヲ具フルコトアリ然レトモ發行者自身ヨリ相手方ニ對シテハ強制的ニ支拂手段トシテ使用シ得ナルヲ通常トス日本銀行、佛蘭西銀行千八百三十四年以來ノ英蘭銀行ノ銀行紙幣ハ第三者間にハ強制流通ノ性質アリ有スレトモ銀行ヨリ其相手方ニ對シテハ此性質ヲ有セサルナリ

註 發行者自身ヨリ相手方ニ對シテ法貨タル性質ヲ有スルト否トハ銀行紙幣ト固有ノ紙幣(不換紙幣)トヲ區別スルノ要點ナリ

銀行紙幣ノ發達 昔時兩替商、金匠等ハ貯藏ノ爲メニ金銀貨幣ノ寄託ヲ受ケタルトキ受託ノ證書トシテ預金證券ヲ預ケ主ニ與ヘタルコトアリ而シテ此金銀貨幣ノ預リ主即チ預金證券發行者ハ貨幣ノ受託者ナルカ故ニ常ニ其發行シタル預金證券全體ニ對スル金額ヲ手許ニ貯藏スルノ義務ヲ負擔シタルモノナリ而シテ預金者ハ其後自己ノ債務ノ辨済等ノ爲メニ貨幣ノ必要アルトキハ證券ヲ呈示シテ預リ主ヨリ貨幣ヲ受取り之ヲ以テ支拂ヲ爲シタルモノナリ然ルニ支拂ヲ受ケタル者モ目下貨幣ノ必要ナキトキハ通常手許ニ置カスシテ他人ニ預ケ入レタルモノナリ夫故ニ預金證券發行者ニシテ信用アリ且フ世間ニ著名ナル者ナルトキハ預金證券受取人ハ一旦正金ヲ取付ケ之ヲ以テ支拂ヲ爲スカ如キ繁雜ナル手數ヲ省キ預金證券ヲ與ヘテ自己ノ預リ主ニ對スル權利ヲ相手ニ移シ正金ノ仕拂ニ代フルコトヲ得タリ此ノ如クニシテ預金證券ハ支拂ノ手段トシテ貨幣ノ代リニ流通スルニ至レリ而シテ此預金證券カ支拂ノ手段トシテ利用セラルコト益盛ンナレハ正金引換ノ爲メニ發行者ニ呈示セラルコト益少キモノナリ體テ此證券ノ發行者ハ其發行額ノ一部分ニ對スル實

幣ヲ準備シ置クトキハ能ク日當ノ引替請求ニ應スルコトヲ得ルカ故ニ證券發行者ハ其發行額全體ニ對スル貨幣ヲ貯藏ニ置クノ義務アルニ拘ラス實際上全額ヲ貯藏セス貨幣ノ一部分ヲ他ニ流用スルニ至レリ然レトモ其方法宜キヲ得ルトキハ引換義務ヲ盡スノ妨トナラナルカ故ニ終ニ證券受取人及ヒ政府ノ許諾ヲ得テ貨幣引替ノ義務ヲ怠ラサル以上ハ必スシモ其發行額ノ全體ニ對スル正金ヲ手許ニ備ヘ置クコトヲ要セサルニ至レリ此ニ於テ預金證券ハ貨幣受託ノ證券タル性質ヲ失ヒ銀行紙幣即チ持參人ノ要求次第貨幣ヲ即時ニ支拂フヘシトノ約束手形ト變シタルモノナリ然レトモ此ノ如クニシテ發達シタル銀行紙幣ノ發行ニ對シテ相當ノ制限ヲ加ヘサルトキハ種種ノ弊害ヲ惹起スカ故ニ近時ノ文明諸國ニ於テハ唯リ特許ヲ與ヘタル銀行ニモ其發行ヲ許シ其發行額及ヒ準備等ニ付テモ嚴重ニ法律ヲ以テ之ヲ規定セリ

第七章 手形交換所

合銀行ニ對スル辨済期限ノ到達シタル各種ノ手形ヲ交換シ出來ル丈ハ相殺ニ依リ唯殘高ノミヲ他ノ方法ニ依リテ相互ノ債權債務ノ關係ヲ決済センカ爲メニ組合銀行ノ代理者カ定期ニ集會スル制度若クハ處ヲ謂フ

註 他ノ方法トハ交換殘高ヲ正金ヲ以テ決済スルカ又ハ組合銀行ハ交換殘高整理ノ爲メニ皆豫メ一箇ノ銀行ト取引ノ關係ヲ結ヒ置キ甲組合銀行ノ乙組合銀行ニ對スル貸借ヲ甲銀行ノ整理銀行ニ對スル預金若シクハ借金トシ乙銀行ノ整理銀行ニ對スル借金若クハ預金トシテ組合銀行相互ノ債權債務ヘノ關係ヲ解クア如キ方法ヲ謂フナリ其人々要來夫當實體之問題を支給する此手形交換所ノ制度ハ一地方ニ於ケル銀行業者カ散在シタル多數ノ獨立ナル銀行ヨリ成ル場合ニ存在スル缺點ヲ補充スルモノナリ

第三編 貨財分配論

第一章 分配ト所得

抑モ生産ヲ舉クルニハ原料ヲ費シ又器具機械建物其他ノ固定資本ヲ損セザル

ヘカラス此等ノ費用ヲ生産ノ結果タル生産物ヨリ引き去リ餘ス所ハ即チ生産ニ因リテ新ニ作リ出サレタル部分ナリ此部分ハ生産ニ與レル者ノ間ニ分配セラレサルヘカラス貨財ノ分配トハ即チ此謂ナリ今夫レ方今ノ社會ニ於テハ企業者カ自己ノ計算ニ於テ生産ノ三要素ヲ結合管理シ以テ生産ヲ營ムヲ常態トスルコト前ニ述ヘタルカ如シ是ニ於テカ生産ニ因リテ新ニ生シタル部分ハ先ツ以テ企業者ノ所有ニ歸シ企業者ノ手ヨリ他ノ生産參與者即チ土地ヲ供シタル地主勞力ヲ供シタル労働者資本ヲ供シタル資本主ノ間ニ分タルモノナリ而シテ分配ノ分量ニ至リテハ企業者ト他ノ生産者トノ間ニ豫メ取結ハレタル契約ニ因リテ定マルモノトス換言スレハ地主労働者資本主カ生産ヨリ得ル所ノモノハ各自當初ニ自由ノ契約ニ因リテ定メタル報酬ニ外ナラス地主ノ得ル所之ヲ地代ト曰ヒ労働者ノ得ル所之ヲ貨錢ト曰ヒ資本主ノ得ル所之ヲ利子ト曰フ而シテ企業者自身モ亦生産ヲ管理シ損益ヲ負擔スルコトニ對シ得ル所アリ之ヲ企業利益ト曰フ但シ實際ニ於テハ資本主ニシテ且ツ企業者タリ地主ニシテ且ツ資本主タリト云フカ如ク一人ニシテ二種以上ノ生産者ノ資格ヲ兼ね隨テ

二種以上ノ報酬ヲ受クル者アルヲ普通トス唯理論上ニ於テ此等ノ資格ヲ分チ又其受クル報酬ヲ分ナ別ニ之ヲ論究スルヲ以テ至當トシ又便利トルノミ地代、賃錢、利子、企業利益ハ各々之ヲ受クル者ノ所得ヲ成ス所得トハ一定ノ期間内ニ吾人ノ所有ニ歸シ別ニ吾人ノ經濟上ノ地位ヲ損セシムテ吾人ノ消費シ得ル經濟的貨財ノ全體ヲ謂フ所得ハ其特質トシテ永續的ノ性質ヲ有スル源ヨリ出テ再三再四繰返シ來ルコトヲ意味ス左レハ所得ハ臨時ニ吾人ノ所有ニ歸スル贈與、遺贈、富籤金ノ如キモノヲ含マス此等ハ吾人ノ收入ヲ成スヘキモ吾人ノ所得ト稱スヘカラス。

所得ハ之ヲ受クル者カ自ラ農工商等ノ事業ニ從事シ其勤勞若クハ所有財產ノ利用ニ因リテ之ヲ得ルコトアリ此場合ニハ之ヲ本源所得ト曰フ又所得ハ之ヲ受クル者ニ於テ報酬ヲ與ヘス他人ノ經濟ヨリ法律又ハ習慣等ノ力ニ依リテ得ルコトアリ此場合ニハ之ヲ引出的所得ト曰ヒ彼ノ公共團體カ人民ヨリ徵收スル租稅ノ如キ又ハ父母カ其子ヨリ受クル一定ノ養料ノ如キ此種ニ屬ス分配篇ニ於テ論スル所ノモノハ皆本源的所得ナリトス。

所得ハ貨幣ヲ以テ得ルコトアリ(貨幣所得又實物ヲ以テ得ルコトアリ(實物所得)實物所得ハ常ニ一樣ナル貨財額ヲ得ルノ便アリ反之貨幣所得ハ貨幣ノ購買力ニ變動アルカ為メ隨テ之ヲ以テ購ヒ得ル貨財額常ニ一樣ナラナルノ不便アリ然レトモ實物ヲ以テセラルヨリモ隨意ニ如何ナル用途ニモ充當シ得ルノ利アリ方今ハ重ニ貨幣所得行ハル

所得ハ全部之ヲ消費シテ吾人ノ生活ヲ維持シ幸福ヲ進ムルコトヲ得ヘク又ハ全部ヲ消費スルコトナク其一部ヲ貯蓄シテ財產ノ蓄積ニ充ツルコトヲ得ヘシ是ニ於テカ知ル所得ノ分配如何ハ貨財ノ消費隨テ吾人ノ肉體的精神的欲望ノ満足ト貨財ノ生産トニ重大ノ關係アルコトヲ

第二章 地 代

夫レ土地ハ自然ノ儘ニテ存在スルコトアリ又ハ其上ニ加ヘラレタル資本ト合シ一體ヲ為シテ存在スルコトアリ前ノ場合ニハ土地ハ純然タル自然ナリ後ノ場合ニハ自然ト資本ヲ兼スルモノナリ然リ而シテ普通ニ地代ト謂フトキハ總

ヲ地主カ其土地ヲ利用セシメタルコトニ對シテ借地人ヨリ受取ル報酬ヲ意味ス隨テ此中ニハ土地改良ノ爲メニ費サレタル資本ニ對スル報酬即チ利子ヲモ包含スルモノニシテ其中ニ該地主又ハ前地主カ排水灌漑施肥等ノ土地改良ニ投シタル資本ノ利子ヲ含ムヤ明カナリ然ルニ經濟學上ニ於テ地代ト稱スルハ普通ノ意義ヨリ一層狹隘ナルモノニシテ資本ニ對スル報酬ヲ合マス單ニ自然トシテノ土地ニ對スル報酬ノミヲ意味スルモノナリ人、財物、勞力、知識、技術等の付加的要素をも含む地代ノ意義此ノ如シ之ヨリ進ミテ地代ノ原則ヲ説明セン。蓋々此ノ如シテノ地代ニ地主ノ勞力ト資本ヲ加ヘテ始メテ吾人ニ收穫ヲ與フ然レトモ若シ此收穫抑モ土地ハ勞力ト資本ヲ加ヘテ始メテ吾人ニ收穫ヲ與フ然レトモ若シ此收穫ニシテ單ニ勞力ト資本ニ對スル普通ノ報酬ヲ償フニ過キナルトキハ地代ハ未タ存セナルナリ然ラハ則チ總テノ土地カ地代ヲ生スルニアラス否土地ニシテ地主ニ地代ヲ與ヘサルモノ亦之アリ地代ハ實ニ下ノ原因ニ由リ下ニ述フルカ如クニシテ發生スルモノナリ。蓋々此ノ如シテノ地代ニ對スル普通ノ報酬ヲ與フニシテノ地代ハ土地ノ生産力ニ自然的差異アルヨリ生ス。今農地ヲ以テ之ヲ言ヘ第一、地代ハ土地ノ生産力ニ自然的差異アルヨリ生ス。今農地ヲ以テ之ヲ言ヘ

六人口尙ホ稀薄ニシテ土地ノ不足ヲ感セス人人優等ノ土地ヲ耕シ得ルトキハ未タ地代ヲ生セス然リト雖モ人口漸々增加シ農產物ニ對スル需要隨テ進ミ優等ナル土地ノ收穫ノミヲ以テハ最早需要ヲ充ス能ハス優等ナル土地ニ不足ヲ告クルニ至リテハ勢ヒ劣等ナル土地ヲモ耕ササルヘカラス劣等ナル土地トハ優等ノ土地ト同一ノ費用ヲ拋フモ收穫ハ却テ少キノ土地ニシテ即チ其收穫ノ生産費ハ之ヲ優等地ニ比シテ割合ニ多キモノナリ而モ此高キ生産費ヲ償フニ足ルニアラサレハ劣等地ノ耕作得テ望ムヘカラス左レハ需要ノ增加起ルトキハ農產物ノ價ハ一般ニ騰貴シ劣等地モ生産費ヲ償ヒテ耕作セラルルニ至ル是ニ於テカ優等ナル土地ヲ所得スル地主ハ別ニ資本ヲ投セスシテ特別ノ利益ヲ受クルコトト爲ル此利益ハ即チ地代ナリ簡單ナル例ヲ取リテ説明センニ五圓ノ費用ヲ投シテ米二斗ノ收穫アル甲ノ土地ト米一斗ノ收穫アル乙ノ土地アリト假定セヨ米一斗ノ價ニ圓五十錢ナルトキハ甲ノ土地ノミ耕作セラレ其地ニハ地代ヲ生セス然ルニ需要增加シ米價騰貴シテ一斗五圓ト爲ルトキハ乙地モ亦耕サルルニ至リ其結果トシテ甲地ノ地

主ハ坐ナカラ五圓ノ利ヲ得ヘシ是レ即ナ地代ニシテ地主ノ所得ニ歸スルモノナリ是ニ依リテ之ヲ觀レハ優等地ノ地主カ其土地ヨリ得ル所ト劣等地ノ地主カ其土地ヨリ得ル所トノ差ハ即チ地代ナリ尙ホ之ヲ精密ニ言ヘハ最劣等地(既耕地中ノ最劣ノ土地ノ謂ニシテ單ニ生産費ヲ償フニ足リ地代ヲ生セサルノ地)ヨリ得ル所ト之ヨリモ優等ナル土地ヨリ得ル所トノ差額ハ即チ地代ナリトス

第二地代ハ位置ニ便否ノ差アルヨリ生ス。土地ニハ農產物其他ノ貨物ヲ賣捌キ又ハ農工商業用住宅用ノ家屋ヲ建築スル上ニ於テ便利ナル位置ニ在ルモノアリ然ラサルモノアリ是レ亦地代ヲ生スル原因ナリ例へハ都會ノ近郊ニテ產出スル農產物ヲ以テハ最早都會ノ需要ヲ充スニ足ラナルトキハ農產物ノ價ハ昇騰シ遠方ニテ同様ノ生産費ヲ投シテ產出セル農產物ヲ都會ニ運搬シ來ルモ生產費ハ勿論運搬費ヲモ償フニ至ルヘシ事茲ニ至ルトキハ都會ノ近隣ノ耕作地ハ少クモ運搬費丈ノ利益ヲ得ルコトト爲ルヘシ是ヲ以テ地位ノ宜キヨリ地代ヲ生スルコトヲ知ルヘシ唯リ耕作地ニ限ラス總テ貨財ノ

販賣製作上便宜ノ地位ニ在ルモノハ地代ヲ生スルモノナリ
地代ヲ生スル土地ノ地主カ自ラ其土地ヲ耕作シ又ハ使用スルトキハ地代ハ地主ノ所有ニ歸スルヤ勿論ナリト雖モ土地ヲ他人ニ貸與シタルトキニ於テモ地代ハ結局地主ニ歸スヘシ何トナレハ此ノ如キ優等ノ土地ハ其分量ニ限アリ然レトモ之カ貸與ヲ望ム者ハ通例多クシテ其人人ノ間ニ競争行ハルレハナリ但シ小作期限内又ハ貸與期限内ニ生シタル地代ノ増加ハ小作人其他ノ借地人ニ歸スヘキモ其期限満了後ニハ小作料又ハ借地料ノ引上ニ因リテ該地代ノ増加ハ亦地主ニ歸スヘシ
要之地代ハ一定ノ土地ノ收穫ト最劣等地ノ收得トノ差額ナリ或ハ曰ク地代ハ生産費ニアラスト是レ蓋シ最劣等地即チ地代ナキ地ノ生産費カ總テ農產物ノ價格ヲ支配スレハナリ又或ハ曰ク地代ハ農產物ノ價格ノ原因ニアラシテ結果ナリト是レ蓋シ農產物ノ價昇騰シ其結果トシテ劣等地ヲ耕シ地代ヲ生セシムルニ至レハナリ二者共ニ前ニ述ヘタル所ト同一ノ意味ヲ繰返スモノナリ
以上述ヘタル地代ニ關スル學說ハ其源ヲ「スマス」ニ發シ「アンダーソン」「マールサ

ス之ヲ祖述シ遂ニ「リカード」ニ至リ最モ明瞭精細ニ論究セラレタル所ニ係ル隨テ後世「リカード」ノ地代説トシテ頗ル有名ナリ此學說タルヤ佛國ノ學者バヌチエー氏米國ノ學者ケリー氏等其反對者モ少カラスト雖モ多數ノ經濟學者ノ贊同スル所ナリトス又其後日英國ノ地主階層英國國王及王室財產ノ地代ハ之ヲ取得スル地主ノ勤ニ因リテ生スルモノニアラス人人ノ增加需要ノ增進ヲ外部ノ事情ニ促サレ自然的差異ニ基キテ生シタルモノナリ是ニ於テカ地代ヲ一箇人ノ所有ニ歸セシムルヲ以テ不當ナリトシテ二箇ノ説顯ハレタリ第一説ハ土地ニ課稅シテ地主ノ收ムル地代ヲ取立ツヘシト云フモノナリ是レ英ノ「ミル」佛ノ「ウォルコフ」米ノ「ヘンリ」、「ジョージ」等ノ主唱スル所ナリ然レトモ通常地代謂ヒ小作料又ハ借地料ト謂フモノノ中ニハ努力資本ニ對スル報酬ヲモ包含シ精確ニ純然タル地代ノミヲ引キ離シ難シトス隨テ此説ハ實行シ得サルナリ第二説ハ即チ土地國有論ナリ土地私有ノ制ヲ廢スヘシトハ唯リ社會主義者ハ主張スル所ナルノミナラス其他ニ於テモ例へハ獨ノゴフセン「スタム」「ヘルツカ英」「ワーレース」等ノ論スル所ナリ蓋シ土地ノ國有ハ地代ノ發生

ヲ妨クル能ハス唯地代ヲ社會全體ノ手中ニ歸セシムルニ止マル今夫レ一朝土地ノ國有ヲ斷行セントスルモ地主ニ十分ノ報酬ヲ與ヘテ買上ケントスルトキハ非常ニ巨大ノ金額ヲ要シ政府ハ財政上何ノ益スル所ナカルヘシ縱令買上ノ後地代ハ益昇騰シ達キ將來ニ於テ益スル所アリトスルモ此利ハ能ク土地カ官業トシテ官吏ニ由リテ管理セラレ小作人タル農夫カ土地ヲ耕スヨリ生スル不利益ヲ償フニ足ルヤ疑ナキ能ハサルナリ

第三章 貸 錢

第一節 貸錢ノ意義

廣ク貸錢ト謂フトキハ自己ノ事業ノ爲メニスルト將タ他人ノ事業ノ爲メニスルトヲ問ハス總テ身體精神ヲ勞シタルヨリ生スル所得ヲ指スモノナリ此意義ニ依レハ貸錢ハ啻ニ他人ニ雇ハレテ肉體的労力ニ服スル勞働者ノ所得ノミナラス企業者カ自己ノ計畫ニ係ル經濟事業ヲ經營管理スルノ勞ニ對スル報酬官吏公吏ノ受クル俸給醫師辯護士美術家音樂技術家ノ受クル謝儀給料ヲモ包含

スルモノナリ然ルニ企業者カ自己ノ勞ニ對シテ受タル報酬ハ企業者ノ得ル全所得即チ企業利益ノ一部ヲ成シ獨立ノ形ヲ顯ハサヌ又官吏、公吏ノ俸給ハ法律ヲ以テ一定セラル所ニシテ安ニ人人間ノ合意ヲ以テ變更スルヲ得反之醫師、護士等ノ受タル謝儀給料ハ此等ノ人人ト相手方トノ自由意思ニ因リテ定ムルヲ得ルモノナリト雖モ元來此等人々ノ爲ス勞力ハ精神的勞力若クハ豫メ深奥ナル修練ヲ要スル勞力ニシテ殊ニ又此等人士ノ社會上ニ占ムル地位モ低カラナルヲ以テ其勞力ニ對スル報酬モ單ニ一時一箇人ノ經濟上ノ損得ノ考ニ由リテ支配セラレスシテ大ニ習慣道德等ノ影響ヲ受ケテ定マルモノナリ然リ而シテ貨錢中實際最モ重要ナルモノハ肉體的ノ勞力ニ服スル被雇労働者ノ貨錢ナリ何トナレハ此等労働者ハ實ニ人民ノ大部分ヲ相成シ其得ル所ノ貨錢ハ即チ其生計ヲ支持スルノ手段ナレハナリ以下此章ニ於テ貨錢ト謂フハ之ヲ指スモノト知ルヘシ

第二節 貨錢支拂ノ形式

貨錢ハ勞力ノ利用ニ對シテ支拂ハルル價格ナリ今貨錢支拂ノ形式ヲ觀ルニ種種ノ差異アリタ一樣ナラス隨テ亦貨錢ニ種種ノ種類ヲ生ス

先ツ約定ノ貨錢ヲ貨幣ニテ支拂フカ又ハ衣食住其他ノ貨財ニテ支拂フカニ由リテ貨錢ニ貨幣貨錢ト實物貨錢ノ別アリ交通ノ未タ發達セザル時代ニ於テハ實物貨錢一般ニ行ハレタルモ交通ノ便開ケタル今日ニ在リテハ貨幣貨錢重ニ行ハル但シ今日ト雖モ一家内又ハ農業等ニ在リテハ尙ホ實物貨錢ノ痕跡ヲ止ム』貨幣貨錢及ヒ實物貨錢ノ別ト混同スヘカラナルモノハ名義上ノ貨錢及ヒ實際上ノ貨錢ノ別ナリ名義上ノ貨錢トハ勞働者カ現ニ貨幣若クハ貨財ヲ以テ受取ル貨錢高ヲ謂ヒ實際上ノ貨錢トハ勞働者カ其受取レル貨錢ヲ以テ取得シ得ル貨財ノ高ヲ謂フ元來貨財ノ價格ハ處ヲ異ニシ時ヲ異ニスルニ依リテ相違アルカ故ニ或處、或時ノ貨錢ヲ他ノ處、他ノ時ノ貨錢ト比較スルニ當リテハ常ニ此區別ニ注意セサルヘカラヌ蓋シ名義上ノ貨錢ハ相同シキモ之ヲ以テ所得シ得ル貨財ノ高ニ相違アルトキハ之カ爲メニ大ニ勞働者生計ノ狀態ニ相違ヲ來スヘケレハナリ

次ニ賃錢ハ時間ニ依リテ支拂ハルルモノアリ之ヲ時間賃錢ト曰フ又仕事出來高ニ依リテ支拂ハルルモノアリ之ヲ仕事賃錢ト曰フ仕事賃錢ノ方法ニ依ルハ労働者各自ノ爲シタル仕事ヲ明白ニ計リ得ヘキ場合ニ限ル之ヲ計ルコト能ハサレハ時間賃錢ノ方法ニ依ラサルヘカラス勞働者ヲシテ時間賃錢ノ下ニ勤勉其職ニ從事セシムルニハ監督ヲ嚴ニスルヲ要ス仕事賃錢ノ方法ニ依ルトキハ其必要ナク労働者自身ニ爲ス儘ニ放任シテ差支ナシ何トナレハ多ク勤ケハ多クノ賃錢ハ得ヘケレハナリ然レトモ仕事賃錢ノ弊トシテ労働者カ物品ノ品質ヲ粗惡ニシ又過度ニ勞働シテ健康ヲ傷フノ虞アリ

又賃錢支拂ノ形式ニ賞與法ナルモノアリ雇主カ労働者ヲシテ其仕事ニ出精セシメ又ハ原料器具ノ使用ニ注意セシメ又ハ長ク其職ニ止マラシメンカ爲メ特別ニ出精セル労働者原料ノ消費又ハ器具ノ損失ヲ節約セル労働者永ク勤續セル労働者ニ對シ一定ノ賃錢ノ外ニ賞與金トシテ特別ノ報酬ヲ與フルコトアリ是レ即チ賞與法ナリ又利益配分法ト稱スルモノアリ即チ雇主カ労働者ニ對シテ一定ノ賃錢ヲ支拂

第三節 賃錢ノ決定

フノ外ニ其事業ヨリ生シタル利益ノ一部ヲ配分スルモノ是ナリ此方法ニ依ルトキハ労働者ハ利害ハ多少企業人利害ト相一致シ之ヲ一定ノ賃錢ヲ受クルノ外労働者カ事業ノ盛衰ニ頗ル冷淡ナル場合ニ比スレハ労働者カ其職ニ勉ムルコト尠少ニアラサルヘク労働者ト企業者トノ衝突モ亦爲ミニ和グラルヘシ

貸錢ヲ支拂フ者ナカルヘシ而シテ雇主カ勞力ノ價値ヲ判定スルノ標準ハ何ナリヤト云ニ是レ此勞力ヲ以テ作り出サル貨財ノ交換價値其實際ニ顯ハレタル貨財ノ價格ニ外ナラスシテ勞働者ノ爲ス勞力ハ同一ナルモ貨財ノ價格高ケレハ企業者ニ取リテ勞力ノ價値多ク貨財ノ價格低ケレハ勞力ノ價値亦少シ此ノ如ク勞力ノ價値判定ノ標準へ貨財ノ價格ニ在レトモ元來貨錢ハ生產費ノ一部ニシテ器械ノ修理費資本ノ利子等貸錢以外ノ生產費モ之ヲ貨財ノ價格ヨリシテ之ヲ補ハサルヘカラサルカ故ニ實際企業者ハ貨錢以外ノ生產費ヲモ考ヘテ貨錢ニ充フヘキ高ヲ定ムルモノナリ而シテ貨錢ハ其昇騰ノ極雇主ヲシテ毫モ純益ヲ得ル能ハサルニ至ラシムルコトヲ得ヘシト雖モ其點以上ニハ長ク止マルコトヲ得ス何トナレハ事茲ニ及ヘハ雇主ハ損失ヲ被リ早晚事業ヲ廢止スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘケレハナリ

第二企業者ノ資力 企業者カ生產上要シタル資本ハ再ヒ之ヲ生産物ヨリ回收入スルコトヲ得ヘク殊ニ又自己ノ財庫ナキトキハ信用ニ依リテ他ヨリ資金ヲ借入レテ貨錢ノ支拂ニモ充テ得ヘキカ故ニ企業者ノ資力ノ如何ハ別ニ貨錢ハナリ

第三勞力ノ生產費 勞力ノ生產費ハ(一)勞働者ノ養育教育ノ費用ヲ含ム 労働者カ其幼少ノ時ニ受ケタル養育教育ノ費用ハ之ヲ貨錢ヨリ回收サルヘカラス形容シテ言ヘハ是レ恰モ投下シタル資本ヲ利子ト合セテ回收スルノ趣アリ(二)ニ其時、其處、其勞働者社會ニ行ハル生活ノ程度ニ應シテ必要ナル自己及ヒ家族ノ生計費ヲ含ム 勞働者ハ自己並ニ家族ノ生活上是非トモ缺クヘカラサル必要費ヲ得サルヘカラサルヤ勿論ノコトナレトモ啻ニ之ニ止マラス當時其勞働者社會ニ於テ習慣トシテ行ハル生活ノ程度ニ照シテ要スル費用ハ之ヲ貨錢ヨリ得サルヘカラス生活ノ程度ヲ降スコトハ唯タ外ニ對シテ大ニ面目ヲ損スルノミナラス自己一身ニ取りテモ頗ル苦痛

ヲ感スルコトナレハ生活ノ程度ハ實ニ労働者ガ固ク守リテ屢セス賃錢ヲシテ其以下ニ下ラサラシメント努ムルノ點ナリ左レハ亦賃錢ノ增加アリタルトキ長ク之ヲ維持セントセハ労働者カ其生活ノ程度ヲ高ムルニ如クモノナシ

右述ヘタル労力ノ生産費ト賃錢ノ關係ハ所謂「リカード」ノ賃錢法則ノ基ク所ナリ「リカード」氏ノ言フ所ニ據レハ労力ノ價格即チ賃錢ハ恰モ物品ノ價格ノ如ク其生産費ニ據リテ決セラル該生産費ハ即チ労力ノ自然ノ價格ニシテ需要ト供給ノ關係ニ因リテ實際労力ニ對シテ支拂ハル賃錢(即チ労力ノ市價)ハ此自然ノ價格ノ上下ニ昇降スルモノナリトセリ此說タルヤ當ニ多クノ經濟學者ノミナラス又社會主義者ノ採用スル所ト爲リ彼ノ社會黨ノ領袖株ナル「ラッサル」氏ノ如キハ之ヲ呼ヒテ是レ今日賃錢ヲ支配スル冷酷金ノ如キ法則ナリト言ヘリ同氏ハ尙ホ説明シテ曰ク「賃錢ハ到底永ク此平均點以上ニ昇ルコト能ハス何トナレハ賃錢其以上ニ昇リ労働者ノ位置少シク安易ト爲レハ労働者ノ人口增加シ隨テ労力ノ供給増進シ爲メニ再ヒ賃錢ヲシテ從前人

所マテ若クハ其以下ニ下落セシムヘケレハナリ又賃錢ハ長ク此生活上缺々ヘカラナル維持費以下ニ下ルコト能ハス何トナレハ賃錢其以下ニ下ルトキハ移住又ハ結婚ノ抑止、困窮ニ因ル労働者ノ減少等ノ爲ミニ労力ノ供給ニ減少ヲ來シ隨テ賃錢ヲシテ再ヒ從前ノ位置ニ復セシムヘケレハナリト氏ハ此理ニ據リテ更ニ「労働者ナル者ハ常に同家ノ生計ノ程度ノ下ニ愚蠢トシテ動ク所ノ憐レ果敢ナキモノナリ」と斷言セリ蓋シ「リカード」カ労力ノ自然ノ價値クヤ恰モ之ヲ一定不動ノモノノ如ク論シタル所偶、以テ「ラッサル」カ之ニ據リテ自家ノ社會主義説ヲ唱フルノ具ト爲スニ至タルモノナリ然レトモ元來労働者ノ生計ノ程度ハ一定不變ニアラス時勢ノ進歩ト共ニ漸漸亦昇騰スルコト之ヲ事實ニ照スモ明白ナリ況ヤ労働者自身ノ行爲ニ由リテ之ヲ高みバコトモ爲シ得ヘキモノナルニ於テフヤ

第四賃錢ノ價值 労働者カ其受クル賃錢ノ價值ヲ量ルニ當リテハ先ツ(第一)ニ其賃錢ヲ以テ若干ノ欲望ヲ満シ得ヘキヤフ考フヘシ若シ夫レ今日通例賃錢ヲ支拂ニ充ラルル貨幣ノ價值(即チ其購買力)低キトキハ賃錢ハ高カラサル

ヲ得ス反之貨幣ノ價值高キトキハ賃錢ハ低タシヲ可ナリ左レハ貨財ノ物價殊ニ食料品ノ價安キトキハ賃錢モ亦下落スルノ傾アリ反之其價高キトキハ賃錢モ亦騰貴スルノ傾ヲ生ス(第二ニ又追次賃錢增加ノ見込アルヤヲ考フヘシ漸漸増シ行ク賃錢ハ終始一樣ナルモノヨリモ初ハ少額ニテモ可ナリ即チ増加ノ見込アル賃錢ハ労働者ニ取リテ價値多キ賃錢ナリ(第三ニ賃錢ハ正確ニ又長ク支拂ハルヘキヤヲ考フヘシ支拂ノ不確カナルカ又ハ永續ノ見込ナキ賃錢ハ支拂ノ正確ニシテ又永續ノ見込アル賃錢ヨリモ労働者ニ取リテ價値少ナキモノナリ

第五、需要ノ競争一定ノ企業ニ於テ労力ニ對スル需要ノ競争ハ賃錢ヲ昇騰セシムルノ傾アリ然リ而シテ労力ニ對スル需要ニバ時々變動アルコト言フア埃タス此變動タルヤ或ハ技術上ノ原因ヨリ起ルコトアリ例へハ機械ノ使用ノ爲ニ職工ノ需要ニ減少フ來ス如キ是ナリ又或ハ經濟上ノ原因ニ基クコトアリ例へハ事業ヨリ生スル利益增加シ爲メニ労力ニ對スル需要亦増進スルカ如キ是ナリ

第六、供給ノ競争 労力ノ供給ノ競争ハ賃錢ヲ下落セシムルノ傾アリ殊ニ非修練的労力ノ場合ニ於テ甚シトス何トナレバ此種ノ労力ニ在リテハ何人モ容易ニ競争ノ群中ニ加ハルコトヲ得ヘケレハナリ
要之以上種種ノ原因交相倚リテ賃錢ノ額ヲ定ムルモノナリ但シ道徳習慣其他經濟以外ノ原因ニシテ賃錢ニ影響ヲ及ボスモノ亦多シト雖モ此等ハ始ク之ヲ度外視スルコト尙ホ前ニ一般貨財ノ價格ヲ論シタル場合ニ同シトス

第四節 賃錢基金說

賃錢ハ先づ以テ企業者ノ資本中ヨリ支拂ハルモノナリ然ルニ此資本ハ一定ノ時期ニ於テ其額一定ストノ思想ヨリ「ミル」氏ハ賃錢基金說ヲ唱出セリ此說ニ據レハ賃錢ノ高ハ賃錢ノ支拂ニ充ナラル全資本額即チ賃錢基金ニ關係ヲ有スルモノニシテ此基金ト労働者ノ人口トノ比例ニ因リテ定マルモノナリ労働者ノ數ヲ以テ賃錢基金ヲ除シテ得タルモノハ即チ労働者ノ得ル平均ノ賃錢高ナリ但シ此基金ハ一定不動ノモノニアラスシテ貯蓄及ヒ富ノ増殖ニ因リテ

增加ス而シテ基金增加シ而モ之ニ伴ヘル勞働者人口ノ增加ナキトキニ於テ始メテ一般ニ貸錢ノ昇騰ヲ見ルヲ得ヘシ基金ノ増加ナキニ一部ノ勞働者カ貸錢ノ増加ヲ得ルトキハ是レ他ノ勞働者ニ對スル基金高ヲ減少シ其貸錢ノ下落ヲ來スヘキカ故ニ他ノ勞働者ヲ害スルモノナリト爲セリ
貸錢基金說ハ『ソルントン』氏ノ攻擊ニ由リテ「ミル」氏自身モ晩年ニ至リテ之ヲ捨テタルモノニシテ「ソルントン」氏ノ外獨「ヘルマン」「ロドベルフス」「ブレンノ」諸氏モ亦此說ヲ論駁シ今日ニ於テハ英國ノ經濟學者ト雖モ全然之ニ同意ヲ表スルノ人ナシ抑モ勞働者ノ受取ル貸錢ハ其外見ニ於テハ企業者ノ資本ヨリ拂渡サルルコト通例ナリト雖モ勞働者ハ必シモ生産ノ終了以前ニ於テ企業者ノ資本ヨリ貸錢ヲ受取ルニ及ハス自己ニ多少ノ貯蓄アルトキハ之ヲ以テ自ラ支持シ生産終了シ生産物ニ對スル代價カ企業者ノ手ニ入りタル後ニ於テ其價ノ中ヨリ約定ノ貸錢ヲ受取ルモ何ノ妨ナカルヘシ況ヤ又企業者カ其資本中ヨリ貸錢ヲ支拂フ場合ニ於テモ貸錢ノ真ノ出處ハ企業者ノ資本ニアラヘシテ生産ノ價格更ニ迦リテ言ヘハ該生産物ヲ買ヒテ其代價ヲ支拂フ消費者ノ

所得ニ在リ企業者ハ單ニ他日ノ回収ヲ豫期シテ貸錢ヲ前拂スルニ過サルニ於テアヤ且ツ又企業者ハ自己ノ手中ニ於テ貸錢ノ支拂ニ充ツヘキ十分ノ貸錢ナキトキハ信用ニ依リテ他ヨリ借入レテ之ニ充フルコト最モ容易ナルヘシ要スルニ企業者ノ資本中ニ於テモ又國民全體ノ資產中ニ於テモ一定ノ時ニ貸錢ノ支拂ニ充テラルモノト豫メ確定セラルヘキ基金ナルモノアルコトナ

第四章 利子

利子ハ資本ヲ利用セシメタル報酬トシテ資本主ノ受クルモノナリ利子ハ貸渡サレタル資本例ヘハ器具機械等ノ損傷減却ニ對スル補償ヲ含マス單純ニ資本ノ利用ニ對シテ支拂ハルル價格ノミヲ指スモノナリ而シテ資本額ト之ニ對シテ一年ノ間ニ支拂ハルヘキ利子トノ比例之ヲ利子歩合ト曰フ例ヘハ百圓ニ對シ利子トシテ年ニ七圓支拂ハルトキハ其利子歩合ハ七分十圓ナルトキハ一割ト云フカ如シ哉或人或人固亦資本ノ報酬ニ極めて支拂ハムハ其合て之實質

利子ハ器具機械建物ノ如キ固定資本ノ利用ニ對シテ支拂ハルル場合アリ(貨貸借料又流動資本即チ原料貨幣等ノ借入ニ對シテ支拂ハルル場合アリ)貨幣ノ借入ニ對シテ支拂ハルル場合ニハ特ニ之ヲ貸金利子ト曰ヒ最モ普通ニ見ル所ノモノナリ

利子ハ資本ノ利用ニ對シテ支拂ハルル價格ニシテ此價格ノ決定ヲ支配スル原因ハ總テ他ノ場合ニ於ケルモノト異ナルコトナシ即チ下ノ如シ第一、借主ニ對スル資本ノ價值 生産ニ使用スルカ爲ミニ若クハ其他ノ目的ヲ以テ資本ヲ借受ケントスル人ニ取リテ其資本ノ價值多ケレハ彼ハ高キ利子ヲ拂フニ躊躇セサルヘシ

第二、借主ノ資力 借主ノ資力即チ元利ヲ支拂ヒ得ルノ力ハ一方ニ於テハ其財産ノ多少ニ關係ヲ有シ他方ニ於テハ借入資本ノ使用ニ因リテ取得シ得ヘキ利益ノ多少ニ關係ヲ有ス自己ノ消費ノ爲ミニ資本ヲ借入ル場合ニ於テ資產アル者ハ高キ利子ヲ支拂フヘク生産ノ爲ミニ借入ヲ爲ス場合ニ於テ借入資本ニ依リテ多クノ利益ヲ得ルノ見込アル者ハ高キ利子ヲ支拂フヘシ但シ

實際ニ於テ資力アル者カ資力ノ少キ者ヨリモ却テ少キ利子ヲ支拂フハ他ノ理由ニ因ルモノナリ
第三、資本利用ノ生產費 資本主カ他人ヲシテ其資本ヲ使用セシムルニ付テハ自己自ラハ之ヲ使用セサル苦ヲ忍ハサルヘカラス且ツ幾分ノ危險ヲ冒スモノナリ此等ハ即チ資本主ノ負擔スル犠牲ニシテ彼ハ之ヲ利子ヨリ同收セサルヘカラス左レハ資本利用ノ生產費ハ
(イ)自ラ資本ヲ利用セサルノ忍苦ニ對スル補償
(ロ)危険ニ對スル保険料
ヨリ成ル保険料ハ利子ノ額ニ大關係ヲ有スルモノニシテ借主一身上ノ性質ニ因リ又ハ借入レノ目的ニ因リ又或ハ法律保護ノ狀況ニ因リテ資本主カ元金ノ償還又ハ利子ノ正確ナル支拂ニ十分ノ信用ヲ置ク能ハサル場合ニハ利子ハ勢ヒ高カラサルヲ得ス但シ此保険料ハ借主ニ於テ十分ノ擔保ヲ供スルトキハ殆ト利子ノ中ヨリ取去ルコトヲ得ヘシ

第四、支拂ニ供セラルモノノ價值貨金ノ場合ニハ貨幣ノ價值

第五資本主義競争、其の社會實業、社會資金、社會之貨物分配論 利子

第六資本ニ對スル需要ノ競争、失業者、勞働者、勞動者、利子ハ此等ノ原因ニ由リテ支配セラルモノナリトセハ當ニ知ルヘシ資本尙ホ未タ勤ク法律ノ保護尙ホ未タ完備セラレ信用ノ組織整ハサル未開拓狀態ニ在リテハ一般ニ利子高ク又開明國ニ於テモ内亂外患等ノ爲メニ社會ノ秩序亂レタルトキ若クハ鐵道熱等ノ爲メニ資本ノ需要著シタ增進シタルトキニ於テ利子著シク昇騰スルノ理ノ當ニ然ルヘキコトヲ

利子ハ文明ノ進歩ト共ニ漸次下落スル趨勢アリ是レ蓋シ社會文明ニ進メハ法律ノ保護具ハリ隨テ危險ニ對スル保險料ヲ減シ且フ技術ノ進歩、交通機關ノ發達、販路ノ擴張、信用制度ハ完備等ニ因リテ資本人供給增加シ又圓滑ニ行ハルニ至レバナリ。此後利子之急激な上昇を恐れ、或は是且フ長期の貯蓄、貿易利子ハ又一國一經濟社會ニ於テ相平均スルノ傾向アリ何トナレハ他ヨリ割合ニ高キ利子ヲ生スルモノアレハ資本ハ茲ニ流入シ又他ヨリ割合ニ低キ利子タニ生セサルモノアレハ資本ハ漸漸茲ヨリ流出スベケレハナリ然ルニ方今世界

の交通ノ發達ハ資本ヲシテ利子ノ低キ國ヨリ其高キ國ニ就クヲ得セシメ利子平均ノ此傾向モ亦世界的ト爲ルノ機運ニ向セツラアリトス

第五章 企業利益

第三企業利益 企業ノ營利、販賣大々リオモヘテ、製造ノ部門、事業ニ企業利益ハ企業者ノ受クル所ノ報酬ニシテ生産物ノ價ヨリ一切ノ生産費ヲ引去リタル剩餘即チ是ナリ若シ企業者ニシテ此生産費ヲ償フコト能ハナランカ企業者ハ企業利益ヲ得シテ却テ損失ヲ被ルモノナリ。此大體、營利者ニ企業利益ハ二ツノ要素ヨリ成ル

(一)事項ノ管理監督ノ勞ニ對スル報酬、是レ最モ廣キ意義ニ於テ所謂質錢ノ一種ナリ且フ此報酬ハ此勞力ヲ或人ニ委託シテ行ハシムル場合ニ於テ其人ニ與フル報酬ニ據リテ計ルコトヲ得ヘシ。報酬者、監督者、執行者、企業利益ノ高低ニ影響ヲ及ボス所ノ事項種種アリト雖モ其重ナル者ヲ翠クレ即ナ是ナリ。高級、陳子類々企業家、監督者、執行者、企業管理者、取締役、企業利益ノ高低ニ影響ヲ及ボス所ノ事項種種アリト雖モ其重ナル者ヲ翠クレ

天下ノ如々高利子ヲ得テ其資本家又ハ労力者ニシテ自ラ企業者ト爲ル者顯ハレ出テ爲メニ企業者ノ競争激甚ト爲リ利子高マリ企業利益下ルヘシ反之利子高ク企業利益低ケレハ從來ノ企業者ニ取リテハ資本ノ利用困難ト爲リ又新ニ企業者タラントスル者少ク爲メニ利子下リ企業利益上ルヘシ

第二、貯錢ノ高低 貯錢高クレハ労力者ニ貯蓄ノ餘裕ヲ生ス隨テ労力者ニシテ其貯蓄シタル所ノモノヲ以テ自ラ企業ニ從事スル者アルニ至ル是ニ於テ企業者間ニ競争ノ度ヲ高メ企業利益減少スルニ至ルコトアルシテ其損益を計第三、企業ニ伴フ危險ノ大小 企業ニ伴フ危險大ナルトキハ勢ヒ此種ノ事業ニ從事スル者少ク隨テ企業利益モ大ナリ

第四、企業ノ大小 大企業カ小企業ニ比シテ生産及販賣上有スル長所ハ企業利益ヲ大ナラシムルコトヲ得ルナリ

第五、企業者ニ必要ナル性質 企業ノ經營容易ナラス企業者ノ具フヘキ性質モ重大ナルトキハ企業者ノ數ニ自ラ限アリ隨テ其企業利益ハ大ナルヘシ

第六、獨占 事實上又ハ法律上獨占ノ業務ニ在リテハ企業利益ヲ多カラシムルコトヲ得ヘシ

企業利益ハ相平均スルノ傾向アリ然レトモ其實際ニ顯ハルルヲ妨クル種種ノ事情アリ即チ

(イ) 一一事業ニ付テ其企業利益ヲ知ルノ難キコト

(ロ) 事業ニ因リテ特別ノ資本ヲ要スルコト例ヘハ紡績業ニ從事スル者カ製紙業ノ利益多キヲ見テ之ニ轉セント欲セハ紡績機械ヲ賣リ更ニ製紙機械ヲ買入レサルヘカラス之ヲ爲スニハ往往大ナル損失ヲ受クヘシ

(ハ) 事業ニ因リテ特別ノ經濟上、技術上ノ智識、技能ヲ要スルコトニ及ベ
等是ナリ此等ハ皆容易ニ轉業ヲ許ナナル事情ナリ左レハ資本カ事業上重キ
爲ササル場合或ハ速ニ大ナル損失ヲ被ラスシテ資本ノ形ヲ變ヘ得ヘキ場合若
クハ容易ニ尋常ノ智識、技能ヲ修メ得ヘキ場合ニ於テハ企業利益ノ平均ヲ見ル

三至四コト易ガルベシト雖モ然ニガル場合ニ於テハ企業利益ノ平均容易ニ望ムヘカラナルナリ爰ニ太々急進夫ニ無念ニ及本入選ニ要ニ置カ得合併議テ歴史的ニ企業利益變動ノ趨勢ヲ觀ヘ企業利益ハ漸漸低落スルノ傾アリ是レ蓋シ教育ノ進歩、危險ノ減少、資本ノ增加ニ伴フ利子ノ下落等ニ原因スル唯ノナリトスセハヤマニシニ當ニシテ資本大主者屢次其交渉ニ及ベ

(此)事業ニ關ニシテ供給、資本ニ要ニシテ、計ヘハ該事業ニ當事大ニ掛ケ標榜(第)一、事業ニ付支其金額既定時、其額既定者ニ付ス。諸ノ努力者ニシテ車輛、機械、所ノカノノ以ノ爲ニ企念、其額ニ付ス。而所是ニ付ス。全額運送会社付半載又ハ、期滿後、期滿後付半載又ハ、其下運送会社付半載又ハ、期滿後付半載又ハ、其額既定者ニ付ス。而所是ニ付ス。車輛、機械、所ノカノノ以ノ爲ニ企念、其額ニ付ス。而所是ニ付ス。全額運送会社付半載又ハ、期滿後、期滿後付半載又ハ、其下運送会社付半載又ハ、期滿後付半載又ハ、其額既定者ニ付ス。而所是ニ付ス。車輛、機械、所ノカノノ以ノ爲ニ企念、其額ニ付ス。而所是ニ付ス。

經濟學各論終

○ 壱 告

明治三十五年一月二十八日印刷
明治三十五年一月二十九日發行

三十四年度乙種講習科講
義錄八去ル十一月ヲ以テ
完結スヘキ筈ノ處講師ノ
公務多忙且印刷上ノ都合
等ノ爲メ遲延相成居候ヘ
トモ來ル二月マテニハ全
部完結可致候間御諒承相
成度此段稟告候也

明治三十五年一月

和佛法律學校

發行所 指定司法省
東京市麹町區富士見町六丁目十六番地
(電話番町百七十四番)

印 輯 者 東京市牛込區穴茶町三番地
松 田 久 次 郎
印 輯 所 東京市芝區西久保明舟町十一番地
金 子 活 版 所 東京市麹町區富士見町六丁目十六番地
小 宮 山 信 好

明治二十二年十二月九日內務省許可